平成 27 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2016

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ.平成27年度事業概要 …… 1
調査の理由と工程 …… 2
平成27年度調査遺跡位置図 …… 4

Ⅱ.遺跡調査の概要 …… 7
稲沢市　北丹波・東流遺跡 …… 8
安城市　下懸遺跡…… 10
豊田市　東小笹遺跡（範囲確認調査） …… 11
西尾市　岡山南遺跡…… 12
岡山南遺跡（範囲確認調査） …… 13
設楽町　笹平遺跡…… 14
川向東貝津遺跡 …… 24
滝瀬遺跡 …… 30
大栗遺跡 …… 32
大名倉丸山遺跡 …… 34
大名倉遺跡ほか14遺跡（範囲確認調査） …… 35
Ⅲ.刊行報告書抄録 …… 45
第199集　東下地遺跡…… 46
第202集　八巻古窯跡…… 48
第203集　伝法寺野田遺跡Ⅱ…… 50
第205集　野添遺跡…… 52
第206集　多り畑遺跡…… 54

Ⅳ.埋蔵文化財展・考古学セミナーの記録 …… 57
平成27年度埋蔵文化財展等の活動について …… 58
第４回 考古学セミナー「あいちの考古学2015」の記録 …… 62

Ⅴ.埋蔵文化財センターの活動 …… 67
資料の貸出・提供 …… 68
ホームページ …… 70
地元説明会・遺跡報告会…… 73
報告書作成および発掘調査現場における遺構・遺物の指導 …… 73
その他普及事業 …… 73
平成27年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧 …… 74

Ⅰ. 平成 27 年度事業概要

調査の理由と工程

1. 発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積（㎡）	調査期間	調査担当
県建設部 都市整備課	一宮 建設事務所	街路改良工事 （都）名古屋岐阜線	北丹波・東流遺跡	390	平成 27 年 5 月 ～平成 27 年 7 月	永井宏
県建設部 道路建設課	西三河 建設事務所	道路改良工事 西尾幡豆線	岡山南遺跡 （範囲確認）	100	平成 27 年 5 月 ～平成 27 年 6 月	池本
	西三河 建設事務所	道路改良工事 西尾幡豆線	岡山南遺跡	850	平成 27 年 6 月 ～平成 27 年 9 月	池本
県建設部 河川課	知立 建設事務所	中小河川改良事業 （鹿乗川）	下懸遺跡	280	平成 27 年 11 月 ～平成 27 年 12 月	松田
国土交通省 中部地方整備局	名四国道 事務所	国道 153 号 豊田北バイパス	東小笹遺跡 （範囲確認）	30	平成 27 年 5 月	早野
国土交通省 中部地方整備局	設楽ダム 工事事務所	設楽ダム	大名倉遺跡ほか 14 遺跡（範囲確認）	1,500	平成 27 年 5 月 ～平成 27 年 12 月	酒井・川添 樋上・鈴木恵
			笹平遺跡	6,930	平成 27 年 5 月 ～平成 27 年 12 月	鈴木正・ 蔭山・川添
			大名倉丸山遺跡	450	平成 27 年 10 月 ～平成 27 年 11 月	樋上・ 武部
			大栗遺跡	2,360	平成 27 年 7 月 ～平成 26 年 9 月	樋上・ 早野
			川向東貝津遺跡	2,740	平成 27 年 5 月 ～平成 27 年 11 月	樋上・ 鈴木恵
			滝瀬遺跡	1,470	平成 27 年 8 月 ～平成 27 年 11 月	樋上・ 早野

計 17,100㎡

2.整理・報告書編集

	事業主体		事業名	遺跡名	調査面積（㎡）	調査年度
整理	国土交通省 中部整備局	設楽工事事務所	設楽ダム	設楽ダム関連 遺跡	15,450	H.27
整理・報告	県企業庁	研究施設 用地開発課	豊田・岡崎地区研究開発 施設用地造成事業	下山テストコース 関連遺跡	112,520	H.21～ H.26
	県建設部	道路建設課 知多建設事務所	野間河和線	権六遺跡	2,400	H.26
		河川整備課 知立建設事務所	中小河川改良事業（鹿乗川）	寄島遺跡	10,710	H.19 H.23～ H.25
		道路建設課 東三河建設事務所	道路改良工事（主） 東三河環状線	多り畑遺跡	1,440	H.21
				東下地遺跡	10,904	H.23～ H.24
				野添遺跡	2,000	H.25

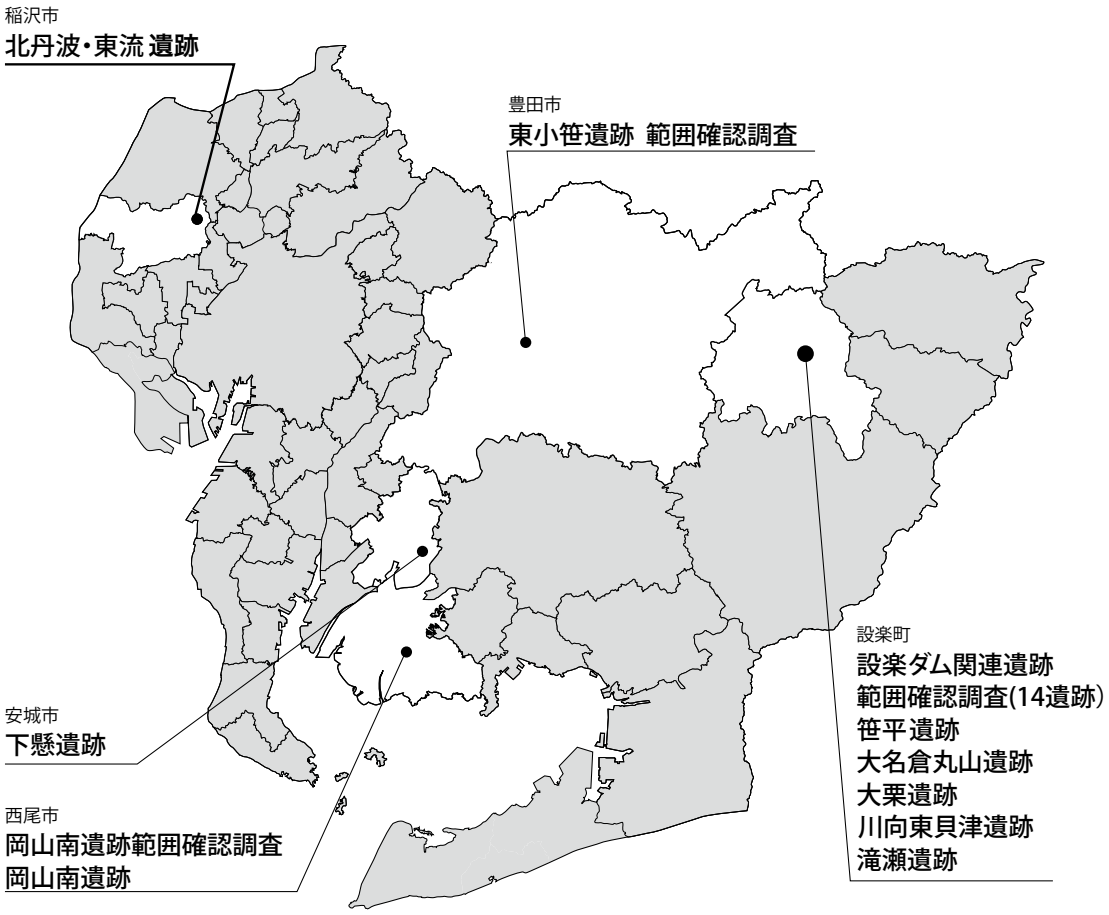
3.平成27年度刊行物

・埋蔵文化財報告書（計５冊）

第199集　東下地遺跡
第202集　八巻古窯跡
第203集　伝法寺野田遺跡
第205集　野添遺跡
第206集　多り畑遺跡

・平成 27 年度　愛知県埋蔵文化財センター年報
・研究紀要　第 16 号

平成27年度　調査遺跡位置図





国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊田北部」

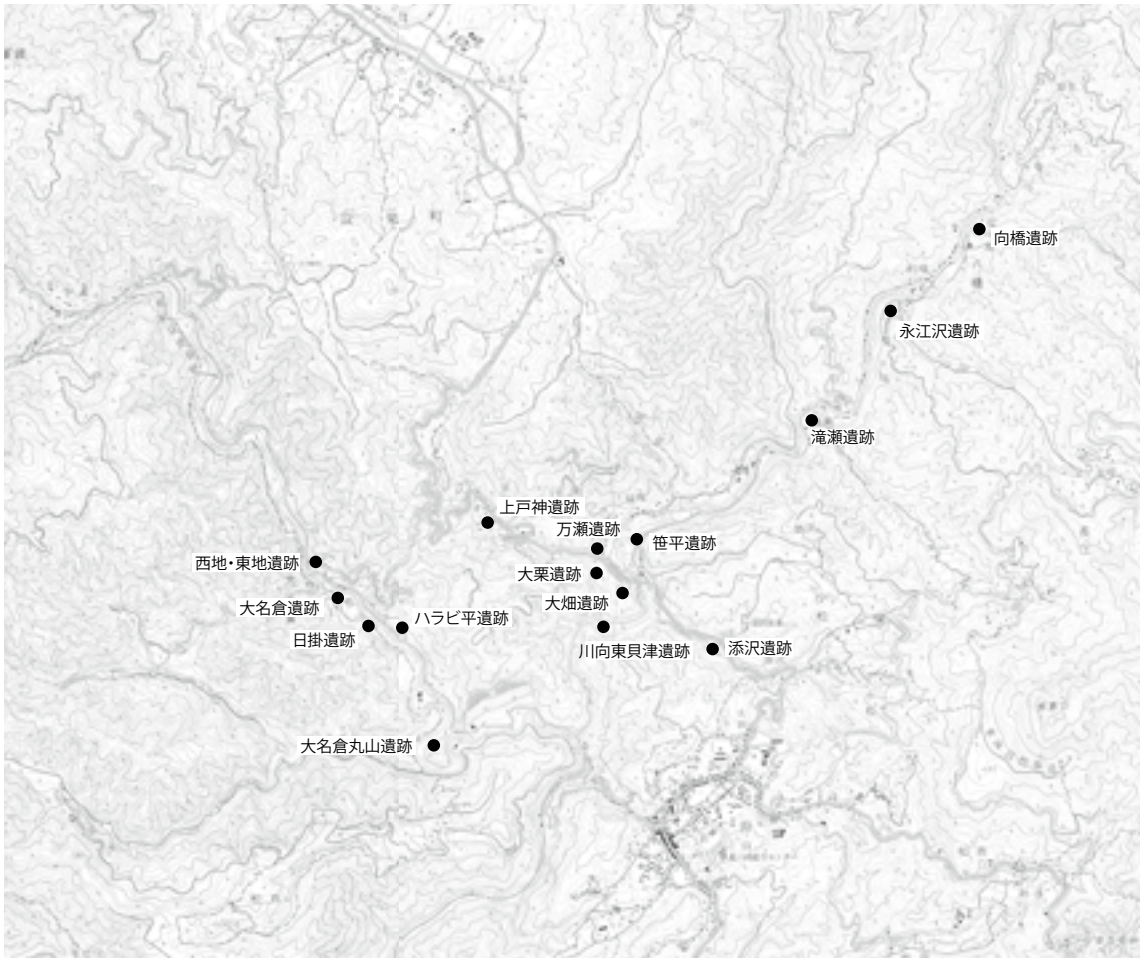


国土地理院 1/2.5 万地形図「安城・西尾」



国土地理院 1/2.5 万地形図「西尾」

※ 地形図は 50%縮小しています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「田口」

※ 地形図は 50%縮小しています。

II. 遺跡調査の概要

北丹波（きたたんば）・東流（ひがしながれ）遺跡

所在地　稲沢市下津丹下田町・下津森町・下津下町西一丁目
（北緯35度15分6秒 東経136度49分39秒）
調査理由　街路改良工事（都）名古屋岐阜線
調査期間　平成27年5月～平成27年7月
調査面積　390㎡
担当者　永井宏幸


調査地点（1/2.5万「一宮」）

調査の経過　県道名古屋岐阜線の街路改良工事事業にともなう事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施した。調査は、平成24度に2,320㎡、平成25度に1,000㎡、本年度に390㎡おこなった。調査区は現道に沿って、街路改良部分を対象とした。今年度は県道の西北部分を調査した。

立地と環境　遺跡は、遺跡の北東側にある青木川右岸に広がる自然堤防およびその後背湿地に立地する。標高は現況４～５ｍ前後である。

今回の調査区は明治17年地籍図によると水田に相当する。調査区の大半は中近世の流路（あるいは池）が横断し、調査中、湧水に悩まされた。

調査の概要　古墳時代の遺構と遺物は、調査区南端で確認した。中近世の流路・池001SDによって古墳時代に相当する堆積層が削平されていたことから、001SDの南側に狭い範囲で古墳時代の包含層が残っていた。ここから、幅１ｍ前後の畦に区画された水田を検出した。遺物は水田の周辺から廻間Ⅲ式の壺や甕が少量出土した。

古代の遺構と遺物は、調査区北端で確認した。古墳時代の遺構と同様に、中近世の001SDによって削平されていた。調査当初は、調査区壁面のトレンチ掘削中に、焼土・炭化物を含む堆積土とともに須恵器などがまとまって出土したので、竪穴建物などを想定していた。ところが、トレンチから遺構の輪郭は捉えられなかった。001SDの掘削を進めていくと、001SDの輪郭に007SDとの切り合い関係が判明した。改めてトレンチを設定し、ようやく007SDの断面を確認した。８世紀代の須恵器がまとまって出土し、001SD内から出土する多くの須恵器は007SDに関連する資料群の可能性がある。

中近世の遺構と遺物は、001SDが注目できる。001SDは明治17年地籍図と照合すると、ほぼ水田の区画と一致する。また、検出ラインに沿って、近代以降の畦板と杭列が認められ、遺跡と地籍図の重なりが追検証できた。当初は位置関係と堆積状況から、県道を挟んで南東に位置する12F001SDと同一遺構を想定し、中世の時期をしていた。ところが掘削を進めていくと、出土する遺物に近世陶器が少量ながら認められることから、堆積層の大部分は近世以降であると判明した。加えて、調査区壁面などの堆積層の検討から、大きく２つの堆積に分かれることがわかった。つまり、中世と近世の２時期にわたる堆積層が存在し、001SDの南側は２層、北側は１層で、中世の堆積に近世の堆積が少し北側にずれて堆積していた。また湧水が激しく、作業上の安全から近世の堆積層の途中で掘削を断念した。近世の堆積は南端に斑土状の堆積が認められ、人為的に埋めた痕跡が残っていた。これは12F001SDの状況と類似し、12F001SDも部分的に近世の堆積を含む可能性が高くなった。この斑土状堆積より上位層は、流水性、止水性堆積が交互に認められ、川あるいは

池である可能性を示唆する。中世の堆積層は部分的であり、確定できないが、近世同様に川・溝の可能性を想定しておきたい。出土遺物は、13世紀前後の中世陶器を中心に、古代の須恵器など幅広い時期の遺物が出土した。

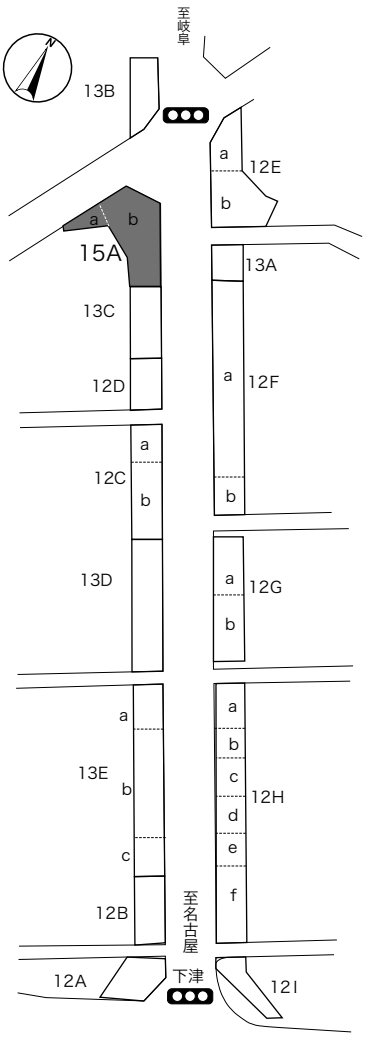
ま と め　今回の調査は、中近世の川・池跡の可能性がある001SDによって調査区の大半が覆われていた。部分的に削平を免れた古代の溝と古墳時代の水田が調査区の北端と南端に残存していた。ここで、過去２次の調査成果を合わせて振り返る。おおよそ幅５m、南北200mにわたる細長い調査区であったため、遺跡の全容は把握しにくい一方、地形変化の情報は多岐にわたり得ることが出来た。現況に表出しない明治17年地籍図などの土地利用を比較してみると、水田など低い土地利用の地点は流路があり、畑地など高い地点は中世の遺構が展開する。また、古代の遺構は方位に沿った遺構群ではなく、当時の自然地形に沿った可能性が高い。古墳時代の耕作地は農水路と考えた大溝の方向から、古代と同様に自然地形に沿った土地利用が想定できる。　（永井宏幸）



遺跡全景



15A区完掘状況



調査区位置図　1:2,000

下懸（しもかけ）遺跡

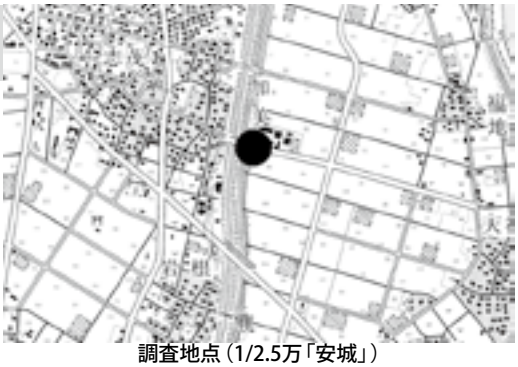
所　在　地　安城市小川町向田
（北緯34度54分27秒 東経137度05分43秒）

調 査 理 由　中小河川改良事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成27年11月～12月

調 査 面 積　280㎡

担　当　者　松田 訓



調査地点（1/2.5万「安城」）

調査の経過　調査は、愛知県建設部による中小河川改良事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて、平成27年11月から12月にかけて実施した。調査面積は、280㎡である。

立地と環境　遺跡は安城市東部に所在し、矢作川とその支流によって形成された沖積地上に立地する。調査区は碧海台地縁辺部に位置し、東側は矢作川沿いの低地が広がっている。下懸遺跡は、今回の調査地点の南側にて、弥生時代中期～古墳時代前期を主体とした遺物、遺構がこれまでの調査で確認され、集落の存在も明らかになっている。本調査区は、下懸遺跡の北端に位置する。調査地点の北側には、鹿乗川沿いの低地に弥生時代後期～古墳時代前期の墓域、集落を主体とした寄島遺跡が展開する。遺構の検出高は、標高約7m前後を測る。

調査の概要　今回の調査では、下面から古墳時代前期の竪穴建物、古代の溝、上面から近世の水田等が確認された。この中で竪穴建物の可能性が考えられる遺構は、1基検出された。平面形態は隅丸方形を呈するものと思われるが、部分的な検出であるため、全形を把握できていない。床面が貼られたと思われる層の下位では、幅の広い溝が平面プランに沿うように設けられていた。床面と考えられる層の直上では炭化材が広がっていて、焼失家屋の可能性も考えられる。遺物は、古墳時代の前葉と考えられる土器が出土している。この竪穴建物跡を切って、幅約1mの溝が検出された。東西方向に走るこの溝からは、土器片とともに平安時代と考えられる灰釉陶器が出土している。上面で確認された水田は、大畦から小規模の区画で小畔が設けられていた。下面の下位では、調査区全体に自然流路が確認され、古墳時代初頭の遺物が確認されたため、調査地点はこの時期の直後に陸化したと推測される。今後、台地縁辺部での土地利用の仕方などが、検討課題となるであろう。（松田 訓）



調査区全景（西から）



竪穴建物跡と溝（西から）

東小笹（ひがしこざさ）遺跡（範囲確認）

所　在　地　豊田市越戸町東小笹・西小笹
（北緯35度06分46秒　東経137度11分00秒）

調 査 理 由　国道153号線豊田北バイパス

調 査 期 間　平成27年５月11日～平成27年５月15日

調 査 面 積　30㎡

担　当　者　早野浩二



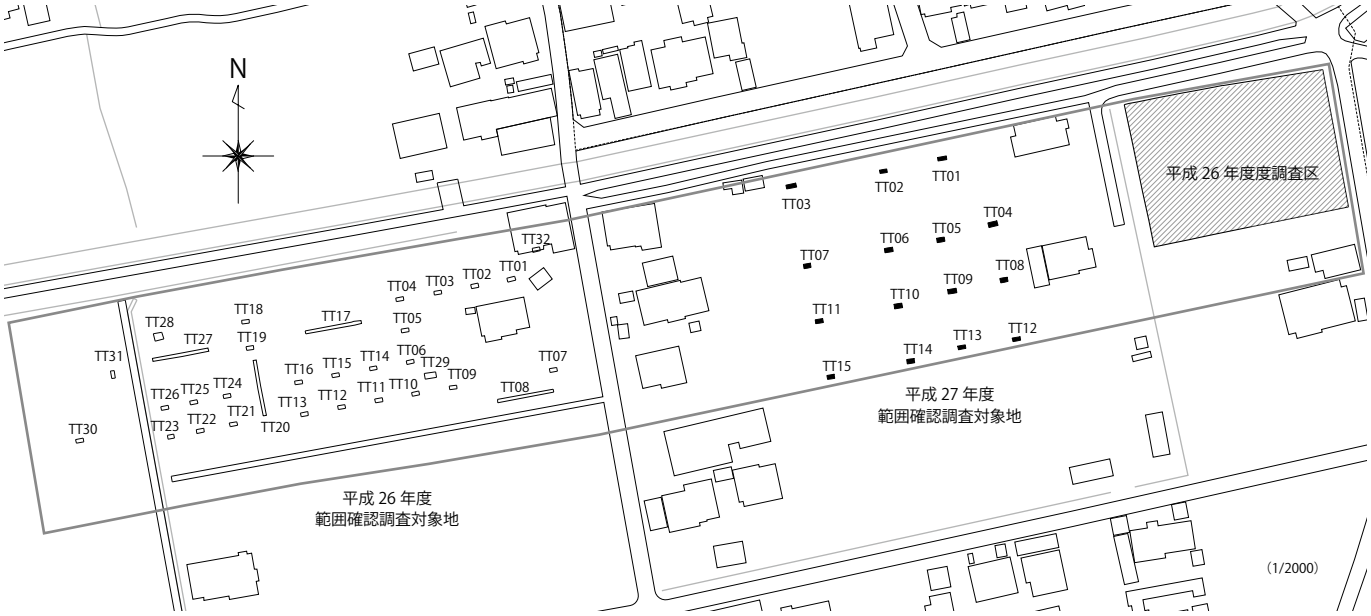
調査地点（1/2.5万「豊田北部」）

調査の経過　発掘調査は国道153号線豊田北バイパス建設に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局名四国道事務所から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて実施した。

今回の範囲確認調査は、平成26年度に本発掘調査と範囲確認調査を実施した中間の事業予定地を対象として実施した。対象地は過去、平成24年に愛知県教育委員会が試掘調査を実施し、遺跡の範囲内であることが報告されているが、検出された土坑状の遺構の時期は不明で、出土遺物もごく少なかっ たことから、本発掘調査実施前に、遺跡の範囲や残存状況、性格にかかる情報をより多く収集することが求められていた。

東小笹遺跡は矢作川右岸の低位段丘（越戸面）東端に立地し、遺跡には真言宗宝隆院境内が含まれていた可能性も想定されている。遺跡周辺には段丘南 端に小笹古墳、上位の段丘（碧海面）に宇津木Ａ遺跡、宇津木Ｂ遺跡、宇津木古墳が分布する。

調査の結果　今回の範囲確認調査の対象とした地区は、表土・客土直下に地山が露呈することが多く、明確な包含層、遺構は確認されなかった。隣接する耕作地には 古代、中世、近世以降の土器・陶磁器が散布するが、範囲確認調査によって出土する遺物は表土（耕作土）に伴うごく少量の小片のみで、遺跡の存在を積極的に示すものではない。遺跡周辺はすでに大規模な圃場整備が行われたとのことから、遺跡のかなりの部分は削剥され、滅失している可能性が高いと推察される。　（早野浩二）



東小笹遺跡試掘坑配置図（1:2,500）

おかやまみなみ 岡山南遺跡

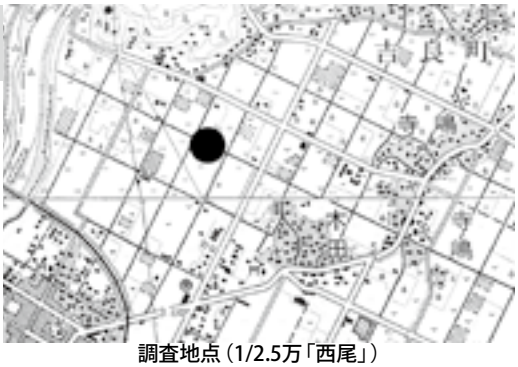
所　在　地　西尾市吉良町木田
（北緯34度50分15秒　東経137度04分38秒）

調 査 理 由　道路改良工事西尾幡豆線

調 査 期 間　平成27年6月～9月

調 査 面 積　850㎡

担　当　者　池本正明



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は、一般県道西尾幡豆線建設にともなうもので、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成27年6月～9月で、調査面積は850㎡である。

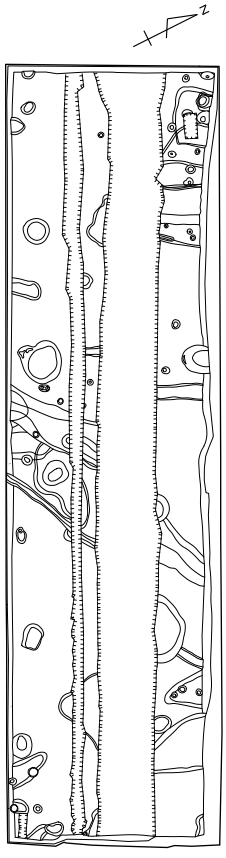
立地と環境　遺跡は矢作（古）川左岸の標高3.5m程度の微高地上に位置する。調査は平成23年度（910㎡）と平成24年度（1075㎡）にも実施され、古墳時代・古代・近世の遺構が確認されている。なお、本年度5・6月にも遺跡の西端を確認する範囲確認調査を実施している。

調査の概要　調査区は平成24年度調査区の西側に接した位置となる。調査区は、西側が微高地の東端、東側がその縁辺部の低地となる。後者は平成24年度調査区の西側で検出された低地に連続する。

検出できた遺構は希薄だが、上下二面の検出面を確認した。上面の遺構は微高地に接する低地部分で戦国時代以降の水田、下面の遺構は古代を中心とし、低地部分で溝・井戸、微高地側で竪穴建物を検出している。（池本正明）


上面遺構全景


下面遺構全景



下面遺構全体図（1:500）

岡山南（おかやまみなみ）遺跡（範囲確認）

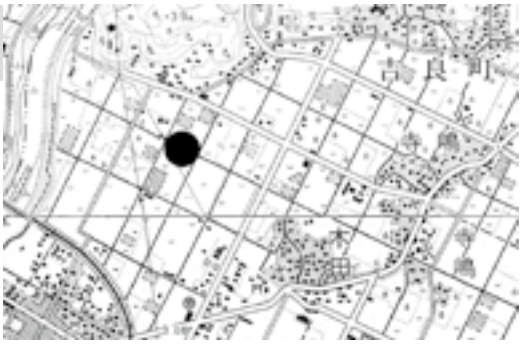
所　在　地　西尾市吉良町木田
（北緯34度50分15秒　東経137度04分38秒）

調 査 理 由　道路改良工事西尾幡豆線

調 査 期 間　平成27年5月～6月

調 査 面 積　100㎡

担　当　者　池本正明



調査地点（1/2.5万「西尾」）

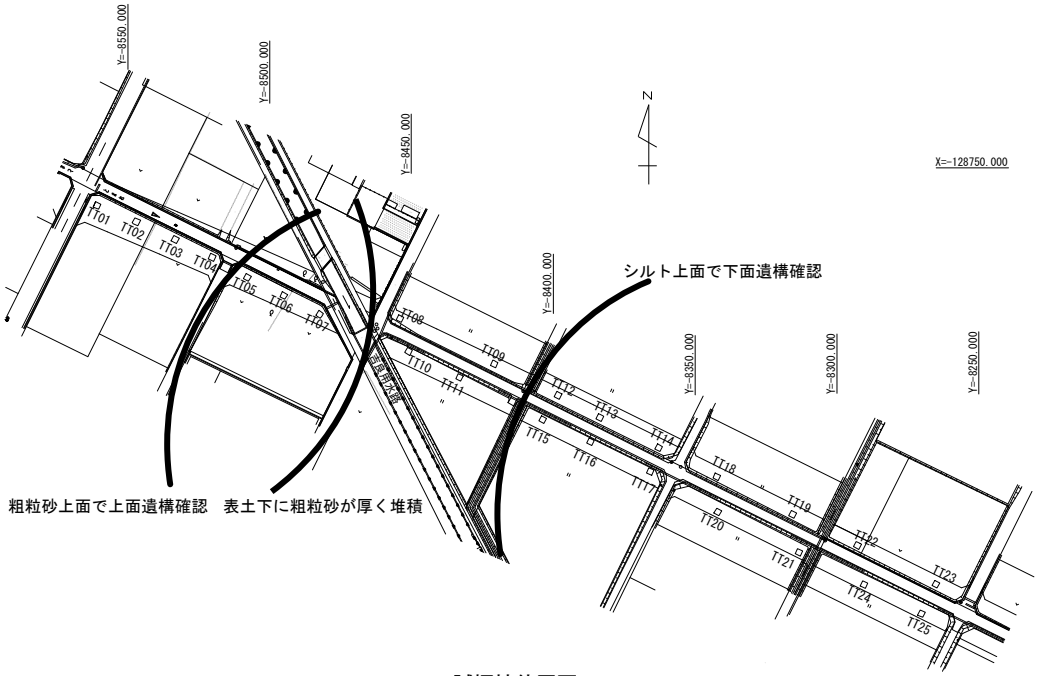
調査の経過
立地と環境
調査の概要

範囲確認調査は、一般県道西尾幡豆線建設予定用地内における岡山南遺跡の西端の確認を目的としたもので、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成27年5・6月で、調査面積は100㎡である。

岡山南遺跡は矢作（古）川左岸の微高地上に位置する。遺跡の北側には「岡山」と通称される三河山地から伸びる丘陵が位置し、中根山遺跡・吉良八幡山古墳・若宮古墳群など、比較的著名な遺跡が分布している。岡山南遺跡の調査は平成23年度（910㎡）と平成24年度（1075㎡）に実施され、古墳時代・古代・近世の遺構が確認されている。

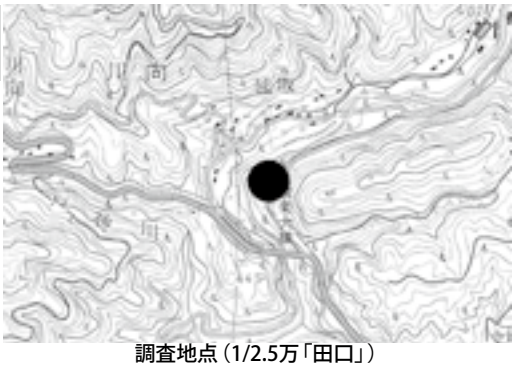
今回の範囲確認調査は岡山南遺跡の西端を確認するため、本年度調査区の西側にTT01～TT25の25か所の試掘坑を設定した。遺構はTT05以東で比較的濃厚となる。なお、TT05～TT15間では粗粒砂の堆積が確認されており、旧河道の可能性が高い。なお、ここでは粗砂層上面でも遺構を確認している。出土遺物は、ほぼ全ての地点で古代・中世の遺物が得られたが、西側では希薄となる。また、TT15以東ではこれに古填時代の遺物が加わり、量的にも多量となる。

（池本正明）



試掘坑位置図

笹平（ささだいら）遺跡



調査地点（1/2.5万「田口」）

所在地　北設楽郡設楽町大字小松字笹平
（北緯35度06分45秒 東経137度34分01秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成27年5月～12月

調査面積　6,930㎡

担当者　鈴木正貴・蔭山誠一・川添和暁

調査の経過　調査は、国土交通省中部地方整備局による設楽ダム関連事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて、平成27年５月から12月にかけて実施した。調査面積は6,930㎡で、15A区・15B区・15C区の三調査区に大きく分けて調査を行った。

立地と環境　遺跡は境川の東側（左岸）、川に対して西に張り出す段丘上に立地する。段丘は、川側が標高385m前後と低いのに対し、中央が標高387m前後と一段高くなる。川側の低い段丘部分をA区、高い段丘部分の西側半分をB区、東側半分をC区とした。段丘の地盤形成層は古い河川堆積層で、山側（東側）ではシルト層が、谷側（西側）では砂層が主体となっており、A区とB区の境とB区とC区の境では巨礫が多く認められた。特に、B区・C区の巨礫群は旧河道由来の黒色土の中に存在しており、段丘の中心にある巨岩（笹平岩とする）もこの黒色土に伴うものである。

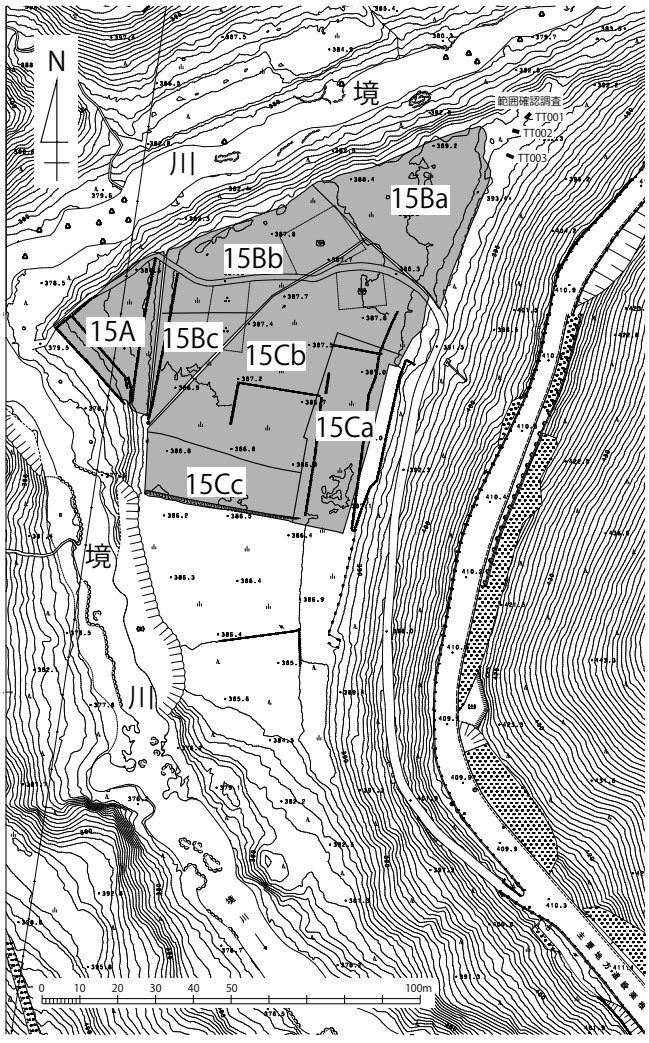


図１　調査区位置図（1:2,000）

調査の概要

A区

晩期包含層　A区は厚さ1mの土石流堆積層の下で、層厚20cmほどを測る縄文時代晩期の包含層（黒褐色シルト層）および土坑・ピットなどの遺構が確認された。晩期包含層中で見つかった礫群は円弧を描くようにも見えるが、礫自体は河川由来の円礫ではなく山側由来の角礫である。調査区北端から岩偶岩版類が1点、南側では大型の撥形を呈する打製石斧が1点出土した。晩期包含層下には、層厚50cmを測る褐色砂層があり、

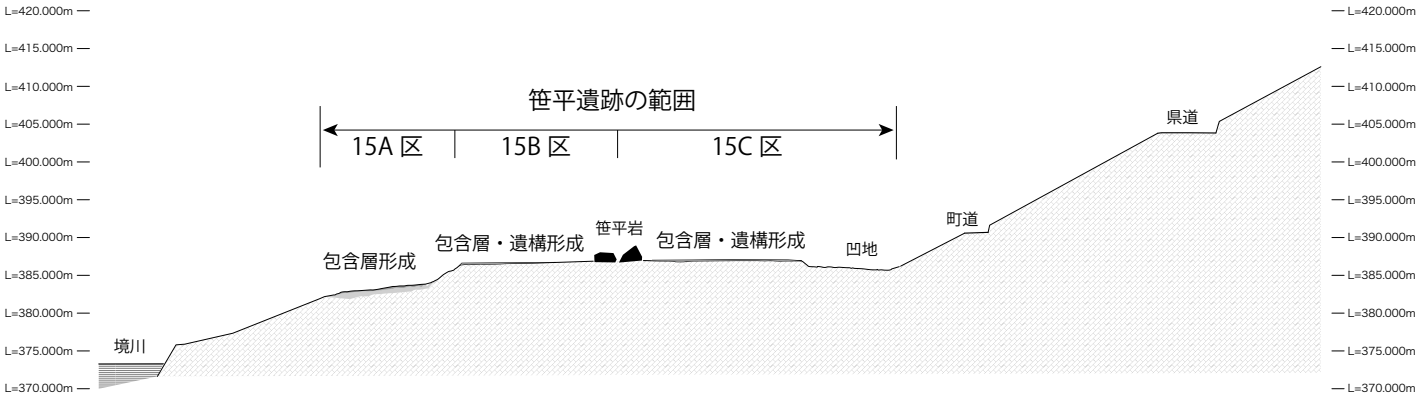


図2　笹平遺跡立地の模式図（1:1,000）

摩滅を受け細片化するなど、流れ込みの状況で縄文時代後期の土器片が出土した。さらに褐色砂層の下、15B区側の崖下では、崖際ラインに沿って落ち込みが見つかった。この落ち込み内からは縄文時代中期後半の土器片が、大型破片の状態でまとまって見つかった。土器溜まりであろうか。

中期後半の土器出土

B区・C区　B区・C区は段丘の高い部分の調査区であるが、調査区全体が一様な平坦面となっている訳ではない。Ba区は東側丘陵部から連続し、南西のBb区・Bc区に向かって下がる緩斜面となっている。また、Ca区およびCb区南東側は浅い凹地となっており、Cc区は南側に向かって地形が低くなっている。

主要遺構　B区・C区で確認された主要遺構は、以下の通りである。

縄文時代中期後半：竪穴建物跡1棟、柱列1（ピット2基）

縄文時代中期後半から後期（多くは後期初頭～中葉が中心と考えられる）

：竪穴建物跡31棟、竪穴建物跡との関係が不明の炉跡5基、貯蔵穴などの土坑14基、土器埋設遺構5基（炉の中に埋納されたものを除く）、集石遺構10基、柱列2（ピット2基と3基）、掘立柱建物跡1軒、大型石棒および立石を伴うピット4基、礫群1、その他土坑および柱穴多数

晩期前葉～中葉：石敷遺構（炉の可能性もあり）2基、土器棺墓1基

弥生時代前期：土器棺墓1基

古代：土坑1基

遺構の分布　段丘の中心、笹平岩を挟んだ東西、および北側から、竪穴建物跡群と土坑群が集中して見つかった。これらの遺構が展開する範囲は、Ba区南端・Bb区とBc区の全面・Cb区の南東側を除いた区域・Cc区の北端で、地盤の高い範囲に建物跡などの遺構形成が認められてた。

竪穴建物跡　竪穴建物跡の炉跡は、石囲炉跡や石敷炉跡が多く、土器の埋納された炉跡なども見つかった。竪穴建物跡の平面プランは、撹乱などの影響を受けて掘り方が極めて浅くなったものが多いため、その検出は困難であった。炉跡とピット列のみが検出される場合もあり、時期を比定できる遺物が伴うものはあまり多くない。平面プランは、隅丸方形状を呈するものが多く、円形プランを呈するものも含まれる。周囲の状況から、多くのものは縄文時代後期初頭から中葉に属するものと想定される。各遺構の新旧関係などは図３に記した。ここでは、竪穴建物跡の中でも特徴的なものについてのみ記載する。

Cb区3893SIは、縄文時代中期後半に属する笹平遺跡で最も古い段階の竪穴建物跡である。長辺4.8m・短辺4.6mを測る隅丸方形プランを呈するもので、深さは検出面から約50cmを測る。埋土中からはまとまった土器片・石器が出土しており、堆積の状況から北側

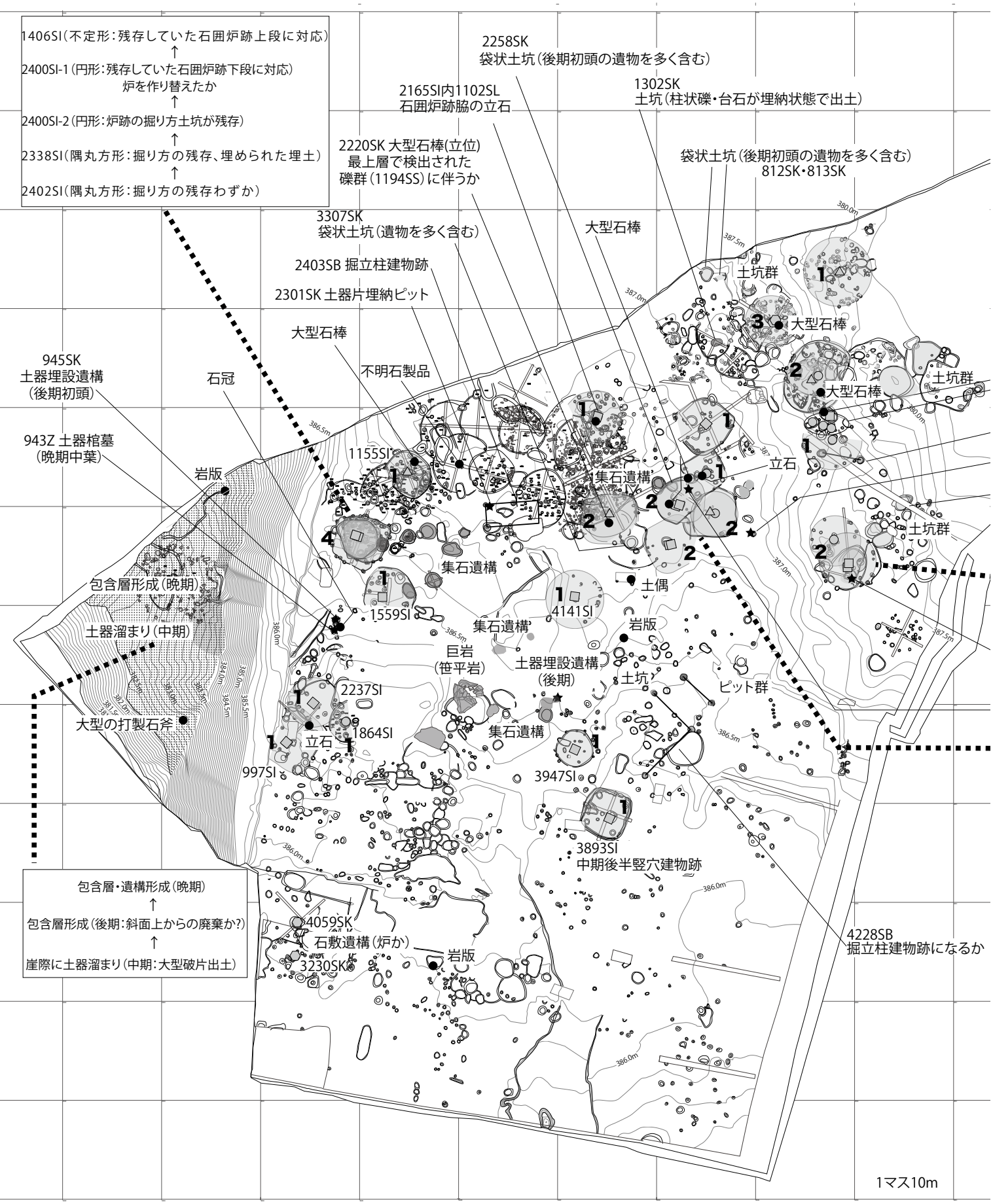
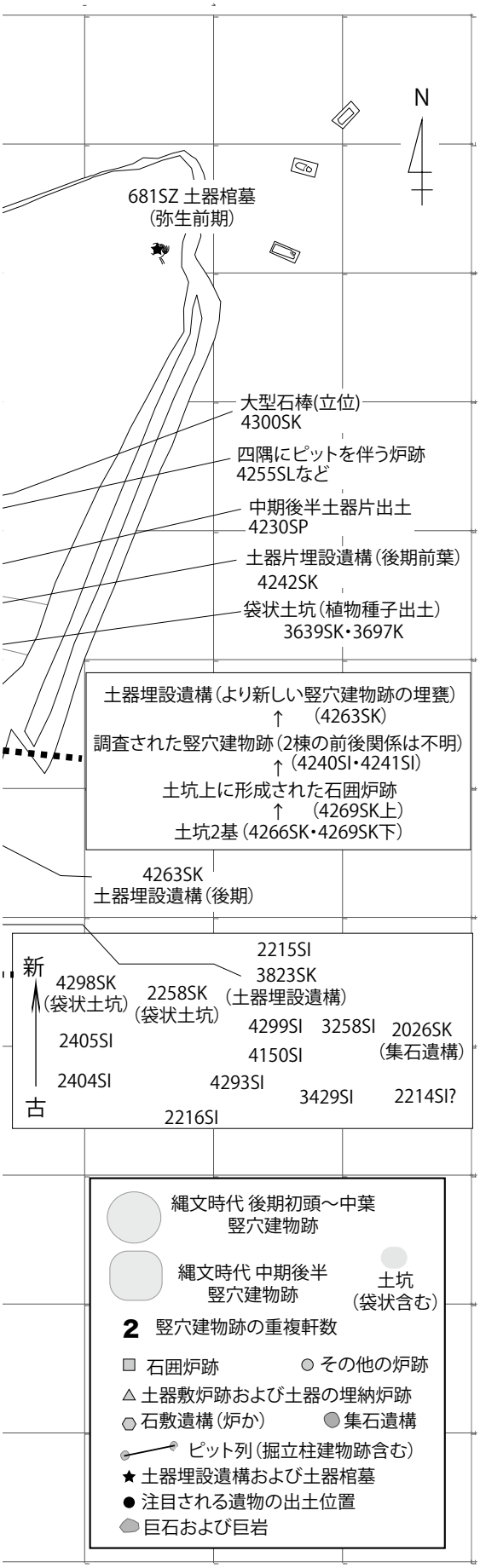


図 3　遺構全体図（1:500）



より廃棄されたものと考えられる。床面を検出した結果、中央に石囲炉跡、四隅に主柱穴跡、掘り方の下場周囲には周溝が検出された。石囲炉跡は中央よりやや東側に存在しており、掘り方は一辺1m20cm四方で、40cmを測る深さの中に、上下2面の機能面が確認された。この西側には巨礫を含む浅い土坑状の遺構が見つかっており、入り口部の痕跡かもしれない。主柱穴跡の掘り方は径60cm・深さ50cmほどを呈する。壁溝は溝に平行して土層断面を確認したところ、小ピットの連続を確認することができたことから、壁には細い柱が立てられていたことを確認された。

Cb区3947SIは、径3.8mほどのやや不整な円形を呈する竪穴建物跡で、掘り方は深さ20cmである。中央には7基ほどの柱穴があるほか、掘り方周囲に沿って壁柱列が検出された。中央には一辺50cm四方・深さ25cmの掘り方を有する石囲炉跡が配されていた。この石囲炉跡は、薄い板状石が４枚方形に配置されたもので4141SIの3628SLも同様の構造である。

Ba区にほど近い、Bb区とCb区の境では、袋状土坑・土器埋設遺構・集石遺構のほか、計10棟の竪穴建物跡が重複していることが確認された。これらの中で、Bb区2216SIが最も古いものである。2216SIは、一辺が5mほどの隅丸方形プランを呈するもので、最も深いところで20cmの掘り方を確認することができた。床面中央には炉跡、四隅には主柱穴跡、掘り方内の壁際下には壁溝が確認された。炉跡は、長軸130cm・短軸100cmを測る不整形な楕円形の掘り方内に角礫が配されたもので、この中から後期初頭に属する深鉢土器片が多数出土した。4293SIと4299SIとはほぼ同じ場所に重複する竪穴建物跡である。それぞれ、3320SLと3303SLという石囲炉跡を有しているが、3320SLの上に3303SLが重複しており、3303SLの石囲いの一部は3302SLの石囲礫をそのまま利用している様子が確認された。3429SIと3258SIも、4295SLと3294SLというそれぞれの炉跡が上下重複した状態で見つかった。3294SLは深鉢胴部二個体が入れ子状に埋設された炉跡である。

Cb区北東端では、径1mを測る大型の土坑（4266SK・4269SK）と石囲炉跡を有する竪穴建物（4240SI・4241SI）との重複が確認された。大型の土坑4269SKは、その上層に敷かれたように礫が配され、焼土・炭化物を伴うことから、炉跡であった可能性が高い。これら土坑に重複する4240SIの炉跡4152SLは、長軸1mほどを測る石囲炉跡と考えれ、掘り方縁辺には炉石の痕跡が多数検出された。

Ba区では、788SIと790SIが確認された。788SIは南北方向にややずれて、2棟が重複しているものと考えられる。隅丸方形ある

いは円形プランを呈するもので、一部には壁柱列も確認されている。炉跡はそれぞれに対応する形で2基見つかっており、その内の1基は土器敷炉跡である。788SIは、土層断面の観察から3棟の竪穴建物が重複していたものと考えられる。平面プランは円形あるいは隅丸方形プランを呈していたものと考えられるが、確証はない。炉跡は石囲炉で炉内に土器敷きおよび炉体土器が認められた。炉体土器は上下にレベルを違えて複数個体認めらたことから、同じ場所での炉の作り替えや重複が行われたと考えられる。石囲炉に使用された礫には、径40cmにも及ぶ大型石棒片も確認された。土器敷きに使用された土器片には後期中葉八王子式の深鉢片が含まれていた。

Bb区西端では、竪穴建物跡が4棟重複した状況が確認された。先行する2402SIと次の2338SIは隅丸方形プラン、次段階の2400SI円形プラン、最も後出の1406SIは不定形である。いすれの竪穴建物跡も南西端にある地山の巨礫に制約を受けている。いずれも石囲炉跡を主体としているものの、2400SIの炉跡と1406SIの炉跡とは重複関係が確認された。(2346SLの上下)。

このように、竪穴建物跡は、繰り返し同じ場所が利用されたようで、上下に複数棟が重なった状態となることから、掘り方のみならず、炉跡の重複例もいくつか認められたことは、多いに注目されよう。

掘立柱建物跡と柱列　Bb区2403SBは、梁間2.6mほどの１間×2間の掘立柱建物跡である。ピットの径は50cm弱、深さも50cmを測る。Cb区4228SBは、梁間5mほどの掘立柱建物跡の可能性はあるものの、関連するピットを確認することはではきなかった。Cb区北西端では、径1mほどのピット2基からなる柱列を検出した(4302SA)。特に、それを構成する4230SPの柱痕内からは中期後半の深鉢土器片がまとまって出土した。

袋状土坑　断面袋状を特徴とする土坑群が、Ba区およびBb区とCb区の境付近、Cb区北西端などの特定の場所で複数基がまとまって見つかっている。

Ba区では山側と川側で見つかっている。川側では、812SKや813SKでは後期初頭の遺物がまとまって出土した。特に、813SKでは、遺構底面から後期初頭の鉢一個体が横位で出土した。

Cb区北西端の3639SKおよび3697SKでは、埋土中で植物種子が散在していた様子を確認した。種子は長軸1cm程度と比較的小型の種類である。

Bb区とCb区の境付近では、2258SKと4298SKから、多量の土器片が出土した。特に2258SKからは後期初頭の土器片がまとまって出土した。

土器埋設遺構　炉体土器以外の土器埋設遺構喉期は５基存在するが、底部に小穿孔あるいは欠損させている場合が多い。Cb区北東部で見つかった4263SKは4240SIの範囲南端に当たり、4240SI中の遺構(埋甕)としても考えられうる。しかし、4263SKはより上面からの掘り込みが考えられるもので、周囲の削平などを考慮した場合、4240SIあるいはその上位に存在したであろう竪穴建物に伴う埋甕の可能性が考えられる。

Bc区945SKは後期初頭の土器埋設遺構である。上位に胴部上半から下半の土器片が、下位に傾斜を違える状態で底部片が出土した。

集石遺構　土坑内に礫が集められている集石遺構は10基確認された。礫が土坑掘り方に投棄された状態のものがある一方で、Bb区2026SKのように被熱礫が立位状態で検出されるものや、同区1238SKのように塚状に重ねられているものもある。集石遺構は、掘立柱建物跡

2403SB南西側などの特定範囲にまとまりが認められる。

石棒および立石　大型石棒および棒状礫が、立位状態で出土した遺構が４基確認された。いずれの石棒・棒状礫も被熱していた。、土層断面を確認したところ、ピットの柱痕部分の中位から上位に埋設されており、ピット下位から据えられているものは認められなかった。

このうち、大型石棒が立てられていた2220SKは、上面で検出された集石1194SS・1195SS範囲の南端に当たり、これらとの関連も考えられるかもしれない。この石棒は埋設前にはすでに敲打により切断されたものと考えられる。

Cb区の4300SKは炉跡4255SLに付属するものと考えられる。この周囲では炉跡の可能性のある浅い落ち込みの角に、ピット状の落ち込みが見つかっており、炉跡脇に立てられたものの可能性もあろうか。

土器棺墓　Bc区943SZは、晩期中葉に属する土器棺墓で、棺身はやや甕形を呈する深鉢を立位埋設し、口縁側には別個体の深鉢口縁部が天地逆に埋設されていた。上の土器は口縁から10cm程度しか残存していないものの、後世の削平を考慮すると、少なくとも胴部中位まではあったかもしれない。棺内には、深鉢底部が二個体、正位で上下に存在していた。そのうちより下位から出土したものは縄文時代後期の深鉢の底部であり、何かの意図をもって土器棺埋設時に入れられたものと考えられる。

Ba区681SZ は、弥生時代前期の土器棺墓で、棺身は横位埋設した大型壺で、半分欠損させた口縁部付近を中心に、深鉢の大型破片で包み込むように蓋をしたものである。棺身の壺には胴部に小穿孔が施されていた。この部分は横位埋設状態の上側に当たる。壺の内部には、埋設時の底面側を中心に、炭化物の付着が激しく認められた。掘り方底面には礫が置かれており、棺の埋設時に安定させたようである。

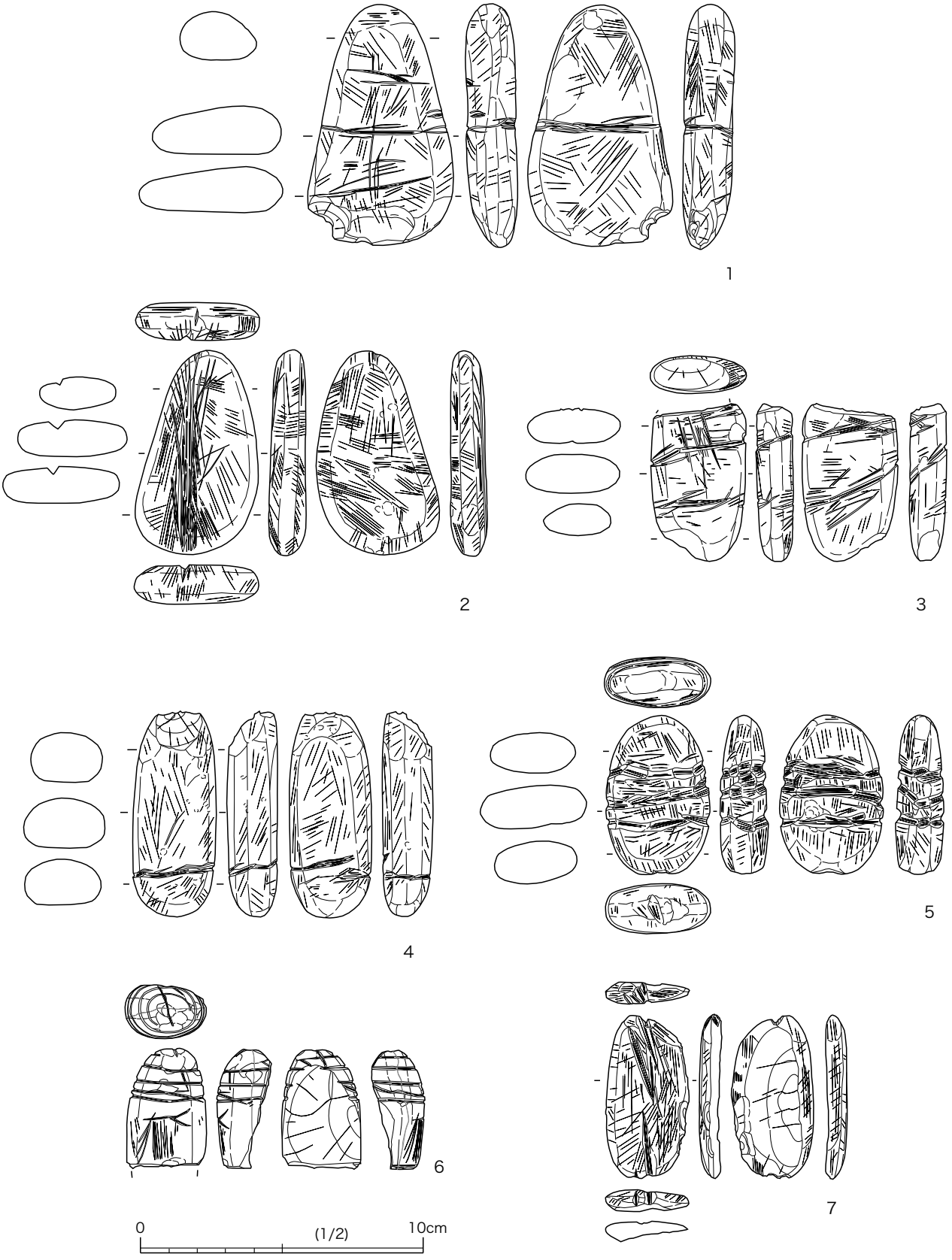
出土遺物　出土した土器には、縄文時代早期・中期・後期・晩期、そして弥生時代前期のものが確認された。その中でも、特に後期初頭から晩期前半の遺物が多く、器種としては、深鉢・浅鉢・注口土器がある。晩期では大洞系土器や橿原文様を有する浅鉢などが出土している。土製品では土偶の胴部片や手足部分が出土しているが、極めて少ない。

石器には、石鏃・石錐・スクレイパー・打製石斧・刃器・礫器・磨製石斧・打欠石錘・切目石錘・有溝石錘・磨石敲石類・石皿台石類・石鋸（擦切具）が出土した。この調査に限って言えば、石鏃を中心とする小型剥片石器類の出土が少なく、表層に集中しているようである。打製石器としては打製石斧や礫器などの大型の石器に対応する安山岩が多量に出土しており、それに由来する原石・石核・剥片が遺跡全体で見つかった。磨製石斧については、敲打（製作）途上のものも出土ている。いわゆる石錘としては有溝石錘が10点以上とまとまった出土をみた。今回の調査で、凝灰質砂岩製の擦切具の出土を見た。愛知県下では、豊田市馬の平遺跡で1点採集されており、本例が2例目になる。

また、石製品には、石棒石刀類・石冠・岩偶岩版類・独鈷石があり、なかでも線刻礫を含む岩偶岩版類は今回の調査で6点確認された。奥三河郷土館に所蔵されている2点を合わせると計8点となり、１遺跡での岩偶岩版類の出土量は県内で最多となる。

まとめ　今回、笹平遺跡（集落）のすべてを調査したことにより、巨石「笹平岩」を挟み、地形に沿って展開した縄文時代の集落のあり方を解明する良好な資料を得ることができた。遺跡の規模や内容から、設楽山間部の縄文時代後晩期を代表する遺跡の調査事例となったといえよう。

（川添和暁）



1～6：岩偶岩版類（泥質凝灰岩）、7：線刻礫？（凝灰質砂岩）

図４　笹平遺跡出土遺物１

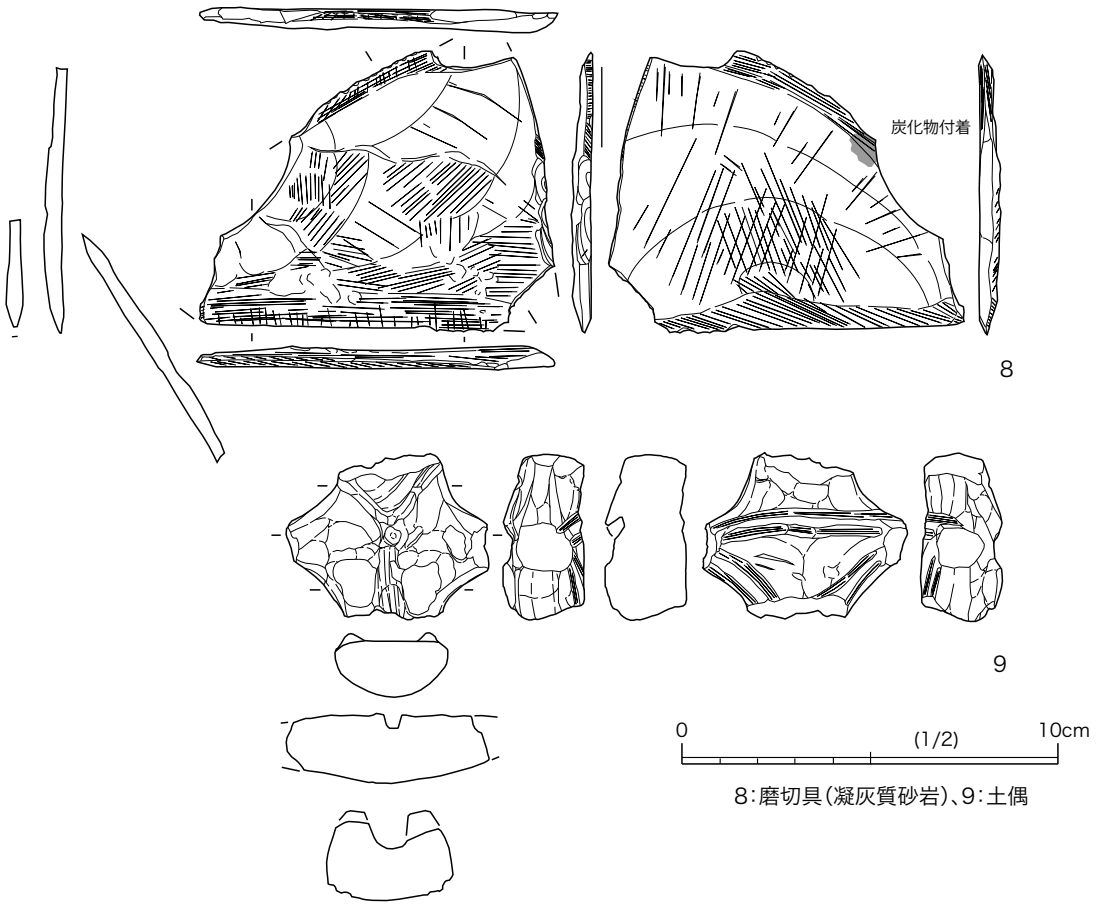


図 5　笹平遺跡出土遺物 2



笹平遺跡出土遺物（大型石棒・石棒石刀類・独鈷石・石冠・岩偶岩版類）



調査区遠景（西より）



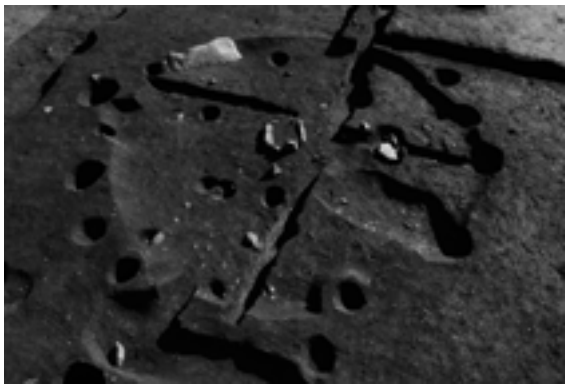
調査区全景（北より）



Cb 区 3893SI（北より）



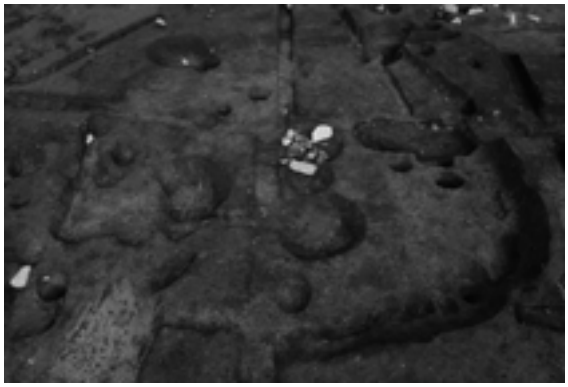
Cb 区 4230SP 土層断面（南より）



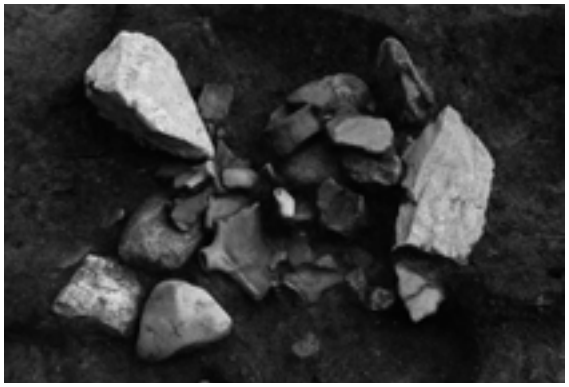
Cb 区 3947SI（北より）



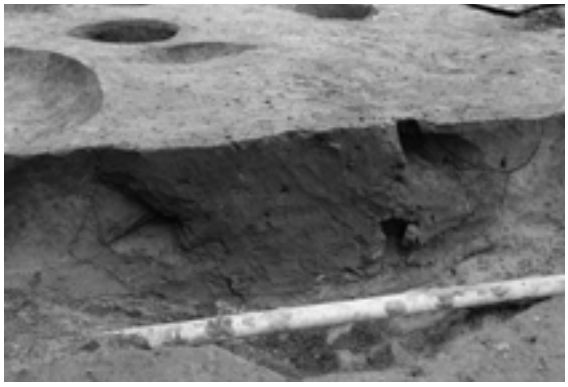
Bb 区 2258SK 遺物出土状況（北より）



Bb 区 2216SI（東より）



Bb 区 2216SI 炉跡（2319SL）遺物出土状況（北より）



Cb 区 3697SK 土層断面（東より）



Cb 区 4255SL（南より）



Bb 区 2220SK 土層断面（南より）



Bc 区 2278SK 土層断面（南より）



Cb 区 4263SK 土層断面（東より）



Cb 区 4129SK 土層断面（東より）



Bb 区 1238SK（西より）



Bc 区 943SZ（南より）



Ba 区 681SZ（南より）

川向東貝津遺跡（かわむきひがしがいつ）



調査地点（1/2.5万「田口」）

所在地　北設楽郡設楽町川向地内
（北緯35度6分26秒 東経137度33分54秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成27年5月～平成27年11月

調査面積　2,740㎡

担当者　樋上 昇・鈴木恵介

調査の経過　発掘調査は、設楽ダムの建設工事に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業としておこなった。

立地と環境　川向東貝津遺跡は豊川の支流、境川右岸の河岸段丘上に立地する。遺構検出面での標高は374～376mを測り、東から西に向かって緩やかに傾斜している。近世以降には、石垣で区切られた5段の平坦面からなる棚田に改変されており、さらに1950年代には水田が放棄されて杉の植林がおこなわれている。

調査の概要　この遺跡は平成22年度に今回の調査区の北側で発掘調査が実施されており、縄文時代後期の埋甕や集石土坑などを確認している。

今年度は、5段からなる平場の西側3段分を15A区、東側の2段分を15B区として発掘調査を実施した。その結果、15A区では、上面遺構として縄文時代中期の竪穴建物跡と集石土坑、縄文時代後期の竪穴建物跡と埋甕、所属時期不明の陥し穴などを確認した。また、下面遺構として、後期旧石器時代と縄文時代草創期の石器集中区を検出している。

いっぽう15B区では、丘陵上部からの度重なる土石流による地形の著しい改変により、土坑数基のほかにめだった遺構の確認はできなかった。

上面遺構　縄文時代中期の遺構群は、おおむね15A区西辺に集中している。竪穴建物跡は4棟（001・002・003・114SI）検出した。

001SIは一辺約3mの隅丸方形を呈し、中央に石囲炉を有する焼失住居で、炭化材が良好に遺存していた。

002SIは一辺約4mを測る隅丸方形で、中央の石囲炉がきわめて良好な状況で検出された。また、床面に配置された平石のうちのひとつの下部からは、ほぼ完形の埋甕が出土した。

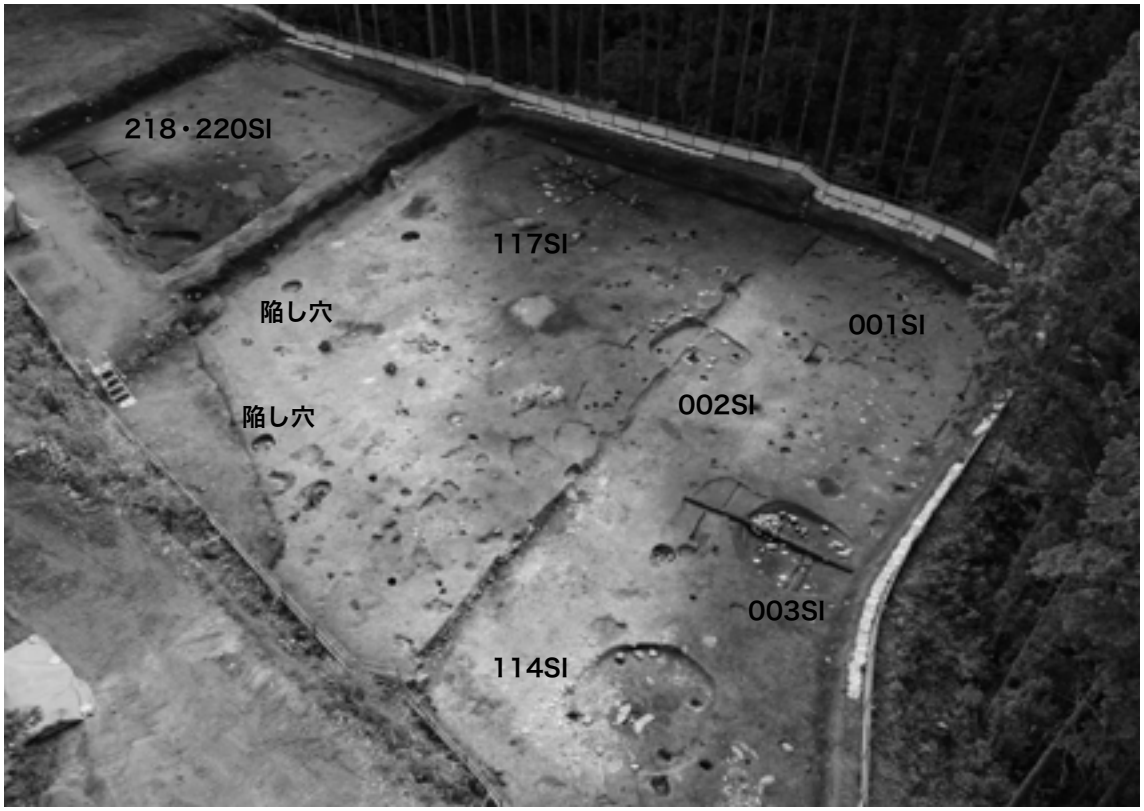
003SIは長軸約5mのやや五角形に近い平面プランをもち、中央の石囲炉も五角形を呈する。この竪穴建物跡には、住居廃絶後に大量の人頭大の石が投げ込まれていた。

114SIは直径約5mを測る円形プラン。かつての境川の旧河床にあたる円礫層を掘削して築かれていた。中央の石囲炉は幾度かの補修がなされている。

集石土坑には焼け石をともなうものが多く、屋外炉として利用された可能性が高い。

縄文時代後期の遺構群は西から2段目と3段目の平場に展開する。竪穴建物跡は177・218・220SIの3棟だが、いずれも遺存状況は不良で、炉跡も判然としない。また、縄文時代中期の竪穴建物跡である002SIの埋土上層からも縄文時代後期の埋甕が確認されていることから、すでに後世の造成によって削平された竪穴建物跡が数棟存在していたと考えられる。

そのほか、所属時期不明の陥し穴は西から2段目の平場で2基検出している。（樋上　昇）



15A区全景（北西より）



001SI全景（西より）



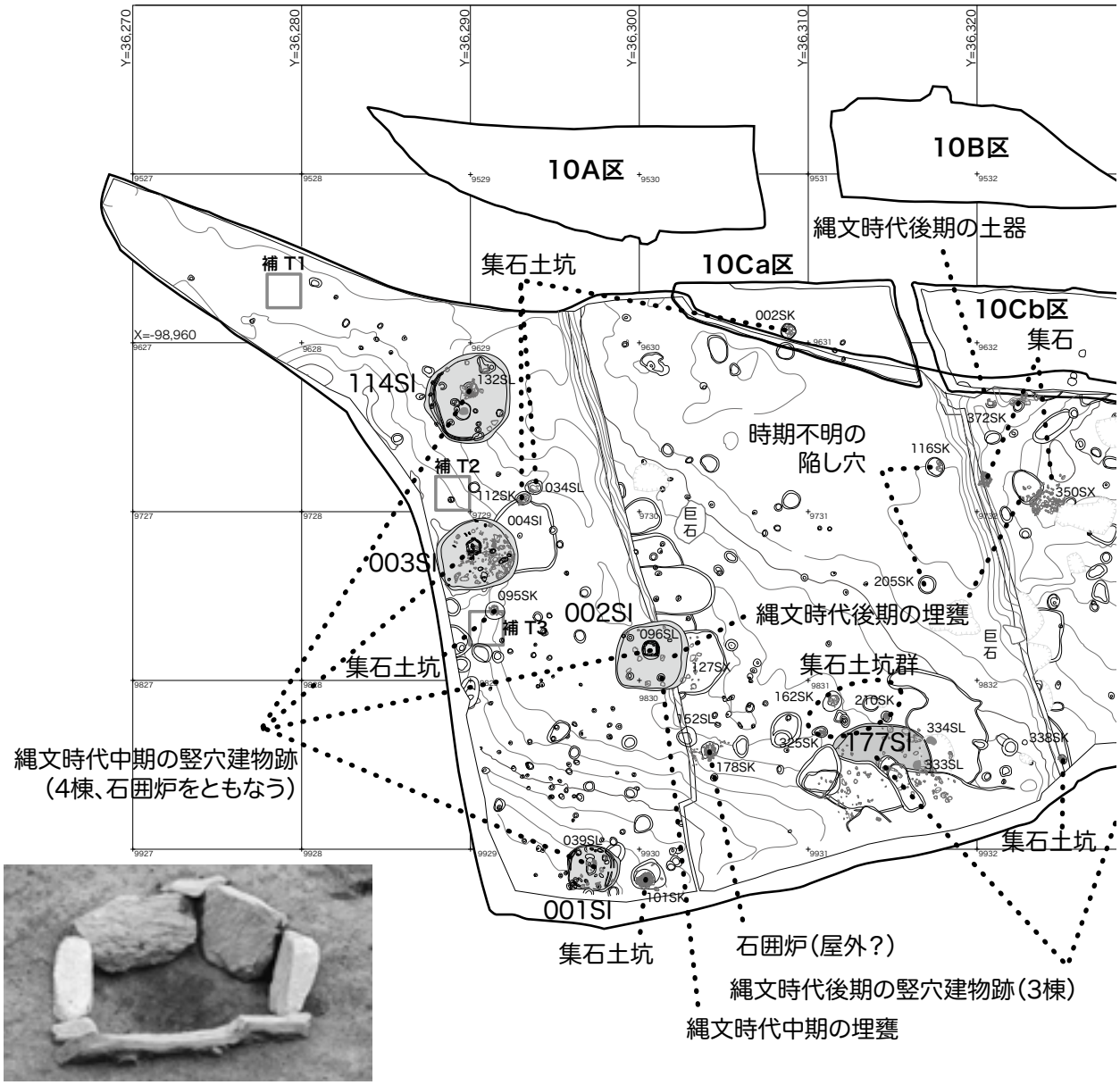
002SI全景（西より）



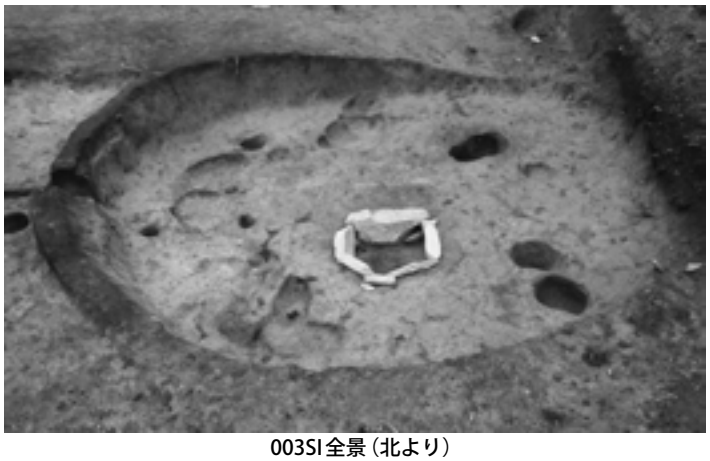
002SI埋甕（西より）



002SI石囲炉（西より）



003SI石囲炉（南より）



003SI全景（北より）



縄文後期埋甕（東より）

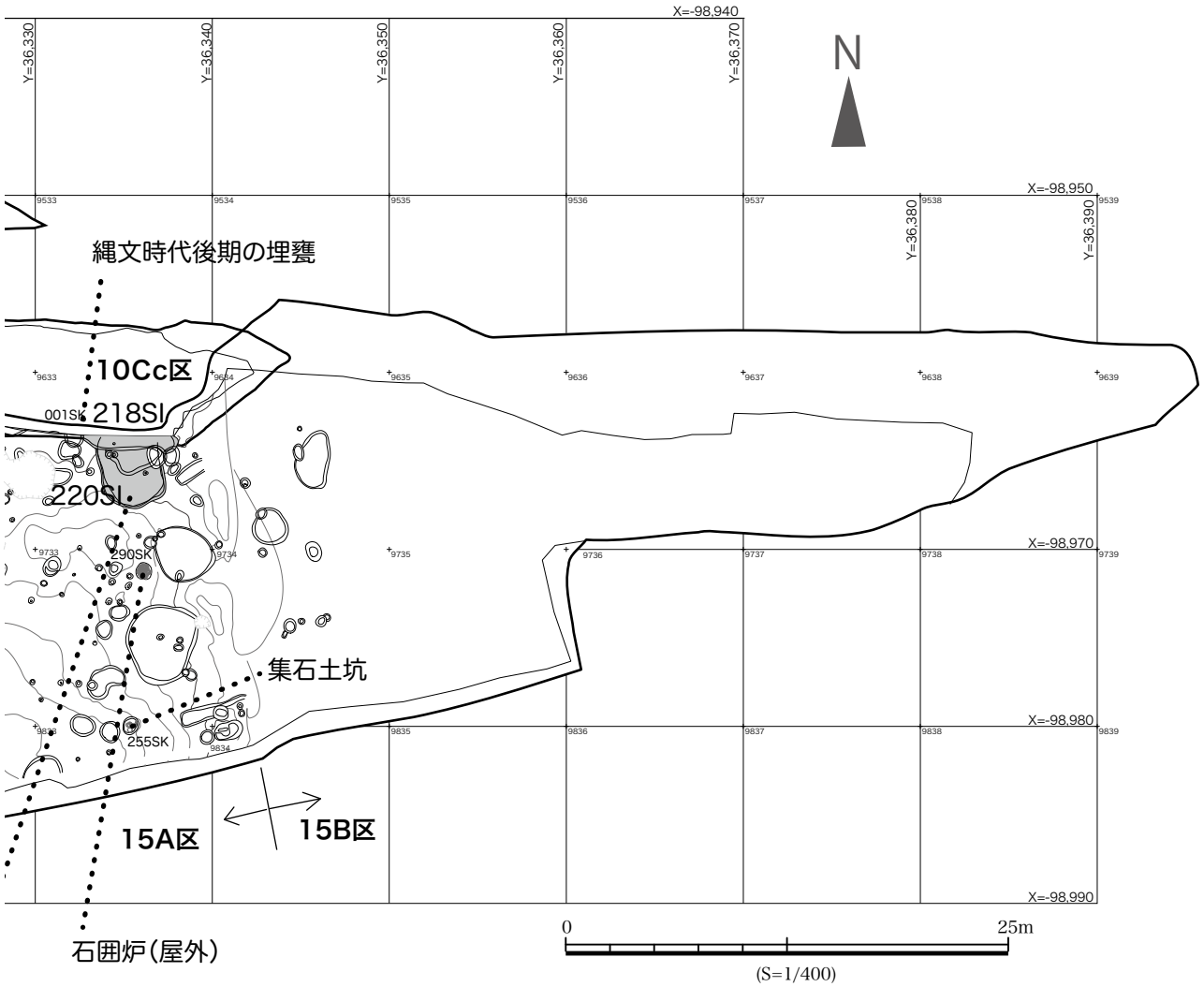


図1 上面遺構全体図（1:400）



114S石囲炉（北より）



114SI全景（東より）

下面遺構　下面補足調査は、川向東貝津遺跡の本調査中に、縄文時代中期の遺構検出面となっている黄褐色シルト層中より石器が多数検出されている状況を踏まえて、下層の縄文時代中期以前にさかのぼる遺構・遺物の存在を明らかにするために行われたものである。

結果として多数の安山岩系の石器・石材、白色風化石材の石器・石材を確認した。遺構は確認できていない。調査範囲は、2m×2mのトレンチを3カ所、計6㎡。検出面以下での石器の出土は、当初15A区に限られていたため、15A区内での本調査時に遺物の出土が特に多く見られた箇所に設定した。

補TT1では検出面直下で多数の石器・石材を検出し、そのほとんどが安山岩系石材である。補TT1の周囲には旧河床の礫層が多数露出し、補TT1出土の石器・石材群はこの河川堆積直上に位置している。

補TT2は他の2カ所に比べると石器の出土数は少量であったが、さらに掘削した結果、下位にいたっても白色風化石材の石器が出土した。

補TT3では検出面から上層は黒曜石が検出され、中位～下位にいたると黒曜石が姿を消し、白色風化石材と安山岩系石材が占める状況も判明した。このことから、石器の分布は上位と下位では異なった様相を示すものと思われる。

愛知学院大学の白石浩之教授から複数の文化層が存在する可能性が指摘された。さらに補TT1での河川堆積直上での石器・石材出土については、旧河床礫層への混入した形での検出も予見されていた。

以上の補足調査の結果と、この後に行われた範囲確認調査の結果を併せると、石器の分布は層位や位置で偏在する傾向はあるものの、広範囲にわたることを窺わせる。そのため、石器・石材の分布は、15A区の西半部に広く分布していると考えられる。（鈴木 恵介）



補TT1（南西より）



補TT1石器・石材集中部（南西より）



補TT2（北西より）



補TT3（北西より）

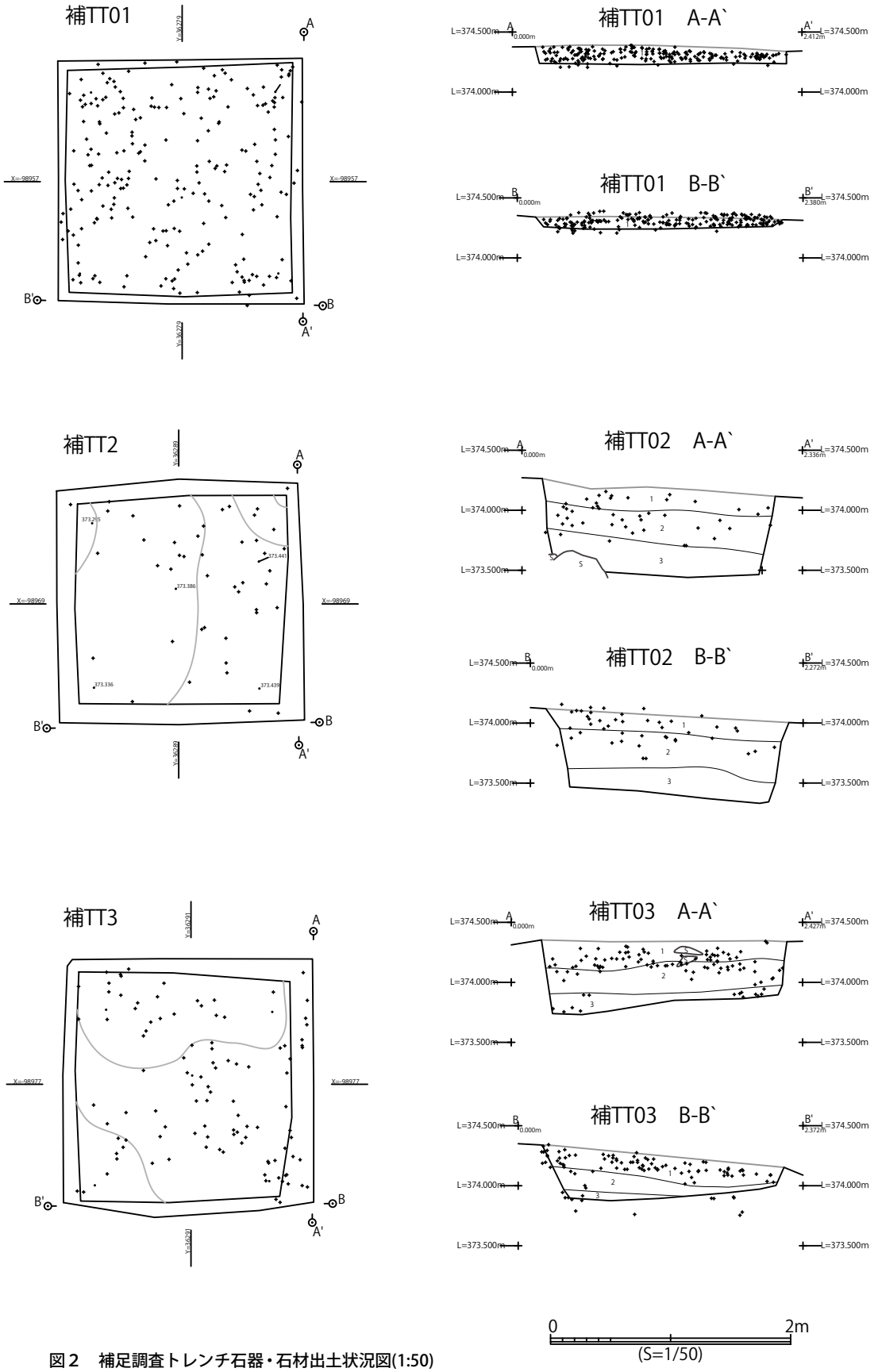
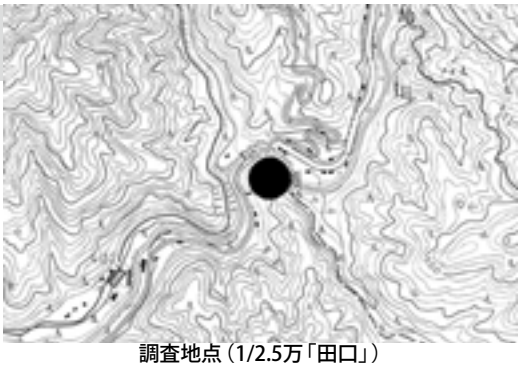


図２　補足調査トレンチ石器・石材出土状況図(1:50)

滝瀬（たきせ）遺跡


調査地点（1/2.5万「田口」）

所在地　北設楽郡設楽町大字八ツ橋字タキセ
（北緯35度07分10秒　東経137度34分55秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成27年８月24日～平成27年11月27日

調査面積　1,470㎡

担当者　樋上昇・早野浩二

調査の経過　発掘調査は設楽ダム建設事業に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて実施した。遺跡は縄文時代、室町（戦国）時代の遺物散布地として周知される遺跡で、平成27年度は境川に面した段丘上に1,470㎡の発掘調査区を設定して実施した。

立地と環境　滝瀬遺跡は境川右岸の河岸段丘上から山麓の丘陵斜面に立地する。なお、遺跡には江戸時代の伊那街道が通る。

調査の概要　調査区のほぼ中央には巨礫を含む段丘礫が露出し、その下位付近において縄文時代早期から前期と思われる集石遺構群、同中期から後期と思われる竪穴建物、同後期の土坑を検出した。

縄文時代早期から中期前半と思われる集石遺構はその可能性があるものを含めて９基を確認した。遺構の平面形は径0.5～1.5mの円形または楕円形で、明確な土坑状の掘り込みを伴って検出されるものと、掘り込みが浅く曖昧なものがある。集積された礫は拳大程度の大きさが主で、被熱したものが多い。

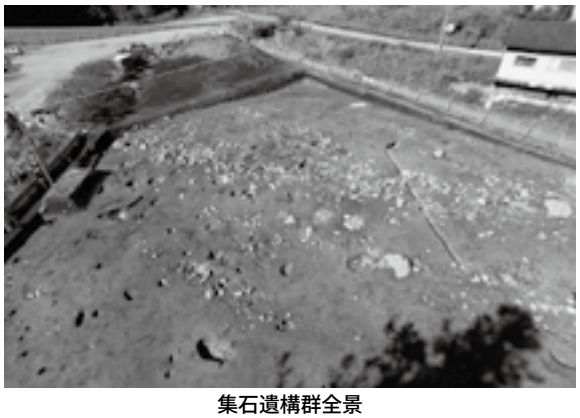
140SL・080SLは・120SL・050SLは土坑内に被熱した礫が充填された状態で検出された。いずれも充填された礫の直下の土坑の底面には濃密な炭化物層を確認した。022SKもこれらと同様であった可能性が高い。120SLは土坑が一定程度埋没した段階で、さらに礫が集積されていた。礫はやや小振りで、疎らである。土坑の再利用（または重複）と考えられる。150SLは明確な掘り込みが検出されず、被熱した礫が散在した状態で検出された。070SLは基盤層中の巨円礫の周囲、090SLは散在する巨礫中に被熱した礫が集積された状態で検出された。040SLは浅い掘り込みの周縁に被熱した礫が集積し、中央には縄文時代前期から中期前半の深鉢が逆位で埋設されていた。040SLを除く集石遺構から遺物は出土していないが、遺跡からは少量ながら、縄文時代早期中葉の押型文土器も出土していることから、これらの集石遺構は縄文時代早期から中期前半のいずれかに帰属する可能性が高いと推定される。

竪穴建物060SIは検出面ですでに床面と石囲炉が露出した状態で検出された。平面形は残存する部分から、径3.0m前後の円形と推定される。遺構から遺物は出土していないが中期後半から後期前葉と推定される。

竪穴建物の付近においては貯蔵穴と推定される土坑180SKが検出された。土坑内からは縄文時代後期の深鉢が良好な状態で出土した。その他、包含層中からは縄文時代後期前葉を主体とする遺物が比較的多く出土している。出土した縄文土器としては、深鉢、注口土器等、石器としては、打製石斧、磨製石斧、切目石錘、礫石錘、石皿等がある。（早野浩二）



滝瀬遺跡15区遺構配置図（1:400）



集石遺構群全景



集石遺構080SL検出状況

大栗（おおぐり）遺跡

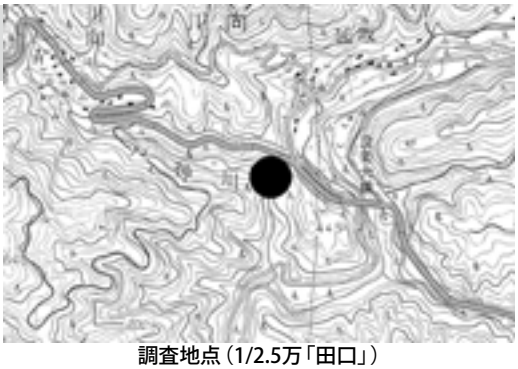
所在地　北設楽郡設楽町川向大栗
（北緯35度06分40秒 東経137度33分52秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成27年７月２日～平成27年９月30日

調査面積　2,360㎡

担当者　樋上昇・早野浩二



調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　発掘調査は設楽ダム建設事業に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所から愛知県教育委員会を通じた委託を受けて実施した。遺跡は縄文時代、平安時代、室町・戦国時代の遺物散布地として周知される遺跡で、平成27年度は平成26年度の範囲確認調査の結果を受けて、2,360㎡の発掘調査を実施した。

立地と環境　大栗遺跡は戸神川左岸沿いの南西向きの緩斜面に立地する。南東の丘陵上には縄文時代の遺物散布地として周知される大畑遺跡が分布する。

調査の概要　今年度の発掘調査においては、戸神川に面した緩斜面において少数の遺構と遺物の包含を確認した。また、調査区北西部分の丘陵斜面を造成した平坦面において戦国時代以降の遺構群を確認した。

戸神川に面した緩斜面は巨礫を含む礫層が広範囲に露出する。確認された遺構はごく少ないが、礫を多く含む土坑002SK・003SKは縄文時代の集石遺構の可能性がある。また、礫層を被覆する堆積層中には、熔結凝灰岩、チャート、黒曜石製の剥片を主体とする遺物の包含を確認した。周辺からは、縄文時代早期前半の押型文土器、縄文時代晩期以降の有茎石鏃、弥生時代前期の条痕文土器等も出土している。その他、灰釉陶器が出土した土坑019SKを確認した。

調査区北西部分の平坦面においては、戦国時代以降の遺構群を確認した。土坑043SKは大窯期前半の天目茶碗が出土したことから、戦国時代の遺構と考えられる。平坦面の整地層中からは、志野菊皿が出土し、整地後に掘削された土坑051SK・055SKには桶が埋設されていた。その他、調査の過程で、古墳時代前・中期の土師器壷、室町時代の古瀬戸四耳壷が出土した。（早野浩二）



大栗遺跡15Ａ区（南西部）全景



北西部の戦国・江戸時代遺構群



大栗遺跡15区遺構配置図（1:500）

大名倉丸山遺跡（おおなぐらまるやま）

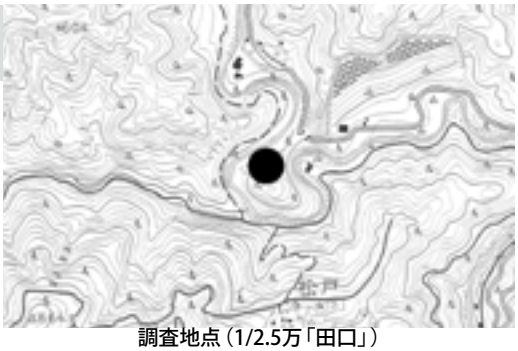
所　在　地　北設楽郡設楽町大字松戸字ワカドチ
（北緯35度5分59秒 東経137度33分7秒）

調 査 理 由　設楽ダム

調 査 期 間　平成27年10月～平成27年11月

調 査 面 積　450㎡

担　当　者　樋上 昇・武部真木

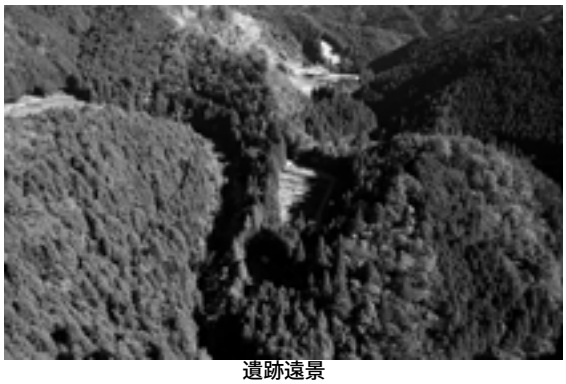


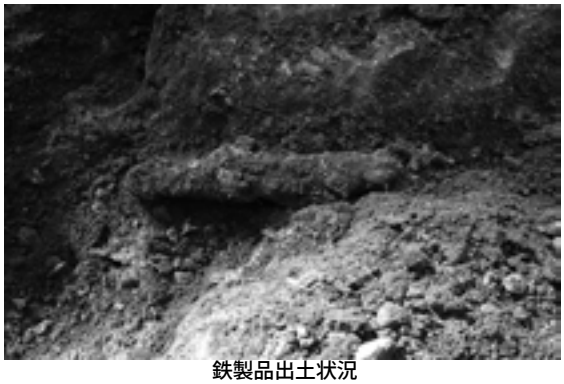
調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事関連事業として、国土交通省から愛知県教育委員会の委託を受けて平成27年10月から11月にかけて実施した。調査面積は450㎡である。

立地と環境　遺跡は、豊川水系寒狭川左岸の標高約400mの河岸段丘上に立地する。周辺で流路は大きく蛇行し、ちょうど川に囲まれた地形となっている。調査地点現況は川に向かって傾斜する西向き斜面にあり、造成された旧耕作地であったものが植林となっている。これまでに愛知県教育委員会による詳細遺跡分布調査と愛知県埋蔵文化財センターによる範囲確認調査が行われ、鍛冶滓が採取されていた。

調査の概要と まとめ　今回の調査では、複数の小土坑を検出したほか、土器小片と金属製品１点、事前調査と同様に鍛冶滓を採取した。金属製品の種類は不明であるが、処理前で直径4～5cm、長さ20cm程度の棒状を呈する。遺構・遺物ともに時期を判断する材料に乏しいが、地山から露出している岩盤、大型礫群の一部には人為的な加工痕が認められることなどから、耕作地整備の際の石垣石材の加工等に関連して、工具の修繕など鍛冶作業が付近で行われた可能性が考えられる。（武部真木）


遺跡遠景


鉄製品出土状況


完掘状況


鍛冶滓出土状況

大名倉遺跡ほか14遺跡（範囲確認）

所　在　地　北設楽郡設楽町

調 査 理 由　設楽ダム
調 査 期 間　平成27年5月～12月
調 査 面 積　1,500㎡
担　当　者　酒井俊彦・川添和暁・鈴木恵介

各遺跡の位置は平成27年度調査遺跡位置図を参照

大名倉遺跡（大名倉字大名倉北緯35度06分35秒 東経137度32分43秒）・**日掛遺跡**（字日掛北緯35度06分29秒 東経137度32分52秒）・**西地・東地遺跡**（字西地・東地北緯35度06分36秒 東経137度32分44秒）・**ハラビ平遺跡**（字ハラビ平北緯35度06分25秒 東経137度33分1秒）・**大名倉丸山遺跡**（字丸山北緯35度06分02秒 東経137度33分11秒）・**上戸神遺跡**（大字川向字上戸神北緯35度06分50秒 東経137度33分25秒）・**大栗遺跡**（字大栗北緯35度06分40秒 東経137度33分52秒）・**万瀬遺跡**（字万瀬北緯35度06分41秒 東経137度33分53秒）・**大畑遺跡**（字大畑北緯35度06分34秒 東経137度33分58秒）・**向橋遺跡**（大字八つ橋字向橋北緯35度07分49秒 東経137度35分39秒）・**永江沢遺跡**（字永江沢北緯35度07分33秒 東経137度35分12秒）・**添沢遺跡**（大字田口字添沢北緯35度06分22秒 東経137度34分23秒）・**笹平遺跡**（大字小松字笹平北緯35度06分46秒 東経137度34分03秒）・**川向東貝津遺跡**（大字川向字東貝津北緯35度06分26秒 東経137度33分52秒）

調査の経過　調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事関連の事前調査として国土交通省から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施した。今年度は 14 遺跡で遺跡範囲確認調査を実施した。調査は、各遺跡の調査対象部分に平面 1m×2m を基本とする試掘坑（テスト・トレンチ）を遺構基盤面または地山面まで掘りさげ、遺構・遺物の有無と堆積層序を確認する方法をとった。トレンチ数は 3 ヶ所（笹平遺跡）～ 182 ヶ所（大畑遺跡）、調査面積は 6 ㎡（笹平遺跡）～ 446 ㎡（大畑遺跡）、総計はトレンチ数 539 ヶ所、調査面積 1500 ㎡である。

立地と環境　遺跡は豊川上流域、三河山地の北設楽郡設楽町内に所在する。調査地区として豊川支流の境川流域に笹平遺跡、大畑遺跡、大栗遺跡、万瀬遺跡、川向東貝津遺跡、添沢遺跡、向橋遺跡、永江沢遺跡、上戸神遺跡、同じく寒狭川流域に大名倉遺跡、西地・東地遺跡、日掛遺跡、ハラビ平遺跡、大名倉丸山遺跡がある。遺跡は標高 360 ～ 460m の範囲に位置する。遺跡の位置する地形については、大名倉遺跡・笹平遺跡・川向東貝津遺跡は豊川支流の河岸段丘上、他は山地斜面または山地上平坦部（大畑遺跡）に立地する。（酒井俊彦）

調査概要１　ここでは、5 月から 10 月までに実施した調査について報告する。調査の内訳は、大名倉遺跡 38 カ所（88 ㎡）、日掛遺跡 27 カ所（54 ㎡）、西地・東地遺跡 5 カ所（10 ㎡）、大栗遺跡 19 カ所（170 ㎡）、万瀬遺跡 4 カ所（16 ㎡）、大畑遺跡 182 カ所（446 ㎡）である。また、本調査に伴い、遺跡の範囲が広がる可能性が生じたため、9 月に笹平遺跡 3 カ所（6 ㎡）を行った。

大名倉遺跡　大名倉遺跡は、大名倉地区の寒狭川右岸（西岸）に位置する。本遺跡は、下谷遺跡の名称でも知られており、これまでも多量の遺物が表面採集されている（名倉村 1951『三州名倉』、鈴木冨美夫ほか 1968『北設楽郡史 原始 - 中世』北設楽郡史編纂委員会）。1968 年 3 月には早稲田大学による発掘調査が行われており、近年報告書も刊行された（平野吾郎編 2004『下谷遺跡』北設楽縄文文化研究会）。現在は、町指定史跡となっている。

設楽ダム関連工事に伴い、2007・2008・2013・2014 年に愛知県埋蔵文化財センターにより範囲確認調査が行われている。これらに続き、今年度は、南北に細長い遺跡西端の山際が確認対象地域となった。

確認対象地域南端では、谷地形内の土石流堆積あるいは近代以降の耕作土が認められるのみであり、この状況は町道を挟んで東側（低位方向）でも同様である（TT01 ～ 04・06・07・29 ～ 36）。今年度の確認範囲外の南側には、現況でも谷地形を確認できるが、その北側への広がりに当たるのであろう。TT05 では表土直下で岩盤を確認した。東側からの丘陵末端に位置しており、この谷地形の範囲が推測される。

調査区北西端は現況でも流水が著しい地点であり、ここでも谷地形内の土石流堆積が確認できている（TT13・14）。これら二つの谷地形は、遺跡の範囲を画するものと推測される。

町道の西側（高位方向）では、耕作土の下にシルト質の地山を確認した。遺物の出土は耕作土中であるが、TT12 では戦国期の土師器鍋が出土した。

今回の確認対象の北東側（町道より東側の区域）では、縄文時代を中心とする遺構・遺物を確認した。特に、TT16 で確認できた法量の大きな土坑は竪穴建物跡の可能性もあり、良好な遺跡の保存が推定される。周囲からは縄文時代早期・中期の土器片が出土していることから、当該時期の活動痕跡が残されている可能性があろう。

日掛遺跡

日掛遺跡は寒狭川の西岸、大名倉遺跡の南東側に位置する。現況は、北西側から南東側に向かって傾斜をしており、これが寒狭川に張り出す３段の平坦面となっている。遺跡範囲とされている東西両端には現況でも寒狭川に向かって流れる沢がある。遺跡範囲内の東側にある高まりは、現在は東海自然歩道となっている路の開削によって独立状になったもので、本来は南西から伸びる尾根末端に当たるものである。

遺跡全体にわたり、旧河床の堆積および土石流堆積が認められた。最も良好な平場と想定された中央南側の平場も、盛土中から近代の陶器片が出土するなど形成時期は極めて新しく、急峻な旧地形を埋めて平場が造成されていたことが明らかとなった（TT24・25）。TT09 では、土石流堆積層の上で近世末の古銭（文久通宝）が出土したことから、TT09・11 付近の平場は近世末以降には存在していたようである。安定した層が確認できたのは、TT20・26・27 のみである。このラインは南から北に伸びる稜線に当たるものであるが、ここでも明確な遺構・遺物を確認できない結果となった。

西地・東地遺跡

西地・東地遺跡は、大名倉地区の寒狭川左岸（東岸）に位置する。本遺跡は、遺跡北西側（本来の西地遺跡側）を対象として、2014 年度に本調査が行われた。14B 区・14C 区とした町道を挟んだ両調査区では、縄文時代から近世にかけての遺構・遺物が良好に確認され、特に 14B 区では、石囲炉跡や土器敷炉跡をもつ竪穴建物跡・埋甕・袋状土坑など、縄文中期後半から後期初頭にかけての集落跡が見つかった。今年度の範囲確認対象地域は、遺跡範囲の南東端、寒狭川左岸（北岸）の段丘上である。当地は白鳥神社の跡地で、和鏡「水辺蘆双雀鏡」が出土した場所付近である。対象地域に TT01 から TT05 の５本のトレンチを設定した。

TT01・02 では、表層の耕作土や盛土下には河川堆積層が存在し、さらに下層には安定した堆積層を確認できたものの、この面からは明確な遺構は確認できなかった。TT01 では近世の遺物が出土しているが、上層の耕作土からのみである。TT03 では北側から

伸びる稜線末端の安定した堆積層が確認できたものの、遺構・遺物は確認できなかった。TT04 は旧河床景観で、TT05 はごく最近の盛土が厚く堆積している場所であった。

大栗遺跡

大栗遺跡は川向地区の遺跡で、境川に流れ込む戸神川の左岸（東岸）、擂鉢状の谷地形内に形成された緩斜面に立地する。大畑遺跡が位置する丘陵の下部、戸神川が東から南方向に屈曲する部分に位置しており、緩斜面の現況も平面形状が弧状を呈している。

本遺跡は、平成 26 年度に範囲調査が行われたものの、機材など調査体制の事情により、一部様相が把握しきれなかった。本年度は、より詳細な確認が必要となった遺跡中央部と、より深部まで確認が必要となった遺跡西部の調査を行うこととなった。なお、平成 27 年度現在、大栗遺跡の一部では本調査も行われている。

遺跡範囲の中央部で調査した、TT01 ～ 14 では、擂鉢状の傾斜を呈する TT01･TT02 で、遺構・遺物の確認はできなかったものの、緩傾斜となる地形の底部分では、遺構・遺物の存在が想定される。特に、TT13・14 では、地山様の堆積層が遺物包含層となっている可能性がある。７月現在行われている 2015 年度の本調査、A 区としている調査区南側では北東から南西方向への土石流堆積の塁重が確認されており、今回確認された石器を含む包含層は、この堆積層に由来するものの可能性もある。その形成時期が問題となろう。

一方、TT15 ～ 18 が調査された遺跡西端の谷地形部分では、明瞭な遺構・遺物が確認できなかった。TT15 ～ 17 では、現況とは異なる棚田様の水田が確認されたものの、時期は近代以降である。TT18 では、この棚田様の水田自体も確認できないほど、形成された堆積層自体は極めて新しい。TT18 付近の前年度の調査トレンチ（平成 26 年度 TT10）では、上層で弥生土器が出土したものの、二次堆積の可能性が極めて高い。

万瀬遺跡

万瀬遺跡は、大畑遺跡が立地する丘陵に沿って、境川が西側から南側さらにまた西側へと、流れが蛇行する場所にあたる。遺跡は、川向地区の境川右岸（西岸）の大きな谷地形内の緩斜面に位置しており、境川との比高差は、現況で 25m 以上である。本遺跡は平成 26 年度に本調査が行われた。本年度の万瀬遺跡範囲確認対象地域は、遺跡範囲とされる西端、県道小松・田口線の西側に作られた斜面中腹の平場である。

TT01 では土石流堆積層が厚く堆積している状況であった。TT02・03 では、耕作土や土石流堆積下からやや安定した黄褐色粘土質シルトが認められた。しかし、近代以降の遺物しか出土せず、検出された遺構様のものも近代以降のものと考えられる。TT04 も耕作土の下に比較的安定した堆積層見つかったものの、この上面では近代以降の遺物のみで、遺構状のものもこの時期以降のものと考えられる。

大畑遺跡

大畑遺跡は、川向地区の境川右岸（北岸）に位置する。当地は、崩落地形によって形成された南側に突き出した段丘上に立地しており、東および南側には境川が、西側には戸神川が流れそのまま境川へと合流する。この崩落地形の東側奥には万瀬遺跡が、西側には大栗遺跡が位置し、南側下段の緩傾斜面には川向東貝津遺跡が位置する。この段丘は、周囲との比高差が著しく高くなっており、東側では境川との比高差は約 46m、南側では川向東貝津遺跡が立地する緩傾斜面との比高差は約 70m である。

今回の範囲確認調査成果を、地区別に分けて総括する。

旧ゲートボール場北側

TT001 ～ 010・012 ～ 018・021 が当たる。当地の北端は、岩盤上に風成堆積層が確認されるのみで、遺構・遺物は認められなかった。南側の丘陵上位に向かっていくに従い、徐々に黄褐色粘土質シルトの堆積を確認することができた。しかし、そこでも遺構・

遺物は確認できないでいる。

旧ゲート
ボール場内　TT022・023・028 ～ 030・034 ～ 037・040 ～ 044・048・049・053・054・059・060・063・065・112・113 が当たる。当区域は、全面に渡って多量の盛り土により平坦面が形成されている。その中でも TT034・TT035・TT040 あたりは浅く、時期不詳の落ち込み（遺構か）を確認している。地山直上で確認される堆積層は、平坦面造成時に撹乱を受けているものが多いようである。旧地形は北東方向に向かって大きな谷地形が存在していたものと考えられ、最も深い部分を埋めたと考えられる TT112・TT113 では現地表下 5m 以上を掘削しても地山まで達しなかった。

西側丘陵部　TT011・019・020・024・025 ～ 027・031 ～ 033・038・039・045 ～ 047・050 ～ 052・066 ～ 068・074 ～ 076・083 ～ 085・091 ～ 093・106 ～ 111・126・129・130 ～ 135 が当たる。当地域は、TT066 および TT067 を丘陵頂点とする高まりである。北側傾斜面で TT025 や TT038 で不明落ち込みを確認したものの、遺物の出土は確認されていない。遺構・遺物が濃厚に確認されたのは南側緩傾斜面であり、TT066・TT093・TT106・TT107 ～ TT109・TT130・TT131・TT134 で 遺 構 が、TT075・TT093・TT108・TT107・TT110・TT111 で遺物の出土を確認した。特に TT075 では地山直上の、にぶい黄橙色粘土質シルトから出土遺物を確認することができ、これが本来の遺物包含層と考えられる。その層自体は、南側緩斜面に広く認められた。

谷部分　TT055 ～ 058・064・069 ～ 071・077・078・086・087・094 ～ 096・101・102・104・114 ～ 125・127・128 が当たる。当区域は、両丘陵の谷底部分にあたり、黒ボク土といわれる黒色土の堆積が著しい。黒色土中からは､石器の出土が多く認められ、出土した土器では TT070 で縄文晩期、TT116 で縄文中期？、TT123・124 で条痕文（弥生前期？）が認められる。東西両脇の丘陵部からの遺物流入も著しいようであるが、谷部分でも TT094・TT101・TT100 より北側の範囲では、地山とする明黄褐色粘土質シルト上でピット･土坑を検出することができた。TT094･TT101･TT100 より南側に向かって、極めて緩やかな傾斜地形を呈するようになる。TT102 では、掘削中に激しい湧水を確認した。湧水を利用した施設など、当時の活動痕跡が残されている可能性がある。

南側傾斜面　TT136～164 が当たる｡地表で確認できる湧水地点を含む範囲である｡黒色土直下には、地山のより低位層（粘土質シルトがなく、礫の比率が高い部分）が認められる。この範囲では、金属を対象とした砥石の出土が多く、磨石敲石類としたものも、金属を対象としたものの可能性がある｡また､TT159 からは土坑と近世陶器が見つかっていることから、近世期の活動痕跡が残されている可能性がある。TT144 では旧道脇に設けられた側溝とおぼしき遺構も見つかっており、これら近世の活動痕跡は旧道との有機的関連性も考えられるかもしれない。

東側丘陵部　TT061・062・072・073・079 ～ 081・088 ～ 090・097 ～ 100・103・105・165・169 ～ 182 が当たる。東側丘陵部は、TT088・089 の北西側で遺構と思われる落ち込みが確認され、TT165 で剥片の出土が確認された程度である。丘陵頂上あるいは南東側裾部では遺構・遺物は確認されていない。しかし、TT165 の北東側の緩斜面の区域で時期不明の土器片を採集することができた。このことから、特に南西側緩斜面側は、遺構・遺物がのこされている可能性が考えられよう。

笹平遺跡　遺跡は、境川左岸の河岸段丘上に位置している。同年度に 6,930 ㎡を対象として本調

査が行われたが、15Ba 区北端で弥生時代前期の土器棺墓 1 基が検出されたことから、調査区外北側の傾斜地形部を中心に調査を行った。

TT01 から TT03 のいずれからも丘陵上からの土石流堆積が確認されたのみで、遺構・遺物を確認することはできなかった。（川添和暁）

調査成果２　ここでは主に 10 月から 12 月までに実施した調査成果について報告する。調査の内訳は、大名倉丸山遺跡 39 カ所 (84 ㎡)、ハラビ平遺跡 17 カ所（64 ㎡）、上戸神遺跡 5 カ所（18 ㎡）永江沢遺跡 30 カ所（72 ㎡）、向橋遺跡 37 カ所（141 ㎡）、添沢遺跡 88 カ所（256 ㎡）である。本調査時に下層から石器の出土をみて急遽実施された川向東貝津遺跡では 11 カ所（75 ㎡）を 9 月に実施した。

大名倉丸山遺跡　平成 27 年度調査対象範囲は、北向き斜面の中位から下位に造成された平坦面に位置する。調査地は南東に向かって緩やかに標高が上がり、調査地東端部は南北方向に痩せた尾根状の地形が残る。さらに東側は切り立った崖となっている。

結果として遺構や遺物の検出は無かった。本調査が行われた平坦面は現況の耕作土と、すぐ下にも耕作土のような層が認められることから、新しい年代に複数回にわたって造成を受けている。造成以前から残存した層の分布も一部にとどまり、旧表土の可能性がある黒色土は調査地北辺沿いの TT13、TT14 等に分布する。反対に南辺部分の TT25 や TT30 では表土直下に地山が検出されたことから、元来は北西向きの緩斜面であった調査地を大きく削平し、北側に土砂を盛って平坦面を広く確保している様子が見える。範囲のほとんどで旧地表面は現況よりも高い標高に位置したものの、すでに滅失しているものと思われる。

ハラビ平遺跡　平成 27 年度調査対象範囲は南西向き斜面に位置している。現地形は宅地が 3 段に造成されており、調査においても全体で厚く堆積した造成土を確認した。

調査の結果、造成以前の旧地形は、調査地中央部に位置する北東―南西方向と、それよりもやや小規模な南東部の東―西方向の二本の谷が想定される。南東部の東―西方向の谷は、TT15 の下位に黒色土の層位が確認できたが、TT07 で縄文土器を検出した層はこれとは別の砂礫層であり、上位斜面より流れた土石流の中に混在していた可能性も考えられる。明確な遺構は見られなかった。

上戸神遺跡　調査対象地区は現況の国道より南、概ね全域が南西向きの斜面に位置している。TT09 は過去の範囲確認調査で土坑が検出されているため、連続部分も含めて本調査としての実施であったが遺構とは確認できなかった。遺構の基盤層と考えられている褐色砂層も掘り下げを行ったが、下位は径 1m におよぶ円礫が多数検出される砂礫層となり遺構や遺物は確認できなかった。

永江沢遺跡　範囲確認調査対象範囲は、北側の境川に向かって突出する尾根の裾部分に馬蹄形に設定された。トレンチは、調査範囲の両南端部分に設定した。調査範囲の東は北流する天堤川の左岸河岸段丘、西は天堤川と合流後の境川の左岸河岸段丘となっている。尾根上には設楽町指定天然記念物「八橋のウバヒガン桜」がある。

調査の結果、尾根の東側裾部分、TT07、TT08 では、表面に近い整地土層から 16 世紀代の天目茶碗の破片が検出された。この遺物を上限としてこれより新しい近代の陶磁器破片が同じトレンチより多く出土している。これらの遺物は尾根上から転落してきたと考えられ、近代以降に尾根上が小学校として整備される以前に居住などの土地利用が

あったと考えられる。

尾根西側では、小規模な河岸段丘上に耕作地を造成している。TT31 ではややしまりのある褐色シルトの層が地表下 1m 程度で観察された。落ち込みのように見えるものも検出されたが、内部に根を多く含んでおり、近現代の水田面造成以前に繁茂した植物の痕跡と推定した。

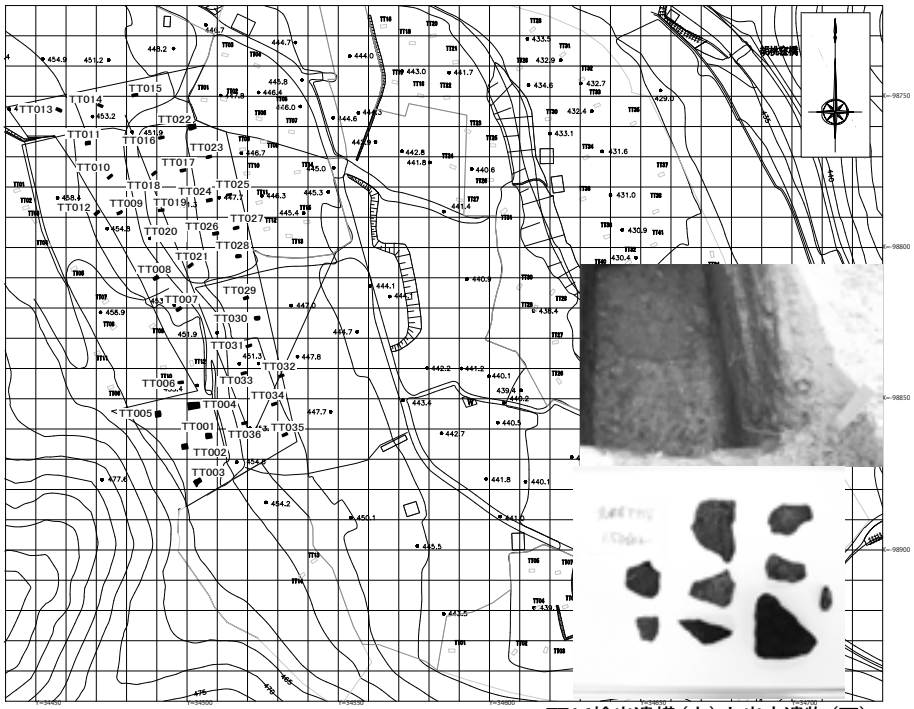
向橋遺跡　範囲確認調査対象範囲は、南北に流れる境川の東岸、河川敷と山裾の境界部分に位置している。斜面裾部分という立地から想定される通り、掘削を行ったトレンチの多くで、斜面上位からの土石流による砂礫が厚く堆積し、岩盤や確実な地山に到達することが困難な状況であった。調査対象地北東端の TT38 ではシルト層からなる水成堆積層が検出されたことから、河川敷に近い箇所においては高水位となる時期があったものと考えられる。遺構・遺物は確認できなかった。

添沢遺跡　範囲確認調査対象範囲は、国道 257 号線の南西側、旧添沢鉱泉の谷より西側に流下する沢が境川に合流する地点に位置する。この沢を挟んで尾根状の地形が西向きにわずかに突出する地形となり、現況はこの尾根状の地形全体に棚田が造成されている。

北側の尾根では、TT01~TT29 までの調査、南側の尾根では TT30 以降の調査を行った。その結果明確な遺構は検出されていないものの、国道よりも下位の斜面全域に安定した褐色シルト層の基盤層が検出され、基盤層上層に位置する黒褐色シルト層からは山茶碗の破片が検出された。一方の南側の尾根先端部は、前述の遺構が検出可能な安定した層は少なく、斜面の下位は河川堆積により、上位は土石流によると考えられる砂礫層で形成されている。河川敷と上位の段丘面の境界にあたる崖の下位では黒色土が検出され、須恵器（壷）口縁部が出土した。同様の層は接近した標高付近に帯状にわずかに分布するものの、広範囲では確認できていない。

川向東貝津遺跡　川向東貝津遺跡 15A 区の遺構検出面より下層から石器が複数検出されたことから、急遽範囲確認調査を実施した。15A 区の遺構にとっては基盤層となる黄褐色シルト層より、安山岩系・白色風化石材の石器が検出された。トレンチは最大で遺構検出面より 1 m の深さまで掘削を行い遺物の有無を確認した。石器・石材分布は、最上層の黄褐色シルト層にもっとも多いが、下位の河川堆積礫層の直上からも出土しており、下位にいたっても一定数の石器・石材の出土が認められる。石器・石材の分布範囲は、本調査 15A 区西端部に集中する。掘削を行ったトレンチでは、表面と上位には黒曜石を含む石器・石材が検出され、下位では安山岩系と白色風化石材の石器・石材を検出した。これについて、愛知学院大学の白石浩之教授から複数の文化層が存在する可能性を指摘された。

（鈴木恵介）

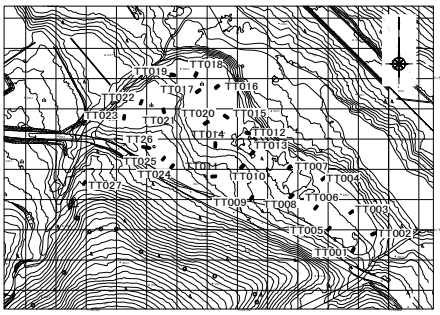


大名倉遺跡

TT16検出遺構（上）と出土遺物（下）



西地・東地遺跡

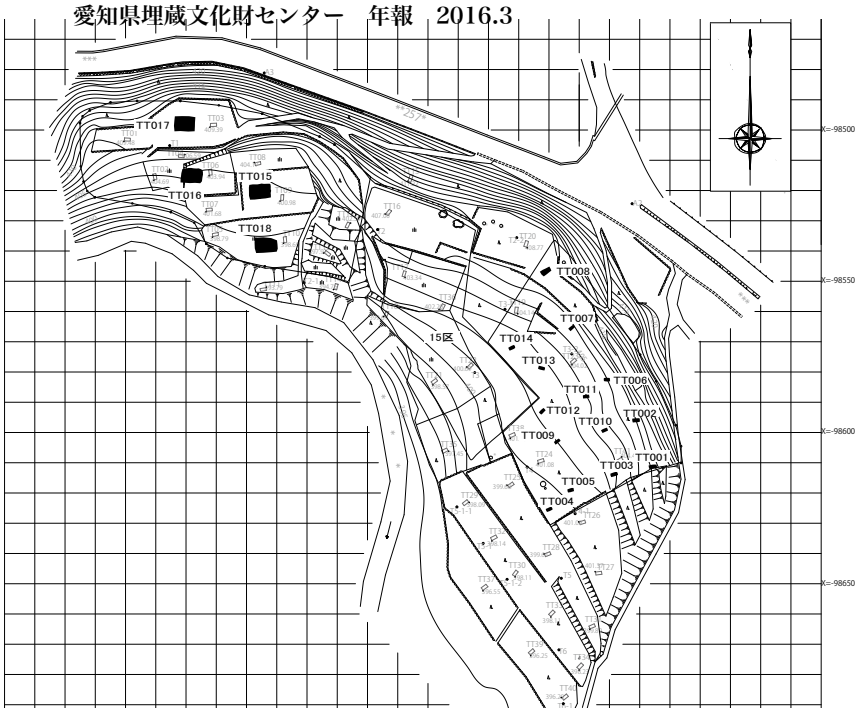


日掛遺跡

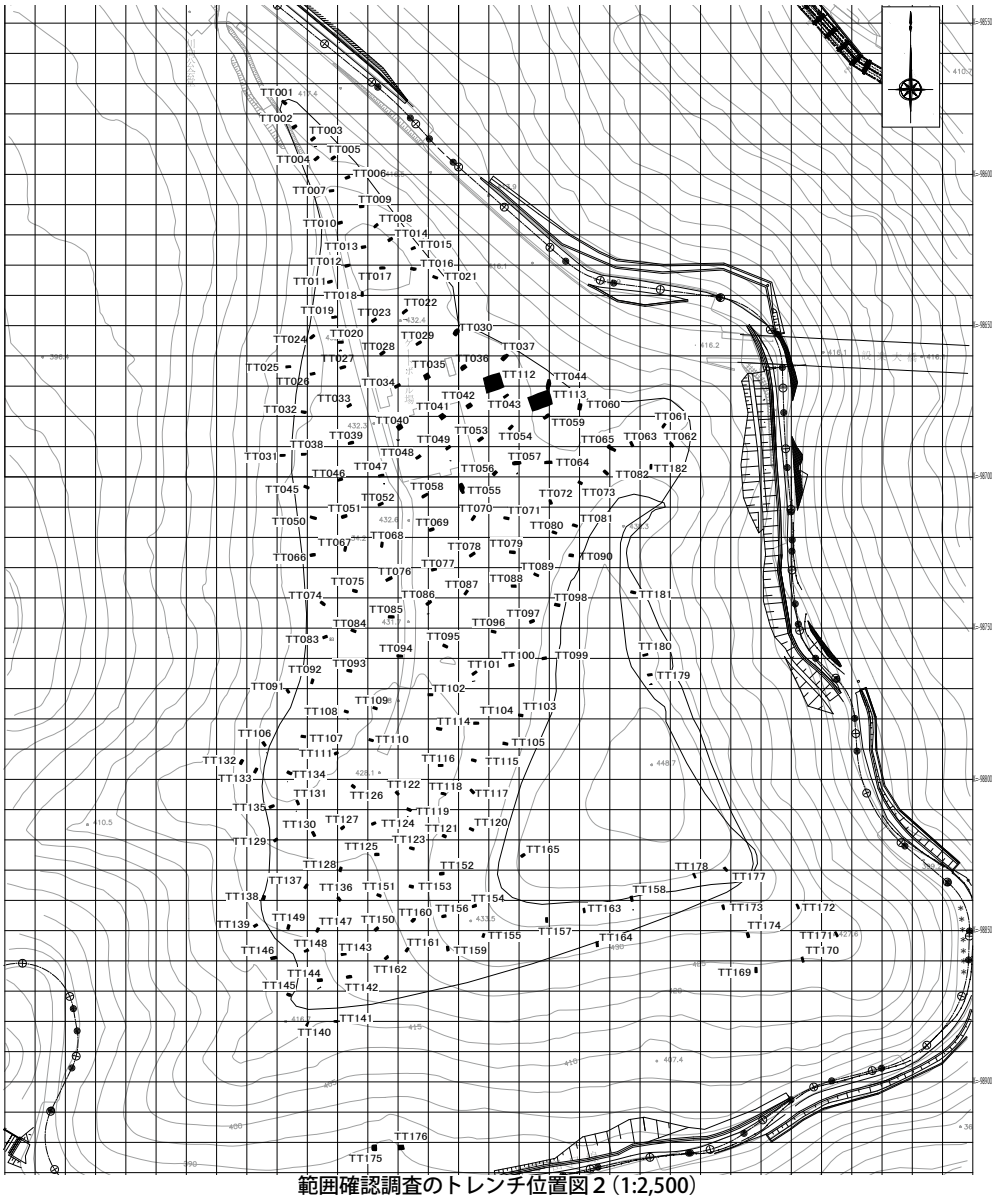


万瀬遺跡

範囲確認調査のトレンチ位置図１（1:2,500）

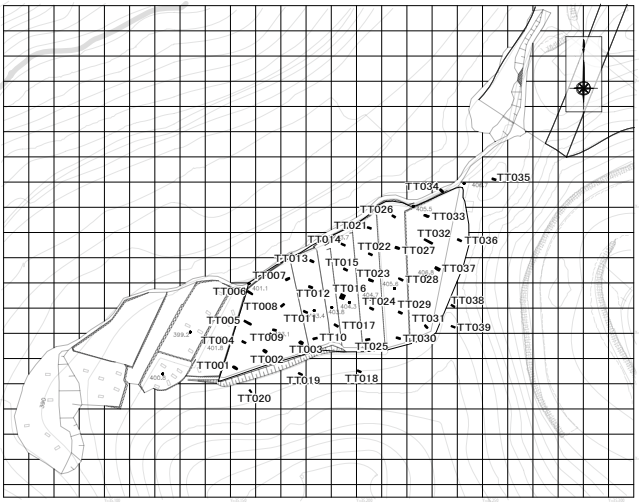


大栗遺跡

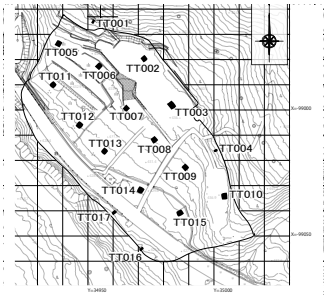


大畑遺跡

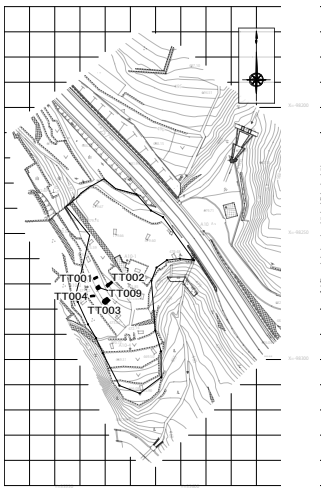
範囲確認調査のトレンチ位置図２（1:2,500）



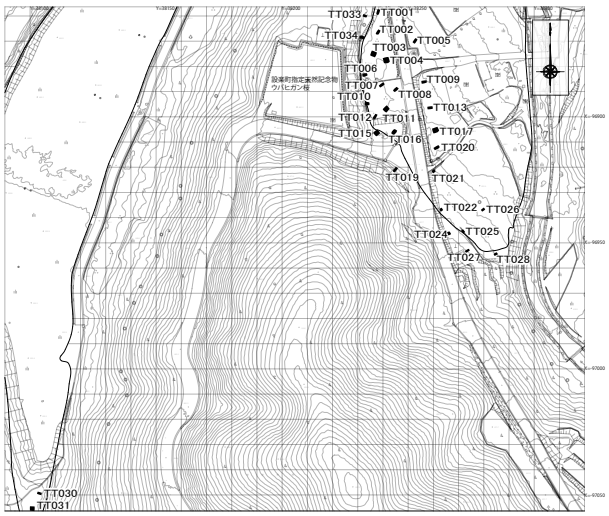
大名倉丸山遺跡



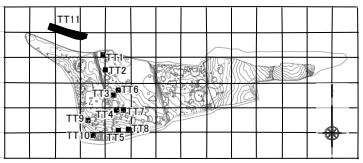
ハラビ平遺跡



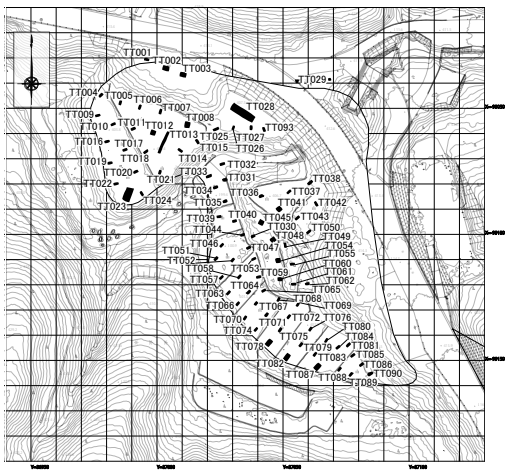
上戸神遺跡



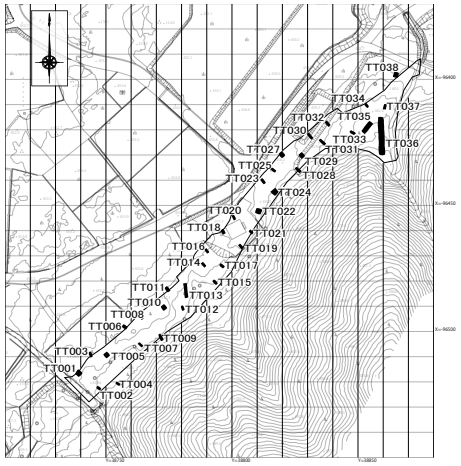
永江沢遺跡



川向東貝津遺跡



添沢遺跡



向橋遺跡

範囲確認調査のトレンチ位置図３（1:3,000）

III. 刊行報告書抄録

第199集　東下地遺跡

東下地遺跡は、豊橋市の北東部、豊川によって形成された左岸台地と豊川の支流である神田川に挟まれた標高７ｍ前後の沖積地に位置する。発掘調査は、道路改良工事（主）東三河環状線にかかる事前調査として実施した。調査期間は平成23年５月から平成24年３月、平成24年６月から７月である。調査面積は平成23年度が10,630㎡、平成24年度が274㎡で、計10,904㎡である。

発掘調査の成果としては、 弥生時代中期末の水田跡と鎌倉時代の河川跡、墓地、柱穴群を中心とする複合遺跡であることが明らかになった。水田跡は、段丘縁辺から沖積低地へ続く緩斜面で検出された。地形に沿う溝の両側に10㎡前後の小区画水田が展開する。13世紀前後の鎌倉時代を中心とする遺構群は、蛇行する河川跡から多量の山茶碗・小皿・土師器皿などが川岸に沿うように検出され、河川右岸に集石墓や土壙などが重複する墓地、さらに柱穴群が展開する。東三河の中世遺跡としては土師器皿の組成が高く、土壙群が展開することから、墓地を中心とする遺跡として注目される。（永井宏幸）



東下地遺跡自然流路（454SX）出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ひがししもじいせき
書　　名	東下地遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第199集
編著者名	永井宏幸、鬼頭剛、株式会社パレオ・ラボ（小林克也ほか）
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2016年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひがししもじいせき 東下地遺跡	あいちけん　とよはしし 愛知県豊橋市 いしまきほんまち 石巻本町	23201	791299	34度 47分 51秒	137度 26分 14秒	2011.05.09～ 2012.03.16 2012.05.09～ 2012.07.27	10,640 274	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東下地遺跡	集落	弥生時代 鎌倉時代	水田、溝 河道、墓、掘立柱建物 土坑等	土器、石器 山茶碗、小皿 古瀬戸製品、中国産 陶磁器、土師器皿、 土師器鍋、金属製品	弥生時代中期末の水田跡 鎌倉時代の河川祭祀と土坑墓・集石墓などの墓群、多数の柱穴群

文書番号	発掘届出（23埋セ第1号・2011.4.1、24埋セ第1号・2012.4.4 ） 通知（23教生第214号・2011.4.20、24教生第289号・2012.4.27） 終了届・保管証・発見届（23埋セ第175号・2012.3.16、24埋セ第61号・ 2012.7.27） 鑑定結果通知（24豊教美21・2012.4.5、27豊教美53・2015.5.7）

要約

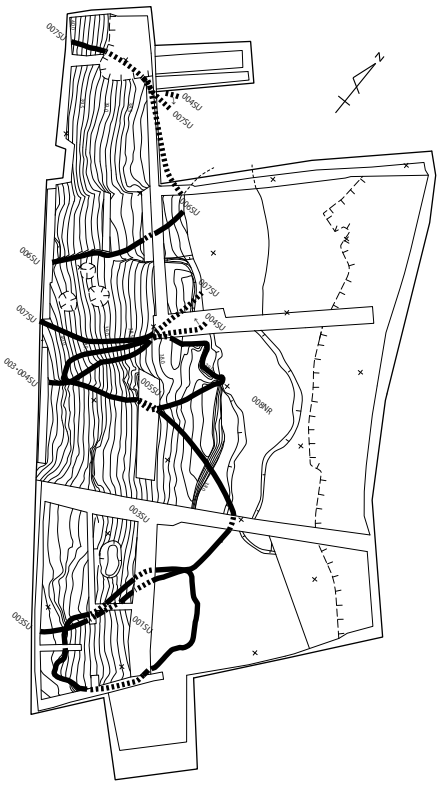
東下地遺跡は、豊川の左岸に形成された台地と豊川の支流である神田川の右岸に挟まれた沖積地に位置する。発掘調査の成果により、弥生時代中期末の水田跡と鎌倉時代の河川跡、墓地、柱穴群を中心とする複合遺跡であることが明らかになった。水田跡は、段丘縁辺から沖積低地へ続く緩斜面で検出された。地形に沿う溝の両側に10㎡前後の小区画水田が展開する。13世紀前後の鎌倉時代を中心とする遺構群は、蛇行する河川跡から多量の山茶碗・小皿・土師器皿などが川岸に沿うように検出され、河川右岸に集石墓や土壙などが重複する墓地、さらに柱穴群が展開する。東三河の中世遺跡としては土師器皿の組成が高く、土壙群が展開することから、墓地を中心とする遺跡として注目される。

第202集　八巻古窯跡

八巻古窯群は、知多郡東浦町緒川八巻に位置する。地形的には丘陵地帯を開析する小規模な支谷の南西側緩斜面に位置している。

今回の調査は八巻古窯群としては二度目となっている。1次調査は昭和36（1961）年に実施され、窯体３基が検出されている。今回の調査区は1次調査の調査区北東部に該当し、1次調査で確認された窯体に伴う灰層を検出した。

出土遺物は大半が八巻古窯群の製品とその窯道具である。前者の器種には碗・小碗・皿・壺・瓶などが見られ、灰釉系陶器（山茶碗）窯としては比較的多器種に及ぶ。（池本正明）

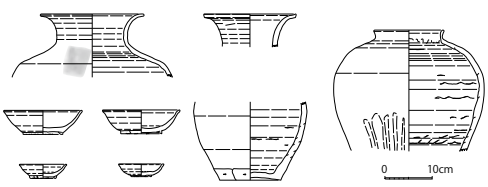


調査区全体図（1:400）



調査区全景





出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はちまきこようぐん
書　　名	八巻古窯群
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第202集
編著者名	池本正明 小澤一弘 鈴木恵介 株式会社パレオ・ラボ
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2016年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はちまきこようぐん 八巻古窯群	あいちけん　ちたぐん 愛知県知多郡 ひがしうらちょうおがわ 東浦町緒川	23442	470011	34度 58分 80秒	136度 55分 3秒	2010.5 2011.04～ 2011.07	50 770	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八巻古窯群	窯跡	平安時代末 ～ 鎌倉時代 江戸時代	灰原 流路	中世陶器 近世陶磁器	

文書番号	発掘届出(21埋セ6 21.4.3・22埋セ131 22.3.10)　通知(21教生158 21.4.17・22教生2616 22.3.23) 終了届・保管証・発見届(21埋セ29 21.5.28・22埋セ128 22.7.27) 鑑定結果通知(21教生604 21.6.18・22教生2087 22.12.24)

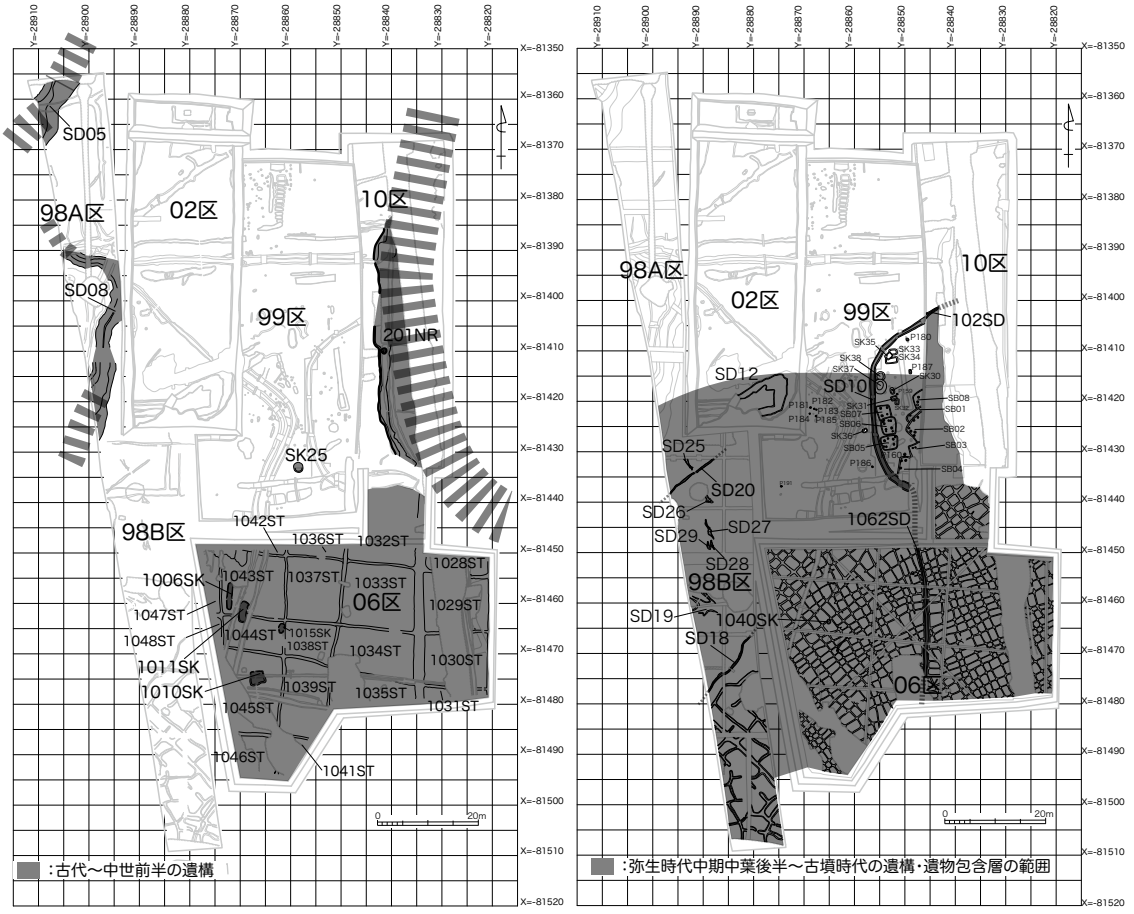
要約

八巻古窯群は昭和36(1961)年に愛知県教育委員会によって調査され、窯体3基が確認されている。今回の調査は窯体下方の斜面部に該当するが、従来より知られている窯体に伴う灰原の末端が検出できた。

第203集　伝法寺野田遺跡Ⅱ

伝法寺野田遺跡は愛知県一宮市南西部にある遺跡で、本報告は平成10年度～平成14年度に当センターにて発掘調査を実施し報告した地点の東から南東に隣接する箇所のものである。

本報告書では、確認された遺構と出土遺物の検討から、弥生時代前期～弥生時代中期中葉の小区画の水田遺構、弥生時代中期中葉後半～古墳時代の小区画の水田遺構、古代～中世前半期の条里型の水田遺構の３面の水田遺構があり、その後中世の方形土坑、江戸時代後期～近代にかけての土坑・溝などが展開することを確認できた。また出土遺物では、弥生時代前期の浮線文鉢の胎土分析を実施し、海綿骨針が含まれる特徴のある胎土であることを明らかにし、土器に含まれる砂礫が北陸地域に由来する可能性を指摘した。（蔭山誠一）



伝法寺野田遺跡の遺構変遷（1:1,500）

報告書抄録

ふりがな	でんぽうじのだいせき
書　　名	伝法寺野田遺跡II
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第203集
編著者名	蔭山誠一、鬼頭剛、永草康次
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2016年 3月 31日

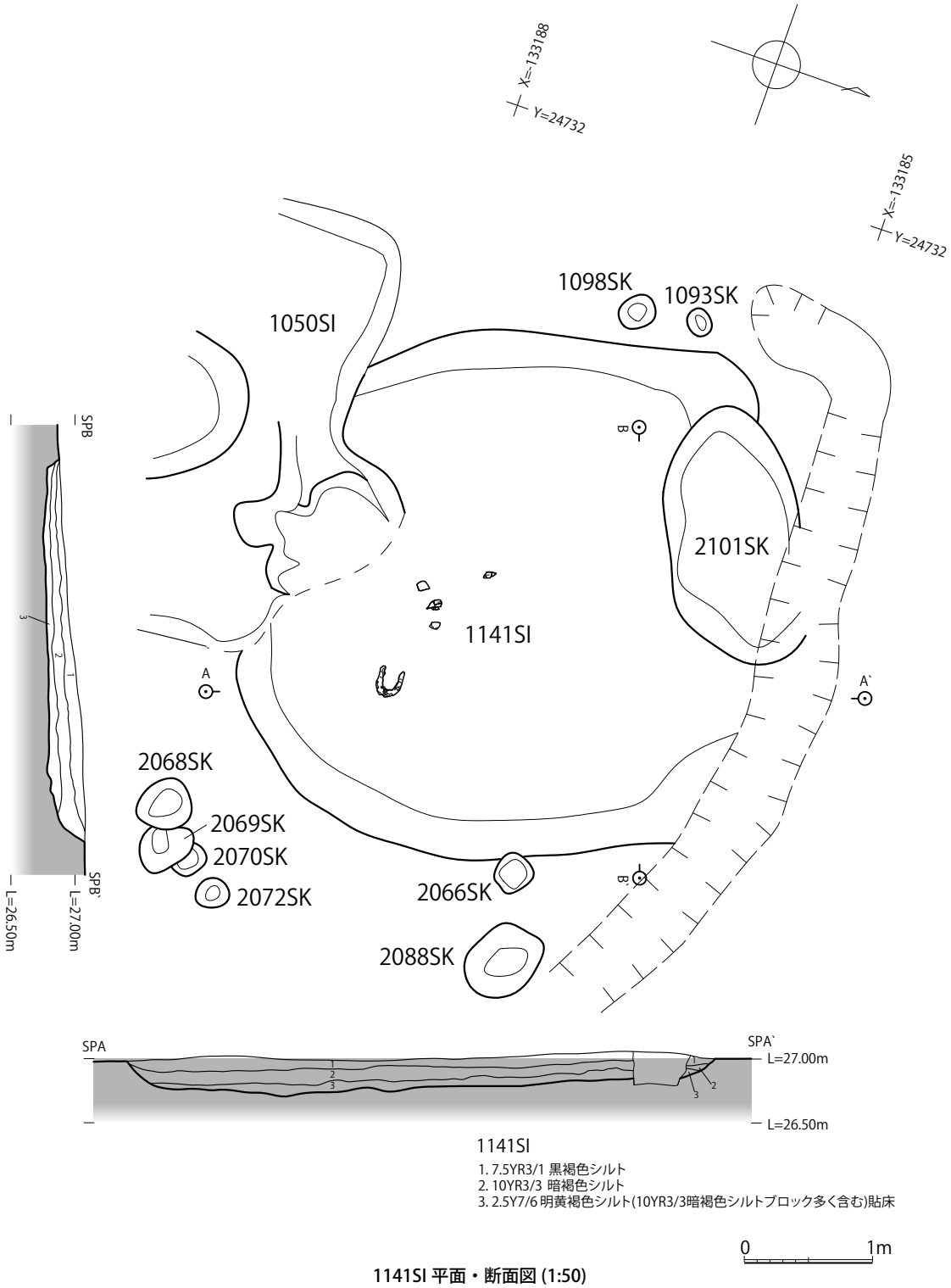
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
でんぽうじのだ 伝法寺野田 いせき 遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 たんようちょうでんぽうじ 丹陽町伝法寺	2302	020103	35度 15分 46秒	136度 50分 39秒	2006.11.1～ 2007.3.30 2010.10.1～ 2010.12.28	3,800㎡	五条川右岸流域下水道事業・五条川右岸流域下水道事業焼却施設建設に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伝法寺野田遺跡	水田・集落	弥生時代前期～江戸時代後期	水田遺構・溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉系陶器施釉陶器・打製石鏃・磨石・鉄製釘・鉄製把手・木杭	

文書番号	発掘届出(18埋セ第50号・2006.10.3)　通知(18教生第1713号・2006.10.30) 終了届・発見届・保管証(18埋セ第115号・2007.3.30)　鑑定結果通知(19教生第903号・2007.7.13) 発掘届出(22埋セ第138号・2010.8.24)　通知(22教生第1236号・2010.9.7) 終了届・発見届・保管証(22埋セ第196号・2010.12.9)　鑑定結果通知(22教生第2473号・2011.2.17)
要約	弥生時代前期～弥生時代中期中葉後半と弥生時代中期中葉後半～古墳時代前期前半の小区画型水田遺構、奈良時代～鎌倉時代の条里型水田遺構、中世後半～近代の水田遺構・溝・土坑が確認できた。愛知県の水田遺構の変遷を解明する上で、貴重な資料になるものと思われる。

第205集　野添遺跡

野添遺跡は豊橋市北部に所在し、豊川左岸の河岸段丘上に立地する。調査区は、河岸段丘上の縁辺部に位置し、南側及び東側は、神田川沿いの低地へと落ちる段丘崖となっている。調査では、古代の竪穴建物、掘立柱建物、土坑、遺物集積、中世の大溝等が確認された。（松田　訓）



1141SI 平面・断面図 (1:50)

報告書抄録

ふりがな	のぞえいせき
書　　名	野添遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第205集
編著者名	松田 訓・パレオラボ株式会社・日鉄住金テクノロジー株式会社
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2016年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
のぞえいせき 野添遺跡	あいちけん　とよはしし 愛知県豊橋市 いしまきほんまちにししもじ 石巻本町西下地	23201	790844	34度 47分 55秒	137度 26分 15秒	2013.11.05～ 2014.03.25	2,000	道路建設（主） 東三河環状線 道路改良工事 に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野添遺跡	集落 ほか	古代 ～ 中世	竪穴建物、 土坑、 大溝等	土器、 須恵器、 灰釉陶器、 山茶碗	

文書番号	発掘届出（25埋セ第79号・2013.9.20）　通知（25教生第1889号・2013.10.11） 終了届（25埋セ第159号・2014.3.28）　保管証・発見届（27埋セ第19号・2015.5.7） 鑑定結果通知（27豊教美第54号　2015.5.7）

要約

本遺跡は豊川及びその支流によって形成された河岸段丘の高位面に立地し、古代の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑などのほか、中世の大溝も検出され、居住域が想定される。本遺跡は、周辺の台地上に展開する散布地などとともに、当該期の遺跡群に含まれているものと思われ、周辺の集落遺跡を含めた各時代の生活実態を解明する上で、貴重な資料として位置づけることができよう。

第206集　多り畑遺跡

多り畑遺跡は豊橋市石巻町字札辻に位置する。地形的には、豊川の支流となる神田川の段丘上に位置している。調査区の標高は28.5mとなる。調査は平成21年に実施し、面積は1440㎡である。

調査の結果、縄文時代早期、弥生時代後期から古墳時代、中世の遺構を確認した。

このうち、縄文時代早期の遺構は調査区の北側直径30m程度の範囲に分布する。219SIはやや小規模となるが当該期の竪穴建物の可能性を持つ。（池本正明）

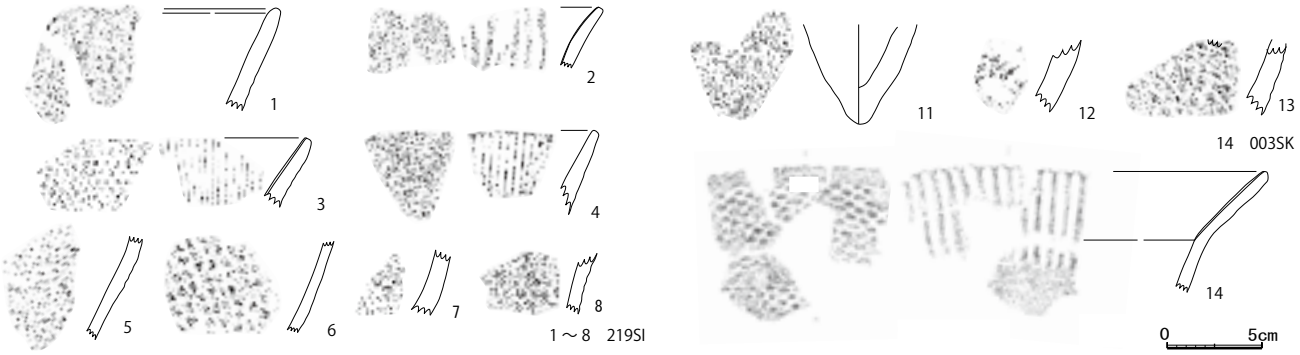


調査区全体図（1:500）





上調査区全景・下219SK



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	たりばたいせき
書　　名	多り畑遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第202集
編著者名	池本正明、村上昇、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2016年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
たりはたいせき 多り畑跡	あいちけん　とよはしし 愛知県豊橋市 いしまきほんまち 石巻本町	232010	790326	34度 47分 43秒	137度 26分 19秒	2010.5 2010.10～ 2011.02	100 1,440	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
多り畑遺跡	集落	縄文時代 ～ 江戸時代	竪穴建物、掘立柱建物、 土器棺墓、土坑、溝等	縄文土器、石器 弥生土器、土師器 中・近世陶磁器、	

文書番号	発掘届出（21埋セ8 21.4.4・21埋セ44 21.8.4 ）　通知（21教生118 21.4.13・21教生1060 21.8.14 ） 終了届・保管証・発見届　（21埋セ26 21.5.20・21埋セ120 23.3.10） 鑑定結果通知（21豊美172 21.7.7・21豊美576 22.3.9）

要約

調査の結果、縄文時代早期、弥生時代後期から古墳時代、中世の遺構を確認した。

このうち、縄文時代早期の遺構は調査区の北側直径30m程度の範囲分布する。219SI・357SIはやや小規模となるが当該期の竪穴建物の可能性を持つ。

IV. 埋蔵文化財展・考古学セミナーの記録

平成27年度　埋蔵文化財展等の活動について

1　目的と概要

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開するとともに、歴史講座や体験プログラムなど多彩な企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした。

2015年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、新出土品展と重要文化財の特別公開を行った。夏も愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、愛知県教育委員会の協力のもと、バックヤードツアーと重要文化財の特別公開「赤と黒」をおこなった。秋には、愛知県埋蔵文化財調査センターの協力を得て、連続歴史講座を６回開催した。11月には、名古屋市博物館において、当センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室の３者が主催する考古学セミナー『あいちの考古学2015』を行った。

2　埋蔵文化財新出土品展　「山の考古学」

1）会場：愛知県埋蔵文化財調査センター

2）会期

平成27年4月4日（土）から４月19日（日）

3）展示会名

新出土品展 「やとみ新発見展！」

4）開催趣旨

弥富市にある「愛知県埋蔵文化財調査センター」にて、「やとみ新発見展（しんはっけんでん）！」と題して、昨年度の発掘調査成果について、展示解説を実施。入館無料。

5）内容

○埋文桜ニュース発行

○展示

２階 資料管理閲覧室

「考古楽さんぽ」展

―尾張国の城下町と街道―

２階 収蔵庫C

「新出土品展2015　山の考古学」

「土器クロニクル」展

１階 ロビー　２階 廊下 パネル展示

配布資料：埋文桜ニュース（遺跡の概要説明）

ペーパークラフト（パレス土器）

遺跡の紹介しおり

6）考古楽縁日

開催日初日２日間は、弥富市社会教育センターで「やとみ春まつり」が開催されるのに合わせ、埋蔵文化財および当センターの活動を周知する目的で「考古楽市2015」を実施。

○縁日品目

弓、輪投げ、水風船、鯨面体験、写真撮影

＊縁日参加者数：828名

7）その他

外部より開館していることがわかるよう、布製の垂れ幕や、ノボリを多数設置。また「やとみ春まつり」会場にて、チラシの配布を行う。また、調査センター入り口付近においても、チラシの配布を行った。期間中、愛知県埋蔵文化財調査センターが国指定重要文化財である「朝日遺跡」の遺物を展示。

＊全期間中の来館者：923名

▼2015春の埋文展　入館者数と天気

	小計	天気
4月4日（土）	491	曇のち雨
4月5日（日）	337	雨
4月6日（月）	3	曇時々雨
4月7日（火）	22	曇一時雨
4月8日（水）	13	雨のち曇
4月9日（木）	5	曇
4月10日（金）	3	曇のち雨
4月11日（土）	-	休館
4月12日（日）	-	休館
4月13日（月）	1	雨
4月14日（火）	9	雨
4月15日（水）	12	曇
4月16日（木）	7	曇
4月17日（金）	8	曇のち晴
4月18日（土）	6	曇
4月19日（日）	6	曇時々雨

合計　923名



▲「埋文桜ニュース」



▲雨天の開催日



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子

3　埋蔵文化財調査センター公開事業『夏の重要文化財特別公開』&バックヤードツアーと考古学体験

1）実施日：平成27年 8月10日（月）
8月19日（水）
8月28日（金）

○バックヤードツアーおよび展示解説
午後１時から３ 時

○考古学体験
午前10 時から12 時

2）内容
全て参加費無料。

○バックヤードツアーおよび展示解説
会場：全館
内容：日常の業務の紹介と展示解説
＊参加者総数21名

○考古学体験
会場：２階研修室ほか
内容：＊土器の拓本　＊土器の接合
＊参加者総数21名

3）広報活動その他
今年度はバックヤードツアー開催日に、考古学体験を実施。また開催にあたり、年間のイベント予定を記したチラシを作成し、関係各所へ郵送したり、弥富市商工観光課を通じて近隣地域へ８月上旬に回覧を行うなど、広報活動を行った。
夏の重要文化財特別公開は、愛知県教育委員会の協力を得て、埋蔵文化財調査センターが実施したものである。



▲イベント告知のチラシ


▲バックヤードツアー


▲バックヤードツアー


▲バックヤードツアー


▲考古学体験

4　連続歴史講座「海部の考古学」

1) 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター
　　2階研修室

2) 開催趣旨
　設楽地域などの山間部の発掘調査成果との比較をしながら、海部地域の考古学情報について、6 人の講師が解説。

3) 内容
全て参加費無料。13時から15時。

・9月5日（土）：「海部の大地のなりたち」
　講師：鬼頭　剛（1万年前から現代）
　　＊参加者総数35名

・9月19日（土）：「海部の黎明」
　講師：宮腰健司（縄文から弥生）
　　＊参加者総数32名

・10月 3日（土）：「海部の古墳」
　講師：早野浩二（古墳）
　　＊参加者総数38名

・10月17日（土）：「海部の古代寺院」
　講師：永井邦仁（古代）
　　＊参加者総数35名

・10月31日（土）：「海部のムラにみる物流」
　講師：武部真木（中世）
　　＊参加者総数22名

・11月14日（土）：「織田氏と海部」
　講師：鈴木正貴（戦国）
　　＊参加者総数36名

4) 資料その他広報活動など
　講座資料として、4頁のカラーリーフレットを作成し配布した。各講座の出席者には、関連するペーパークラフトもしくは缶バッチを配布。6講座全ての出席者には、エコバックやタオルを配布。
　歴史講座の開催にあたり、近隣地区に弥富市商工観光課を通じ、回覧板を200部提出。9月上旬に回覧実施。



▲歴史講座の資料

第４回 考古学セミナー「あいちの考古学2015」の記録

概要　考古学セミナー「あいちの考古学」は、愛知県内外で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人（NPO）、民間調査組織、研究グループなどが一同に会して、考古学に関係する調査・研究成果を一般県民に公開し情報を共有することを目的として、平成24年度より毎年開催している。昨年度からは名古屋市博物館に会場を移し、下記の要綱で２日間にわたって開催し、講演、プレゼンテーション、セッション、ポスターセッションをおこなった。

1) 主催：愛知県埋蔵文化財センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室
2) 日時：平成27年11月28日（土）午後1時から午後4時30分、11月29日（日）午前10時から午後4時
3)会場：名古屋市博物館 講堂（プレゼンテーション・セッション・講演）・展示説明室（ポスターセッション）
4) 参加者数：11月28日（土） 180名、11月29日（日） 202名、合計382名
5) 出展団体・個人：プレゼンテーション 9、ポスターセッション 17（エントリー制）
6) 講演：白石浩之（愛知学院大学教授）
7)セッション：伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）、川合剛（名古屋市博物館）ほか
8) 配布資料：『あいちの考古学 2015』450部



▲平成27年度考古学セミナー「あいちの考古学2015」

プレゼンテーション　2日間に9本の発表があった。いずれも15分という制限の中で画像を用いて要点を提示している。内容は調査速報から研究や自主活動の報告まで多様である。今年度は1日目が歴史時代や窯業を中心、2日目が先史時代が中心になるようにプログラムし、連続してなされる発表によって内容が散漫にならないように心がけた。

講演　今年度は、白石浩之氏による講演である。愛知県域における後期旧石器時代から縄文時代草創期の様相を、岡崎市西牧野遺跡の石器群や北設楽郡豊根村茶臼山遺跡・田原市宮西遺跡を例に、当時の生業にまで踏み込んで研究の最新状況を示された。特に西牧野遺跡については、地理的環境や石器石材の入手経路などの研究テーマが多数盛り込まれた県内有数の遺跡であるとの評価をされた。

セッション　セッション1は、伊藤正人氏の司会により、名古屋市教育委員会が整理分析中の大曲輪遺跡に関する報告と討論をおこなった。同遺跡を特徴づける土器・石器・土偶・貝・骨の各遺物の様相を示し、その重要性を再認識する討論となった。

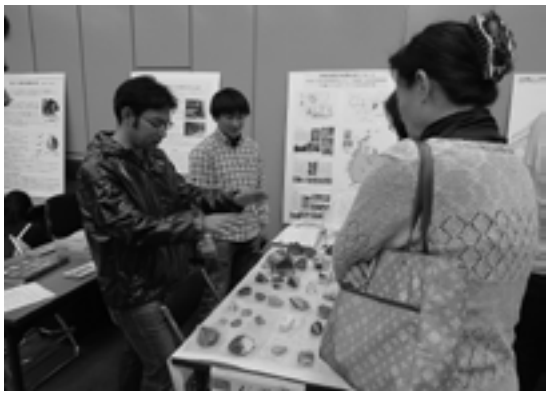
セッション2は、川合剛氏の司会により、石器石材を研究する平井義敏氏や遺跡での出土状況を分析するセンターの川添和暁による報告を基調に、討論には白石氏も加わった。旧石器時代や縄文時代の集落で出土する石器に加工するための石材がどのように移動（流通）していたのか、そしてそこからみえる地域間どうしのつながりの様相について、研究の現状と問題点の確認など、多岐にわたって議論された。

ポスターセッション　プレゼンテーションと同時（7～8月）にエントリーを受付け、当日の会場作りと運営をしていただいた。参加は17団体で、出土遺物や最新機材の展示から資料配布や研究内容のパネル展示まで、さまざまな手法での出展となった。またプレゼンテーションやセッション登壇者も参加し、質問を受け付けたり新たな討論をおこなったりする場ともなった。

資料集　いずれの発表・出展者にも、資料集作成のために原稿を提出していただいた。資料集はオール・カラー、65ページのオンデマンド印刷とし、会場受付で参加者へ無料配布した。



▲ポスター



▲ポスターセッション会場



▲セッション1

考古学セミナー「あいちの考古学２０１５」プログラム

主催：愛知県埋蔵文化財センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室

会場：名古屋市博物館　地下講堂・展示解説室

日　程

１１月２８日（土）　午後１時から午後４時３０分

13:00～13:10　開会（事務連絡）

13:10～13:25　「西三河山間部、郡界川流域の古代の遺跡の一様相 」佐藤公保（愛知県埋蔵文化財調査センター）

13:25～13:40　「信楽焼擂鉢からみる中世伊賀の流通」水谷侃司（名古屋大学大学院 ）

13:40～13:55　「弥七田窯跡の発掘調査」森まどか（愛知学院大学大学院 ）

13:55～14:10　「犬山焼の魅力」井上あゆこ（犬山市文化史料館）

14:10～14:25　「ハスを再生して、歴史的景観を取り戻す―本證寺（安城市）の事例から―」矢田義明（本證寺ハスの会）

14:25～14:40　休憩

14:40～16:30　セッション１『大曲輪貝塚―瑞穂グラウンドの縄文遺跡―』

14:40～14:45　「趣旨説明」伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）

14:45～15:05　「大曲輪の土器」纐纈　茂（名古屋市教育委員会文化財保護室）

15:05～15:25　「大曲輪の石器」川合　剛（名古屋市博物館）

15:25～15:45　「大曲輪の土偶」伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）

15:45～16:30　　司会：伊藤正人　パネラー：纐纈茂・川合剛

16:30　　閉会

１１月２９日（日）　午前１０時から午後４時

10:00～10:05　開会（事務連絡）

10:05～10:20　「銅鐸とチョコレート」白樫　淳（株式会社アコード）

10:20～10:35　「萩平遺跡の発掘調査」野牧聖也（愛知学院大学）

10:35～10:50　「畑間・東畑遺跡の平成 26 年度発掘調査成果について」宮澤浩司（東海市教育委員会）

10:50～11:05　「西尾市羽角山古墳群の分布調査について」西松賢一郎（大口町歴史民俗資料館）

11:20～12:25　基調講演「愛知県下の旧石器時代文化から縄文時代草創期文化にかけての様相」白石浩之（愛知学院大学）

12:25～13:30　休憩

13:30～15:50　セッション２『あいちの石器時代―遺跡・石器・石材―』

13:30～13:35　「趣旨説明」川合剛（名古屋市博物館）

13:35～13:55　「愛知県を取り巻く石材環境」平井義敏（みよし市歴史民俗資料館）

13:55～14:15　「旧石器～縄文草創期の遺跡・石器・石材」川合剛（名古屋市博物館）

14:15～14:35　「縄文～弥生時代の遺跡・石器・石材」川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）

14:35～14:45　休憩

14:45～15:50　司会：川合剛　パネラー：白石浩之・平井義敏・川添和暁

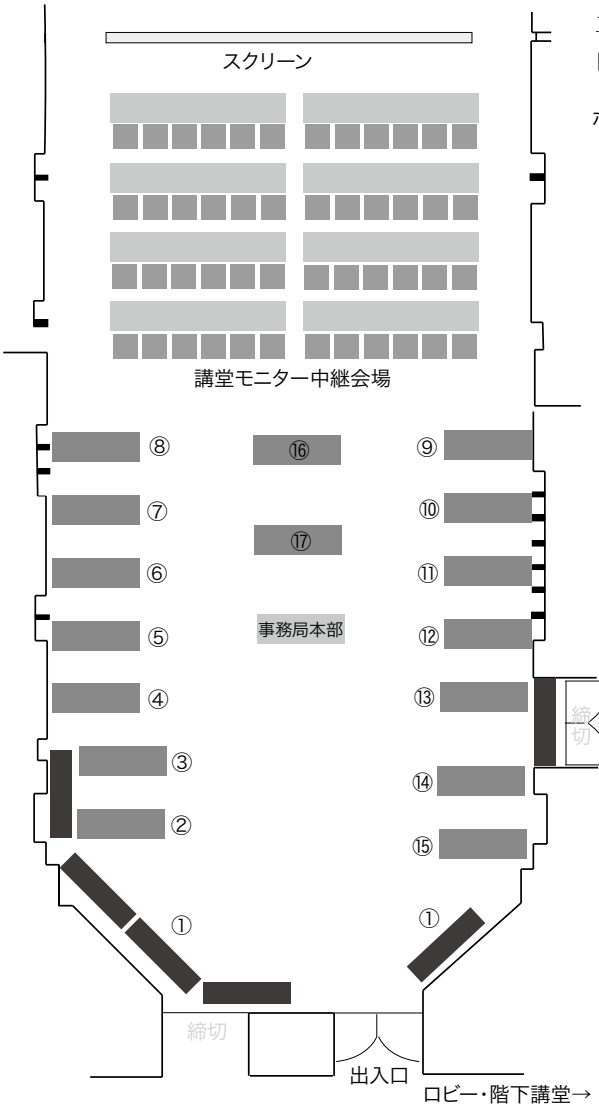
16:00　　閉会


▲ブース⑦


▲ブース⑮


▲ブース②


▲ブース⑭



平成27年度考古学セミナー『あいちの考古学2015』

ポスターセッション会場配置図
（展示説明室）

① 愛知県埋蔵文化財センター
「設楽地域の発掘調査成果」
② 田中城久
「大府市の灰釉・山茶碗窯跡」
③ 吉田真由美・藤原秀樹
「河曲郡衙と伊勢国分寺」
④ 片桐妃奈子
「東山72号窯出土遺物分析」
⑤ 松葉竜司
「興道寺廃寺の花粉分析」
⑥ 平井義敏
「設楽地域の石器石材について」
⑦ 羽角山古墳群PT
「西尾市羽角山古墳群分布調査」
⑧ 青木修
「犬山焼の魅力」
⑨ 永井伸明
「畑間・東畑遺跡の平成26年度発掘調査」
⑩ 西村誠治
「ICTを使った情報発信」
⑪ 加藤達
「遺構および遺物実測方法提案」
⑫ 大西遼
「古墳時代猿投窯出土須恵器」
⑬ 鈴木恵介
「古墳時代後期ガラス玉製作技法」
⑭ 小林克也
「放射性炭素年代測定と酸素同位体比測定」
⑮ 白樫　淳
「銅鐸とチョコレート」
⑯ 林　浩己
「愛知県史のご案内」
⑰ 考古学フォーラム
「考古学フォーラムのご案内」


▲ブース① 愛知県埋蔵文化財センター「設楽地域の発掘調査成果」

アンケート結果　当日、会場で参加者へのアンケートを実施した。アンケート用紙は受付で資料集とともに350枚配布し、同所のボックスに108枚の回答が得られた。

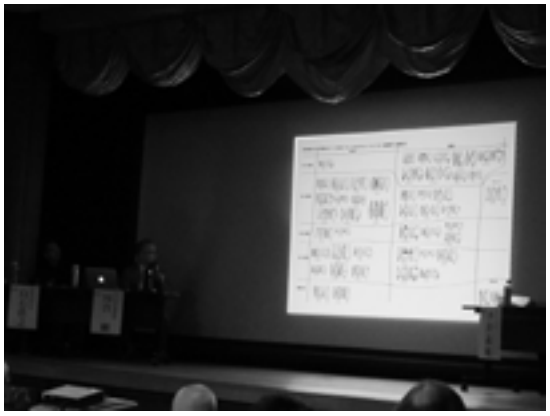
回答者の半数（54名）が名古屋市内からの参加で、県内からの方も合わせると9割になる。またこのイベントを知ったのはチラシが54名と最多であったが、名古屋市内の図書館など諸施設で配布されていたのが大きいと思われる。その一方でセンターのホームページやツイッターといった媒体で情報を得た方も多くいて、この両者が広報の柱であることが再認識された。次いで参加者の年齢構成では、50歳以上の世代（50～60代が47名、70代以上が29名）が圧倒的であり、考古学ファンの中核となっている点は例年どおりである。ただし出展者やその関係で大学生10名も回答しており、県内外の大学に設置された研究室や講座に所属する若手世代も重要な存在である。また、かつて考古学や歴史学を学んだ方々が高齢になって再び興味や関心を持つということもあり、現役時代に一旦考古学から遠ざかった人々が「復帰」する場としても本セミナーが有効であると考えられる。

今回初めての試みとして、発表内容のなかでもっと知りたい、または行ってみたい遺跡について複数回答でたずねてみた。圧倒的であったのが名古屋市大曲輪貝塚（44名）、次いで後期旧石器時代から縄文時代草創期を対象とした講演（39名）であった。また設楽地域の遺跡群（21名）、設楽地域の石器石材（21名）など、セッションのテーマに加えてポスターセッション会場にも出展したことで注目を集めた発表内容もある。同様に「溶結凝灰岩」・「斜状平行剥離」・「石器の流通」・「笹平遺跡」など印象に残ったキーワードも挙げられている。その一方で、放射性炭素年代測定と酸素同位体比測定（17名）のような、メディアで頻出する科学分析にも注目が集まっている点は、考古学関連の情報に対してどのようなニーズがあるのか、発信者側が常に意識しておかねばならないといえる。

今後に向けて　考古学セミナーは、当初プレゼンテーションの場を中心として発足しており、今回も講演やセッションも合わせてプレゼンテーション会場は終日盛況であった。このように考古学や埋蔵文化財の行事は座学的なものを柱としているが、ポスターセッション会場で繰り広げられる参加者どうしのやりとりは、考古学的な情報の発信が確実に双方向になっていることを示している。そのやりとりが新たな成果を生む契機をなることを期待したい。またそれに伴ってより展開のしやすい会場づくりを出展者とともにおこなっていく必要がある。現状で出展者どうしは「一期一会」的な集まりであるが、実行委員会として継続的な活動のできる場へと進化させていくべきである。

（永井邦仁）

▲今年度セミナーのロゴデザイン



▲セッション2



▲プレゼンテーション会場

IV. 埋蔵文化財展・考古学セミナーの記録

平成27年度　埋蔵文化財展等の活動について

1　目的と概要

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開するとともに、歴史講座や体験プログラムなど多彩な企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした。

2015年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、新出土品展と重要文化財の特別公開を行った。夏も愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、愛知県教育委員会の協力のもと、バックヤードツアーと重要文化財の特別公開「赤と黒」をおこなった。秋には、愛知県埋蔵文化財調査センターの協力を得て、連続歴史講座を６回開催した。11月には、名古屋市博物館において、当センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室の３者が主催する考古学セミナー『あいちの考古学2015』を行った。

2　埋蔵文化財新出土品展　「山の考古学」

1）会場：愛知県埋蔵文化財調査センター

2）会期

平成27年4月4日（土）から４月19日（日）

3）展示会名

新出土品展 「やとみ新発見展！」

4）開催趣旨

弥富市にある「愛知県埋蔵文化財調査センター」にて、「やとみ新発見展（しんはっけんでん）！」と題して、昨年度の発掘調査成果について、展示解説を実施。入館無料。

5）内容

○埋文桜ニュース発行

○展示

２階 資料管理閲覧室

「考古楽さんぽ」展

―尾張国の城下町と街道―

２階 収蔵庫C

「新出土品展2015　山の考古学」

「土器クロニクル」展

１階 ロビー　２階 廊下 パネル展示

配布資料：埋文桜ニュース（遺跡の概要説明）

ペーパークラフト（パレス土器）

遺跡の紹介しおり

6）考古楽縁日

開催日初日２日間は、弥富市社会教育センターで「やとみ春まつり」が開催されるのに合わせ、埋蔵文化財および当センターの活動を周知する目的で「考古楽市2015」を実施。

○縁日品目

弓、輪投げ、水風船、鯨面体験、写真撮影

＊縁日参加者数：828名

7）その他

外部より開館していることがわかるよう、布製の垂れ幕や、ノボリを多数設置。また「やとみ春まつり」会場にて、チラシの配布を行う。また、調査センター入り口付近においても、チラシの配布を行った。期間中、愛知県埋蔵文化財調査センターが国指定重要文化財である「朝日遺跡」の遺物を展示。

＊全期間中の来館者：923名

▼2015春の埋文展　入館者数と天気

	小計	天気
4月4日（土）	491	曇のち雨
4月5日（日）	337	雨
4月6日（月）	3	曇時々雨
4月7日（火）	22	曇一時雨
4月8日（水）	13	雨のち曇
4月9日（木）	5	曇
4月10日（金）	3	曇のち雨
4月11日（土）	-	休館
4月12日（日）	-	休館
4月13日（月）	1	雨
4月14日（火）	9	雨
4月15日（水）	12	曇
4月16日（木）	7	曇
4月17日（金）	8	曇のち晴
4月18日（土）	6	曇
4月19日（日）	6	曇時々雨

合計　923名



▲「埋文桜ニュース」



▲雨天の開催日



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子

3　埋蔵文化財調査センター公開事業『夏の重要文化財特別公開』&バックヤードツアーと考古学体験

1）実施日：平成27年 8月10日（月）
8月19日（水）
8月28日（金）

○バックヤードツアーおよび展示解説
午後１時から３ 時

○考古学体験
午前10 時から12 時

2）内容
全て参加費無料。

○バックヤードツアーおよび展示解説
会場：全館
内容：日常の業務の紹介と展示解説
＊参加者総数21名

○考古学体験
会場：２階研修室ほか
内容：＊土器の拓本　＊土器の接合
＊参加者総数21名

3）広報活動その他
今年度はバックヤードツアー開催日に、考古学体験を実施。また開催にあたり、年間のイベント予定を記したチラシを作成し、関係各所へ郵送したり、弥富市商工観光課を通じて近隣地域へ８月上旬に回覧を行うなど、広報活動を行った。
夏の重要文化財特別公開は、愛知県教育委員会の協力を得て、埋蔵文化財調査センターが実施したものである。



▲イベント告知のチラシ


▲バックヤードツアー


▲バックヤードツアー


▲バックヤードツアー


▲考古学体験

4　連続歴史講座「海部の考古学」

1) 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター
　　2階研修室

2) 開催趣旨
　設楽地域などの山間部の発掘調査成果との比較をしながら、海部地域の考古学情報について、6 人の講師が解説。

3) 内容
全て参加費無料。13時から15時。

・9月5日（土）：「海部の大地のなりたち」
　講師：鬼頭　剛（1万年前から現代）
　　＊参加者総数35名

・9月19日（土）：「海部の黎明」
　講師：宮腰健司（縄文から弥生）
　　＊参加者総数32名

・10月 3日（土）：「海部の古墳」
　講師：早野浩二（古墳）
　　＊参加者総数38名

・10月17日（土）：「海部の古代寺院」
　講師：永井邦仁（古代）
　　＊参加者総数35名

・10月31日（土）：「海部のムラにみる物流」
　講師：武部真木（中世）
　　＊参加者総数22名

・11月14日（土）：「織田氏と海部」
　講師：鈴木正貴（戦国）
　　＊参加者総数36名

4) 資料その他広報活動など
　講座資料として、4頁のカラーリーフレットを作成し配布した。各講座の出席者には、関連するペーパークラフトもしくは缶バッチを配布。6講座全ての出席者には、エコバックやタオルを配布。
　歴史講座の開催にあたり、近隣地区に弥富市商工観光課を通じ、回覧板を200部提出。9月上旬に回覧実施。



▲歴史講座の資料

第４回 考古学セミナー「あいちの考古学2015」の記録

概要　考古学セミナー「あいちの考古学」は、愛知県内外で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人（NPO）、民間調査組織、研究グループなどが一同に会して、考古学に関係する調査・研究成果を一般県民に公開し情報を共有することを目的として、平成24年度より毎年開催している。昨年度からは名古屋市博物館に会場を移し、下記の要綱で２日間にわたって開催し、講演、プレゼンテーション、セッション、ポスターセッションをおこなった。

1) 主催：愛知県埋蔵文化財センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室
2) 日時：平成27年11月28日（土）午後1時から午後4時30分、11月29日（日）午前10時から午後4時
3)会場：名古屋市博物館 講堂（プレゼンテーション・セッション・講演）・展示説明室（ポスターセッション）
4) 参加者数：11月28日（土） 180名、11月29日（日） 202名、合計382名
5) 出展団体・個人：プレゼンテーション 9、ポスターセッション 17（エントリー制）
6) 講演：白石浩之（愛知学院大学教授）
7)セッション：伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）、川合剛（名古屋市博物館）ほか
8) 配布資料：『あいちの考古学 2015』450部



▲平成27年度考古学セミナー「あいちの考古学2015」

プレゼンテーション　2日間に9本の発表があった。いずれも15分という制限の中で画像を用いて要点を提示している。内容は調査速報から研究や自主活動の報告まで多様である。今年度は1日目が歴史時代や窯業を中心、2日目が先史時代が中心になるようにプログラムし、連続してなされる発表によって内容が散漫にならないように心がけた。

講演　今年度は、白石浩之氏による講演である。愛知県域における後期旧石器時代から縄文時代草創期の様相を、岡崎市西牧野遺跡の石器群や北設楽郡豊根村茶臼山遺跡・田原市宮西遺跡を例に、当時の生業にまで踏み込んで研究の最新状況を示された。特に西牧野遺跡については、地理的環境や石器石材の入手経路などの研究テーマが多数盛り込まれた県内有数の遺跡であるとの評価をされた。

セッション　セッション1は、伊藤正人氏の司会により、名古屋市教育委員会が整理分析中の大曲輪遺跡に関する報告と討論をおこなった。同遺跡を特徴づける土器・石器・土偶・貝・骨の各遺物の様相を示し、その重要性を再認識する討論となった。

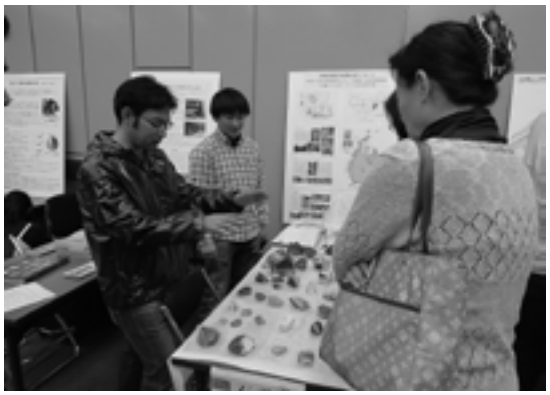
セッション2は、川合剛氏の司会により、石器石材を研究する平井義敏氏や遺跡での出土状況を分析するセンターの川添和暁による報告を基調に、討論には白石氏も加わった。旧石器時代や縄文時代の集落で出土する石器に加工するための石材がどのように移動（流通）していたのか、そしてそこからみえる地域間どうしのつながりの様相について、研究の現状と問題点の確認など、多岐にわたって議論された。

ポスターセッション　プレゼンテーションと同時（7～8月）にエントリーを受付け、当日の会場作りと運営をしていただいた。参加は17団体で、出土遺物や最新機材の展示から資料配布や研究内容のパネル展示まで、さまざまな手法での出展となった。またプレゼンテーションやセッション登壇者も参加し、質問を受け付けたり新たな討論をおこなったりする場ともなった。

資料集　いずれの発表・出展者にも、資料集作成のために原稿を提出していただいた。資料集はオール・カラー、65ページのオンデマンド印刷とし、会場受付で参加者へ無料配布した。



▲ポスター



▲ポスターセッション会場



▲セッション1

考古学セミナー「あいちの考古学２０１５」プログラム

主催：愛知県埋蔵文化財センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室

会場：名古屋市博物館　地下講堂・展示解説室

日　程

１１月２８日（土）　午後１時から午後４時３０分

13:00～13:10　開会（事務連絡）

13:10～13:25　「西三河山間部、郡界川流域の古代の遺跡の一様相 」佐藤公保（愛知県埋蔵文化財調査センター）

13:25～13:40　「信楽焼擂鉢からみる中世伊賀の流通」水谷侃司（名古屋大学大学院 ）

13:40～13:55　「弥七田窯跡の発掘調査」森まどか（愛知学院大学大学院 ）

13:55～14:10　「犬山焼の魅力」井上あゆこ（犬山市文化史料館）

14:10～14:25　「ハスを再生して、歴史的景観を取り戻す―本證寺（安城市）の事例から―」矢田義明（本證寺ハスの会）

14:25～14:40　休憩

14:40～16:30　セッション１『大曲輪貝塚―瑞穂グラウンドの縄文遺跡―』

14:40～14:45　「趣旨説明」伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）

14:45～15:05　「大曲輪の土器」纐纈　茂（名古屋市教育委員会文化財保護室）

15:05～15:25　「大曲輪の石器」川合　剛（名古屋市博物館）

15:25～15:45　「大曲輪の土偶」伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）

15:45～16:30　　司会：伊藤正人　パネラー：纐纈茂・川合剛

16:30　　閉会

１１月２９日（日）　午前１０時から午後４時

10:00～10:05　開会（事務連絡）

10:05～10:20　「銅鐸とチョコレート」白樫　淳（株式会社アコード）

10:20～10:35　「萩平遺跡の発掘調査」野牧聖也（愛知学院大学）

10:35～10:50　「畑間・東畑遺跡の平成 26 年度発掘調査成果について」宮澤浩司（東海市教育委員会）

10:50～11:05　「西尾市羽角山古墳群の分布調査について」西松賢一郎（大口町歴史民俗資料館）

11:20～12:25　基調講演「愛知県下の旧石器時代文化から縄文時代草創期文化にかけての様相」白石浩之（愛知学院大学）

12:25～13:30　休憩

13:30～15:50　セッション２『あいちの石器時代―遺跡・石器・石材―』

13:30～13:35　「趣旨説明」川合剛（名古屋市博物館）

13:35～13:55　「愛知県を取り巻く石材環境」平井義敏（みよし市歴史民俗資料館）

13:55～14:15　「旧石器～縄文草創期の遺跡・石器・石材」川合剛（名古屋市博物館）

14:15～14:35　「縄文～弥生時代の遺跡・石器・石材」川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）

14:35～14:45　休憩

14:45～15:50　司会：川合剛　パネラー：白石浩之・平井義敏・川添和暁

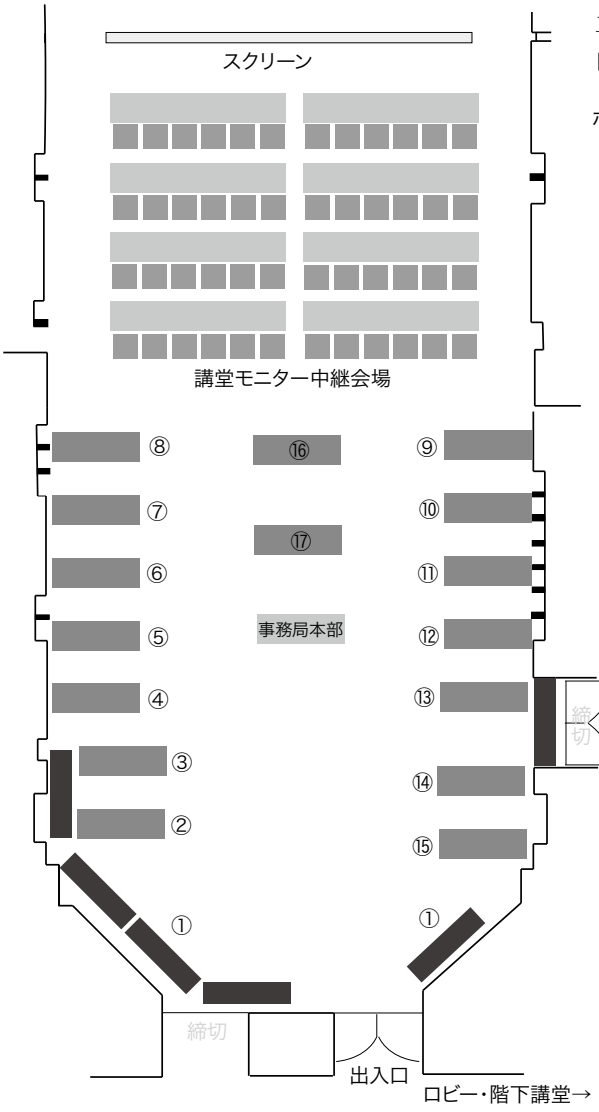
16:00　　閉会


▲ブース⑦


▲ブース⑮


▲ブース②


▲ブース⑭



平成27年度考古学セミナー『あいちの考古学2015』

ポスターセッション会場配置図
（展示説明室）

① 愛知県埋蔵文化財センター
「設楽地域の発掘調査成果」
② 田中城久
「大府市の灰釉・山茶碗窯跡」
③ 吉田真由美・藤原秀樹
「河曲郡衙と伊勢国分寺」
④ 片桐妃奈子
「東山72号窯出土遺物分析」
⑤ 松葉竜司
「興道寺廃寺の花粉分析」
⑥ 平井義敏
「設楽地域の石器石材について」
⑦ 羽角山古墳群PT
「西尾市羽角山古墳群分布調査」
⑧ 青木修
「犬山焼の魅力」
⑨ 永井伸明
「畑間・東畑遺跡の平成26年度発掘調査」
⑩ 西村誠治
「ICTを使った情報発信」
⑪ 加藤達
「遺構および遺物実測方法提案」
⑫ 大西遼
「古墳時代猿投窯出土須恵器」
⑬ 鈴木恵介
「古墳時代後期ガラス玉製作技法」
⑭ 小林克也
「放射性炭素年代測定と酸素同位体比測定」
⑮ 白樫　淳
「銅鐸とチョコレート」
⑯ 林　浩己
「愛知県史のご案内」
⑰ 考古学フォーラム
「考古学フォーラムのご案内」


▲ブース① 愛知県埋蔵文化財センター「設楽地域の発掘調査成果」

アンケート結果　当日、会場で参加者へのアンケートを実施した。アンケート用紙は受付で資料集とともに350枚配布し、同所のボックスに108枚の回答が得られた。

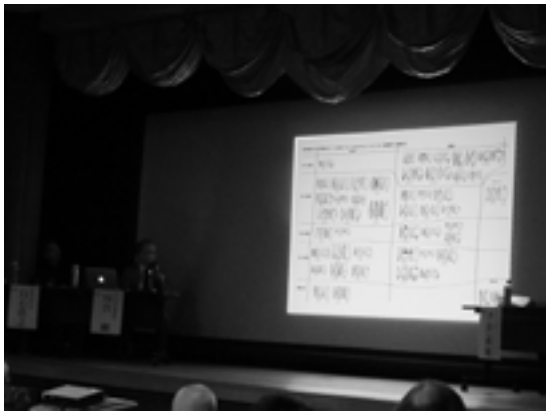
回答者の半数（54名）が名古屋市内からの参加で、県内からの方も合わせると9割になる。またこのイベントを知ったのはチラシが54名と最多であったが、名古屋市内の図書館など諸施設で配布されていたのが大きいと思われる。その一方でセンターのホームページやツイッターといった媒体で情報を得た方も多くいて、この両者が広報の柱であることが再認識された。次いで参加者の年齢構成では、50歳以上の世代（50～60代が47名、70代以上が29名）が圧倒的であり、考古学ファンの中核となっている点は例年どおりである。ただし出展者やその関係で大学生10名も回答しており、県内外の大学に設置された研究室や講座に所属する若手世代も重要な存在である。また、かつて考古学や歴史学を学んだ方々が高齢になって再び興味や関心を持つということもあり、現役時代に一旦考古学から遠ざかった人々が「復帰」する場としても本セミナーが有効であると考えられる。

今回初めての試みとして、発表内容のなかでもっと知りたい、または行ってみたい遺跡について複数回答でたずねてみた。圧倒的であったのが名古屋市大曲輪貝塚（44名）、次いで後期旧石器時代から縄文時代草創期を対象とした講演（39名）であった。また設楽地域の遺跡群（21名）、設楽地域の石器石材（21名）など、セッションのテーマに加えてポスターセッション会場にも出展したことで注目を集めた発表内容もある。同様に「溶結凝灰岩」・「斜状平行剥離」・「石器の流通」・「笹平遺跡」など印象に残ったキーワードも挙げられている。その一方で、放射性炭素年代測定と酸素同位体比測定（17名）のような、メディアで頻出する科学分析にも注目が集まっている点は、考古学関連の情報に対してどのようなニーズがあるのか、発信者側が常に意識しておかねばならないといえる。

今後に向けて　考古学セミナーは、当初プレゼンテーションの場を中心として発足しており、今回も講演やセッションも合わせてプレゼンテーション会場は終日盛況であった。このように考古学や埋蔵文化財の行事は座学的なものを柱としているが、ポスターセッション会場で繰り広げられる参加者どうしのやりとりは、考古学的な情報の発信が確実に双方向になっていることを示している。そのやりとりが新たな成果を生む契機をなることを期待したい。またそれに伴ってより展開のしやすい会場づくりを出展者とともにおこなっていく必要がある。現状で出展者どうしは「一期一会」的な集まりであるが、実行委員会として継続的な活動のできる場へと進化させていくべきである。

（永井邦仁）

▲今年度セミナーのロゴデザイン



▲セッション2



▲プレゼンテーション会場

IV. 埋蔵文化財展・考古学セミナーの記録

平成27年度　埋蔵文化財展等の活動について

1　目的と概要

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開するとともに、歴史講座や体験プログラムなど多彩な企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした。

2015年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、新出土品展と重要文化財の特別公開を行った。夏も愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、愛知県教育委員会の協力のもと、バックヤードツアーと重要文化財の特別公開「赤と黒」をおこなった。秋には、愛知県埋蔵文化財調査センターの協力を得て、連続歴史講座を６回開催した。11月には、名古屋市博物館において、当センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室の３者が主催する考古学セミナー『あいちの考古学2015』を行った。

2　埋蔵文化財新出土品展　「山の考古学」

1）会場：愛知県埋蔵文化財調査センター

2）会期

平成27年4月4日（土）から４月19日（日）

3）展示会名

新出土品展 「やとみ新発見展！」

4）開催趣旨

弥富市にある「愛知県埋蔵文化財調査センター」にて、「やとみ新発見展（しんはっけんでん）！」と題して、昨年度の発掘調査成果について、展示解説を実施。入館無料。

5）内容

○埋文桜ニュース発行

○展示

２階 資料管理閲覧室

「考古楽さんぽ」展

―尾張国の城下町と街道―

２階 収蔵庫C

「新出土品展2015　山の考古学」

「土器クロニクル」展

１階 ロビー　２階 廊下 パネル展示

配布資料：埋文桜ニュース（遺跡の概要説明）

ペーパークラフト（パレス土器）

遺跡の紹介しおり

6）考古楽縁日

開催日初日２日間は、弥富市社会教育センターで「やとみ春まつり」が開催されるのに合わせ、埋蔵文化財および当センターの活動を周知する目的で「考古楽市2015」を実施。

○縁日品目

弓、輪投げ、水風船、鯨面体験、写真撮影

＊縁日参加者数：828名

7）その他

外部より開館していることがわかるよう、布製の垂れ幕や、ノボリを多数設置。また「やとみ春まつり」会場にて、チラシの配布を行う。また、調査センター入り口付近においても、チラシの配布を行った。期間中、愛知県埋蔵文化財調査センターが国指定重要文化財である「朝日遺跡」の遺物を展示。

＊全期間中の来館者：923名

▼2015春の埋文展　入館者数と天気

	小計	天気
4月4日（土）	491	曇のち雨
4月5日（日）	337	雨
4月6日（月）	3	曇時々雨
4月7日（火）	22	曇一時雨
4月8日（水）	13	雨のち曇
4月9日（木）	5	曇
4月10日（金）	3	曇のち雨
4月11日（土）	-	休館
4月12日（日）	-	休館
4月13日（月）	1	雨
4月14日（火）	9	雨
4月15日（水）	12	曇
4月16日（木）	7	曇
4月17日（金）	8	曇のち晴
4月18日（土）	6	曇
4月19日（日）	6	曇時々雨

合計　923名



▲「埋文桜ニュース」



▲雨天の開催日



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子



▲やとみ新発見展"



▲縁日の様子

3　埋蔵文化財調査センター公開事業『夏の重要文化財特別公開』&バックヤードツアーと考古学体験

1）実施日：平成27年 8月10日（月）
8月19日（水）
8月28日（金）

○バックヤードツアーおよび展示解説
午後１時から３ 時

○考古学体験
午前10 時から12 時

2）内容
全て参加費無料。

○バックヤードツアーおよび展示解説
会場：全館
内容：日常の業務の紹介と展示解説
＊参加者総数21名

○考古学体験
会場：２階研修室ほか
内容：＊土器の拓本　＊土器の接合
＊参加者総数21名

3）広報活動その他
今年度はバックヤードツアー開催日に、考古学体験を実施。また開催にあたり、年間のイベント予定を記したチラシを作成し、関係各所へ郵送したり、弥富市商工観光課を通じて近隣地域へ８月上旬に回覧を行うなど、広報活動を行った。
夏の重要文化財特別公開は、愛知県教育委員会の協力を得て、埋蔵文化財調査センターが実施したものである。



▲イベント告知のチラシ


▲バックヤードツアー


▲バックヤードツアー


▲バックヤードツアー


▲考古学体験

4　連続歴史講座「海部の考古学」

1) 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター
　　2階研修室

2) 開催趣旨
　設楽地域などの山間部の発掘調査成果との比較をしながら、海部地域の考古学情報について、6 人の講師が解説。

3) 内容
全て参加費無料。13時から15時。

・9月5日（土）：「海部の大地のなりたち」
　講師：鬼頭　剛（1万年前から現代）
　　＊参加者総数35名

・9月19日（土）：「海部の黎明」
　講師：宮腰健司（縄文から弥生）
　　＊参加者総数32名

・10月 3日（土）：「海部の古墳」
　講師：早野浩二（古墳）
　　＊参加者総数38名

・10月17日（土）：「海部の古代寺院」
　講師：永井邦仁（古代）
　　＊参加者総数35名

・10月31日（土）：「海部のムラにみる物流」
　講師：武部真木（中世）
　　＊参加者総数22名

・11月14日（土）：「織田氏と海部」
　講師：鈴木正貴（戦国）
　　＊参加者総数36名

4) 資料その他広報活動など
　講座資料として、4頁のカラーリーフレットを作成し配布した。各講座の出席者には、関連するペーパークラフトもしくは缶バッチを配布。6講座全ての出席者には、エコバックやタオルを配布。
　歴史講座の開催にあたり、近隣地区に弥富市商工観光課を通じ、回覧板を200部提出。9月上旬に回覧実施。



▲歴史講座の資料

第４回 考古学セミナー「あいちの考古学2015」の記録

概要　考古学セミナー「あいちの考古学」は、愛知県内外で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人（NPO）、民間調査組織、研究グループなどが一同に会して、考古学に関係する調査・研究成果を一般県民に公開し情報を共有することを目的として、平成24年度より毎年開催している。昨年度からは名古屋市博物館に会場を移し、下記の要綱で２日間にわたって開催し、講演、プレゼンテーション、セッション、ポスターセッションをおこなった。

1) 主催：愛知県埋蔵文化財センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室
2) 日時：平成27年11月28日（土）午後1時から午後4時30分、11月29日（日）午前10時から午後4時
3)会場：名古屋市博物館 講堂（プレゼンテーション・セッション・講演）・展示説明室（ポスターセッション）
4) 参加者数：11月28日（土） 180名、11月29日（日） 202名、合計382名
5) 出展団体・個人：プレゼンテーション 9、ポスターセッション 17（エントリー制）
6) 講演：白石浩之（愛知学院大学教授）
7)セッション：伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）、川合剛（名古屋市博物館）ほか
8) 配布資料：『あいちの考古学 2015』450部



▲平成27年度考古学セミナー「あいちの考古学2015」

プレゼンテーション　2日間に9本の発表があった。いずれも15分という制限の中で画像を用いて要点を提示している。内容は調査速報から研究や自主活動の報告まで多様である。今年度は1日目が歴史時代や窯業を中心、2日目が先史時代が中心になるようにプログラムし、連続してなされる発表によって内容が散漫にならないように心がけた。

講演　今年度は、白石浩之氏による講演である。愛知県域における後期旧石器時代から縄文時代草創期の様相を、岡崎市西牧野遺跡の石器群や北設楽郡豊根村茶臼山遺跡・田原市宮西遺跡を例に、当時の生業にまで踏み込んで研究の最新状況を示された。特に西牧野遺跡については、地理的環境や石器石材の入手経路などの研究テーマが多数盛り込まれた県内有数の遺跡であるとの評価をされた。

セッション　セッション1は、伊藤正人氏の司会により、名古屋市教育委員会が整理分析中の大曲輪遺跡に関する報告と討論をおこなった。同遺跡を特徴づける土器・石器・土偶・貝・骨の各遺物の様相を示し、その重要性を再認識する討論となった。

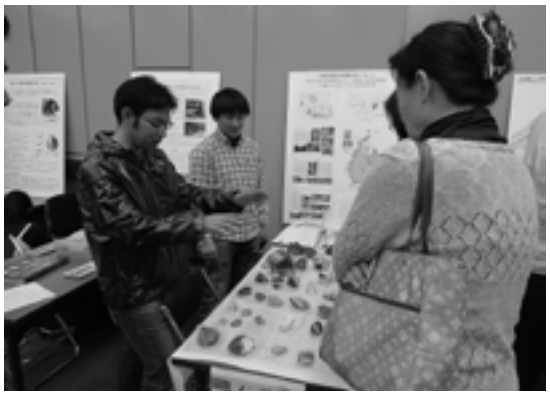
セッション2は、川合剛氏の司会により、石器石材を研究する平井義敏氏や遺跡での出土状況を分析するセンターの川添和暁による報告を基調に、討論には白石氏も加わった。旧石器時代や縄文時代の集落で出土する石器に加工するための石材がどのように移動（流通）していたのか、そしてそこからみえる地域間どうしのつながりの様相について、研究の現状と問題点の確認など、多岐にわたって議論された。

ポスターセッション　プレゼンテーションと同時（7～8月）にエントリーを受付け、当日の会場作りと運営をしていただいた。参加は17団体で、出土遺物や最新機材の展示から資料配布や研究内容のパネル展示まで、さまざまな手法での出展となった。またプレゼンテーションやセッション登壇者も参加し、質問を受け付けたり新たな討論をおこなったりする場ともなった。

資料集　いずれの発表・出展者にも、資料集作成のために原稿を提出していただいた。資料集はオール・カラー、65ページのオンデマンド印刷とし、会場受付で参加者へ無料配布した。



▲ポスター



▲ポスターセッション会場



▲セッション1

考古学セミナー「あいちの考古学２０１５」プログラム

主催：愛知県埋蔵文化財センター・名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室

会場：名古屋市博物館　地下講堂・展示解説室

日　程

１１月２８日（土）　午後１時から午後４時３０分

13:00～13:10　開会（事務連絡）

13:10～13:25　「西三河山間部、郡界川流域の古代の遺跡の一様相 」佐藤公保（愛知県埋蔵文化財調査センター）

13:25～13:40　「信楽焼擂鉢からみる中世伊賀の流通」水谷侃司（名古屋大学大学院 ）

13:40～13:55　「弥七田窯跡の発掘調査」森まどか（愛知学院大学大学院 ）

13:55～14:10　「犬山焼の魅力」井上あゆこ（犬山市文化史料館）

14:10～14:25　「ハスを再生して、歴史的景観を取り戻す―本證寺（安城市）の事例から―」矢田義明（本證寺ハスの会）

14:25～14:40　休憩

14:40～16:30　セッション１『大曲輪貝塚―瑞穂グラウンドの縄文遺跡―』

14:40～14:45　「趣旨説明」伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）

14:45～15:05　「大曲輪の土器」纐纈　茂（名古屋市教育委員会文化財保護室）

15:05～15:25　「大曲輪の石器」川合　剛（名古屋市博物館）

15:25～15:45　「大曲輪の土偶」伊藤正人（名古屋市教育委員会文化財保護室）

15:45～16:30　　司会：伊藤正人　パネラー：纐纈茂・川合剛

16:30　　閉会

１１月２９日（日）　午前１０時から午後４時

10:00～10:05　開会（事務連絡）

10:05～10:20　「銅鐸とチョコレート」白樫　淳（株式会社アコード）

10:20～10:35　「萩平遺跡の発掘調査」野牧聖也（愛知学院大学）

10:35～10:50　「畑間・東畑遺跡の平成 26 年度発掘調査成果について」宮澤浩司（東海市教育委員会）

10:50～11:05　「西尾市羽角山古墳群の分布調査について」西松賢一郎（大口町歴史民俗資料館）

11:20～12:25　基調講演「愛知県下の旧石器時代文化から縄文時代草創期文化にかけての様相」白石浩之（愛知学院大学）

12:25～13:30　休憩

13:30～15:50　セッション２『あいちの石器時代―遺跡・石器・石材―』

13:30～13:35　「趣旨説明」川合剛（名古屋市博物館）

13:35～13:55　「愛知県を取り巻く石材環境」平井義敏（みよし市歴史民俗資料館）

13:55～14:15　「旧石器～縄文草創期の遺跡・石器・石材」川合剛（名古屋市博物館）

14:15～14:35　「縄文～弥生時代の遺跡・石器・石材」川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）

14:35～14:45　休憩

14:45～15:50　司会：川合剛　パネラー：白石浩之・平井義敏・川添和暁

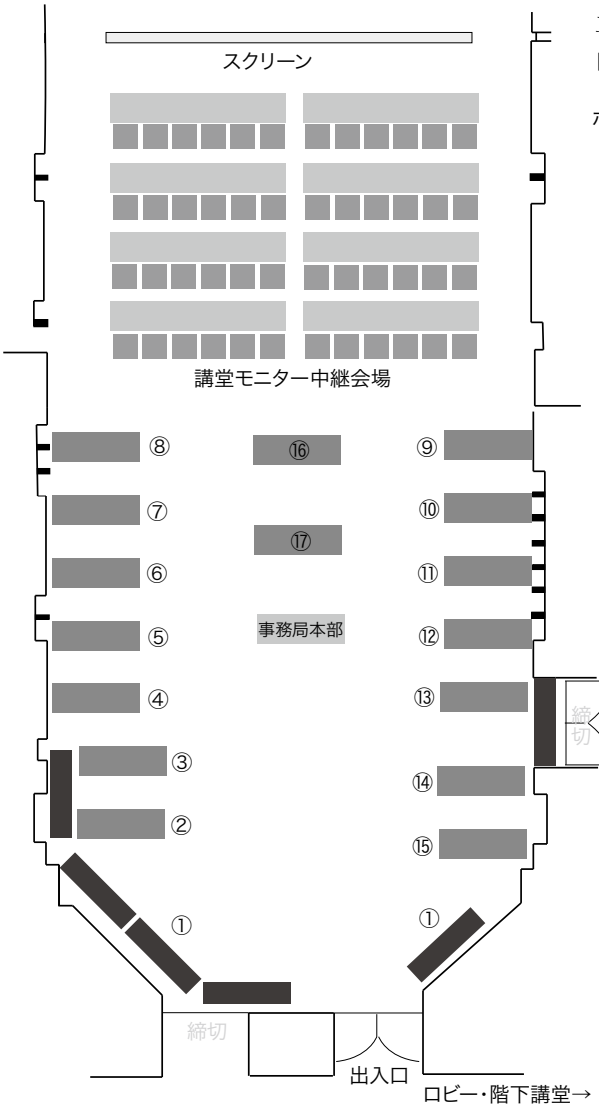
16:00　　閉会


▲ブース⑦


▲ブース⑮


▲ブース②


▲ブース⑭



平成27年度考古学セミナー『あいちの考古学2015』

ポスターセッション会場配置図
（展示説明室）

① 愛知県埋蔵文化財センター
「設楽地域の発掘調査成果」
② 田中城久
「大府市の灰釉・山茶碗窯跡」
③ 吉田真由美・藤原秀樹
「河曲郡衙と伊勢国分寺」
④ 片桐妃奈子
「東山72号窯出土遺物分析」
⑤ 松葉竜司
「興道寺廃寺の花粉分析」
⑥ 平井義敏
「設楽地域の石器石材について」
⑦ 羽角山古墳群PT
「西尾市羽角山古墳群分布調査」
⑧ 青木修
「犬山焼の魅力」
⑨ 永井伸明
「畑間・東畑遺跡の平成26年度発掘調査」
⑩ 西村誠治
「ICTを使った情報発信」
⑪ 加藤達
「遺構および遺物実測方法提案」
⑫ 大西遼
「古墳時代猿投窯出土須恵器」
⑬ 鈴木恵介
「古墳時代後期ガラス玉製作技法」
⑭ 小林克也
「放射性炭素年代測定と酸素同位体比測定」
⑮ 白樫　淳
「銅鐸とチョコレート」
⑯ 林　浩己
「愛知県史のご案内」
⑰ 考古学フォーラム
「考古学フォーラムのご案内」


▲ブース① 愛知県埋蔵文化財センター「設楽地域の発掘調査成果」

アンケート結果　当日、会場で参加者へのアンケートを実施した。アンケート用紙は受付で資料集とともに350枚配布し、同所のボックスに108枚の回答が得られた。

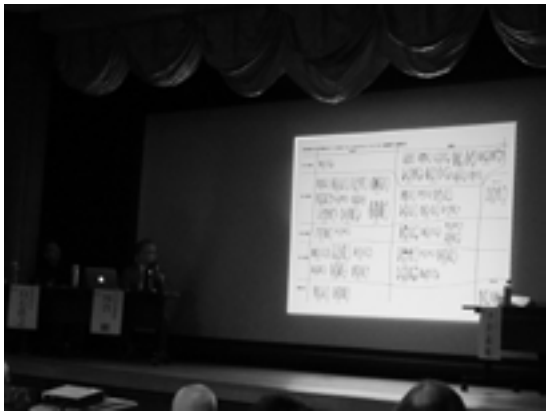
回答者の半数（54名）が名古屋市内からの参加で、県内からの方も合わせると9割になる。またこのイベントを知ったのはチラシが54名と最多であったが、名古屋市内の図書館など諸施設で配布されていたのが大きいと思われる。その一方でセンターのホームページやツイッターといった媒体で情報を得た方も多くいて、この両者が広報の柱であることが再認識された。次いで参加者の年齢構成では、50歳以上の世代（50～60代が47名、70代以上が29名）が圧倒的であり、考古学ファンの中核となっている点は例年どおりである。ただし出展者やその関係で大学生10名も回答しており、県内外の大学に設置された研究室や講座に所属する若手世代も重要な存在である。また、かつて考古学や歴史学を学んだ方々が高齢になって再び興味や関心を持つということもあり、現役時代に一旦考古学から遠ざかった人々が「復帰」する場としても本セミナーが有効であると考えられる。

今回初めての試みとして、発表内容のなかでもっと知りたい、または行ってみたい遺跡について複数回答でたずねてみた。圧倒的であったのが名古屋市大曲輪貝塚（44名）、次いで後期旧石器時代から縄文時代草創期を対象とした講演（39名）であった。また設楽地域の遺跡群（21名）、設楽地域の石器石材（21名）など、セッションのテーマに加えてポスターセッション会場にも出展したことで注目を集めた発表内容もある。同様に「溶結凝灰岩」・「斜状平行剥離」・「石器の流通」・「笹平遺跡」など印象に残ったキーワードも挙げられている。その一方で、放射性炭素年代測定と酸素同位体比測定（17名）のような、メディアで頻出する科学分析にも注目が集まっている点は、考古学関連の情報に対してどのようなニーズがあるのか、発信者側が常に意識しておかねばならないといえる。

今後に向けて　考古学セミナーは、当初プレゼンテーションの場を中心として発足しており、今回も講演やセッションも合わせてプレゼンテーション会場は終日盛況であった。このように考古学や埋蔵文化財の行事は座学的なものを柱としているが、ポスターセッション会場で繰り広げられる参加者どうしのやりとりは、考古学的な情報の発信が確実に双方向になっていることを示している。そのやりとりが新たな成果を生む契機をなることを期待したい。またそれに伴ってより展開のしやすい会場づくりを出展者とともにおこなっていく必要がある。現状で出展者どうしは「一期一会」的な集まりであるが、実行委員会として継続的な活動のできる場へと進化させていくべきである。

（永井邦仁）

▲今年度セミナーのロゴデザイン



▲セッション2



▲プレゼンテーション会場

V. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出・提供

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料		期間
京丹後市教育委員会	平成26 年度丹後・東海地方の文化方言等調査報告書『丹後・東海地方の文化方言』に利用のため。	第 32 集　朝日遺跡 第138 集　朝日遺跡 第154 集　朝日遺跡	金属製品分布図（第154 集　図4.1-1）1 点 青銅器写真（巴型銅器・キ龍文鏡片・銅鐸飾耳片）3 点 出土土器写真 1 点 出土銅鐸写真（032-019.jpg）1 点 調査風景写真（154-012.jpg）1 点 遠景写真 （138-top009.jpg）1 点	8 点	2015/4/7
株式会社NHK エンタープライズ	『歴史秘話ヒストリア』「つらい時こそ一歩前へ！～徳川家康の決断～」をJAL 国際線等個人用シートTV にて上映のため、（株）JAL ブランドコミュニケーションへ提供のため。	第181 集　桑下城跡	発掘調査写真 デジタルデータ	4 点	2015/4/13
金城学院大学	（仮題）『東海　地球と歴史のおもしろ50』（風媒社）に掲載のため。	第154 集　朝日遺跡	磨製石斧写真	1 点	2015/5/18
公益財団法人　瀬戸市文化振興財団	新出土品展『桑下城跡と周辺遺跡』に利用のため。	第164集　桑下東窯跡 第173集　上品野西金地遺跡 第181集　桑下城跡	報告書掲載写真 164 – 009.jpg,164-014.jpg,164-056.jpg,164-088.jpg, 173-012.jpg,173-024.jpg,173-053.jpg,173-052.jpg, 173-062.jpg,173-066.jpg,173-387.jpg, 181-001.jpg,181-008.jpg,181-019.jpg,181-046.jpg,181-078.jpg, 181-083.jpg,181-092.jpg,181-111.jpg,181-113.jpg,181-117.jpg	22 点	2015/6/3
株式会社NHK エンタープライズ	『歴史秘話ヒストリア』「つらい時こそ一歩前へ！～徳川家康の決断～をヒストリーチャンネル／（株）東北新社スカイパーフェクTV!370、674（HD）ch ／スカパー!e2 342ch（ケーブルテレビ等でも視聴できます）へ提供。	第181 集　桑下城跡	発掘調査写真 デジタルデータ	4 点	2015/6/8
個人	講談社現代新書「弥生時代の歴史」平成27年8月27日刊行予定に掲載のため。	第34 集　朝日遺跡V	寄生虫卵写真	3 点	2015/6/25
個人	郷土の歴史保存に利用のため。	第193 集　中山砦跡	写真図版１　2 点(193-002.jpg,193-003.jpg) 写真図版３　5 点(193-009.jpg,193-010.jpg,193-011.jpg, 193-012.jpg、193-013.jpg)	7 点	2015/6/27
鈴鹿市長	企画展「黄金に輝くー信長・秀吉の瓦ー」に利用のため。	第65 集 清洲城下町遺跡VI 第70 集 清洲城下町遺跡VII 第99 集 清洲城下町遺跡VII	93D 区遠景　(35KU-054.jpg) E-696(090-092.jpg)　E-697(090-091.jpg) E-2499(099-181.jpg,099-182.jpg) 96 区SW01（099-004.jpg,099-003.jpg)	7 点	2015/6/29
麻布大学	東京大学出版「日本の犬」に転載するため。	第35 集　朝日遺跡V(土器編・総論編)	西本豊弘「朝日遺跡出土のイヌと動物遺体のまとめ」329-338p のうち335.p　図版1　イヌ	1 点	2015/7/1
豊田市郷土資料館	企画展／新修豊田市史「資料編　考古II(弥生・古墳）」刊行記念「この夏キミは考古学者になる」広報物への掲載のため。	第91集　川原遺跡	遺跡周辺の垂直写真　ほか	6 点	2015/7/8
大府市歴史民俗資料館	企画展「発掘おおぶの遺跡」に掲載のため。	第187集　別岨古窯群 第85集　森岡第1号窯跡群	別岨古窯群写真（187 – 006.jpg) 1 点 森岡第1 号窯跡群（085-011.jpg) 1 点	2 点	2015/7/9
東京法令出版株式会社	高校歴史資料集「日本史のライブラリー」に掲載のため。	第32 集　朝日遺跡II	朝日遺跡　想定復元図（長谷川恵子画）	1 点	2015/7/21
下関市考古博物館	開館20 周年記念特別展「綾羅木郷遺跡とその時代- 環濠集落　事始め-」に利用のため。	第30 集　朝日遺跡 第83 集　朝日遺跡 第138 集　朝日遺跡	第30 集　杭列（030 – 013.jpg) 1 点 第83 集　遺物写真 5 点 （083-306.jpg,083-310.jpg,083-316.jpg,083-319.jpg,083-581.jpg) 第138 集　遺構写真 4 点 （138-iko00034.jpg,138-iko00035.jpg,138-iko00152.jpg,138-iko00153.jpg) 第138 集　遺物写真 19 点 （138-gra01118.jpg,138-gra01120.jpg,138-gra01130.jpg,138-hor00021.jpg 138-hor00023.jpg,138-hor00024.jpg,138-hor00025.jpg,138-hor00028.jpg 138-hor00030.jpg,138-hor00031.jpg,138-hor00032.jpg,138-hor00035.jpg 138-hor00036.jpg,138-hor00038.jpg,138-hor00039.jpg,138-hor00044.jpg 138-hor00045.jpg,138-sto00505.jpg,138-sto00506.jpg)	29 点	2015/7/21
アジア鋳造技術史学会愛知大会実行委員会	アジア鋳造技術史学会愛知大会研究発表概要集の表紙に利用のため。	第32 集　朝日遺跡	図版88　銅鐸実測図	1 点	2015/7/30
京丹後市教育委員会	平成26 年度丹後・東海地方の文化方言等調査報告書『丹後・東海地方の文化方言』に利用のため。	朝日遺跡	東海の土器（弥生後期末）　1 点 青銅器写真（巴型銅器）1 点 出土土器写真 1 点 出土銅鐸写真 1 点 調査風景写真 1 点 遠景写真 1 点	6 点	2015/8/11
アジア鋳造技術史学会愛知大会実行委員会	アジア鋳造技術史学会愛知大会のポスターに利用のため。	第32 集　朝日遺跡	図版88　銅鐸実測図	1 点	2015/8/17
設楽原をまもる会 奥村組土木工業株式会社	石座神社境内に設置する石座神社遺跡の説明看板に利用のため。	第189集　石座神社遺跡	遠景写真、調査区写真、方格規矩四神鏡	3 点	2015/8/18
新潟市文化財センター	史跡古津八幡山遺跡特別企画展「絵で見る考古学　早川和子原画展」に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	030-011.jpg,030-012.jpg,030-013.jpg,030-014.jpg,667.jpg,4410.jpg	6 点	2015/8/21
株式会社ベストセラーズ	株式会社ベスセラーズ発行「歴史人」11 月号に利用のため。	第161 集　名古屋城三の丸遺跡	遺構写真（161-004.jpg)	1 点	2015/8/31
春日井市教育委員会	「詳説　勝川遺跡展」～環濠集落から古墳群、そして伽藍へ　交錯する時代像～に利用のため。	第0 集　勝川遺跡 第9 集　町田遺跡 第19 集　勝川遺跡III 第29 集　勝川遺跡IV	第9 集　町田遺跡　遺構写真（009-016.jpg）1 点 第0 集　勝川遺跡　遺構写真（000-068.jpg,000-066.jpg,000-072.jpg, 000-048.jpg,000-045.jpg,000-047.jpg,）6 点 第19 集　勝川遺跡III　遺構写真（019-019.jpg）1 点 第29 集　勝川遺跡IV　遺物出土状況写真（029-038.jpg,029-037.jpg,029-043.jpg）3 点 第29 集　勝川遺跡IV　遺構写真（029-016.jpg,029-019.jpg,029-021.jpg）3 点	14 点	2015/9/9
有限会社　青垣出版	出版物「邪馬台国時代の関東」（仮称）に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	遺構（乱杭）写真（030-013.jpg)	1 点	2015/9/14
株式会社山川出版社	出版物「県史23 愛知の歴史」2 版2 刷　に利用のため。	第30 集　朝日遺跡	遺構（逆茂木）写真（030-012.jpg)	1 点	2015/9/29
株式会社集英社	出版物『学習まんが　日本の歴史』10 巻　「幕府の安定と元禄文化」に利用のため。	第37 集　名古屋城三の丸遺跡	遺物写真（色絵婦人座像）（037-001.jpg)	1 点	2015/9/29
鈴鹿市長	特別展「鹿ー『古代人と鹿』その後ー」に利用のため。	第34 集　朝日遺跡 第138 集　朝日遺跡 第147 集　一色青海遺跡 第182 集　松崎遺跡 第91 集　川原遺跡	朝日遺跡　髪飾り（ブランド4.jpg）　棒状鹿角製品（138-hor00097.jpg) 弭状鹿角製品（骨角06.jpg）　筒形土器（1217999475.jpg）　筒形土器（05Da_d-034d.jpg）　弥生土器(034-073.jpg)　ニホンジカの骨（138-bon00021.jpg）　ニホンジカの骨（138-bon00022.jpg）　浮き袋の口（138-hor00080.jpg）　ヤスの未製品（骨角01.jpg）　ヤスの未製品(骨角02.jpg)ヤスができるまで(骨角03.jpg) 一色青海遺跡 遺物写真　土製垂飾（147-689.jpg）　筒形土製品（186 – 486.jpg）　筒形土製品（186 – 484.jpg) 松崎遺跡　遺物写真　骨鏃（182 – 350.jpg) 川原遺跡 遺物写真　土製品（091-084.jpg)	17 点	2015/10/2

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料		期間
株式会社小学館	『日本美術全集』第１巻日本美術創世記（縄文・弥生・古墳）に利用のため。	第154集　朝日遺跡Ⅷ	E-0693 写真（1020_0039.jpg)	1 点	2015/10/13
愛知県教育委員会 生涯学習課文化財保護室	企画展『朝日遺跡と木の道具』に利用のため。	朝日遺跡	木加工復元イラスト 1 点 木材利用復元イラスト（絵：大橋吉彦） 1 点 木製品写真 5点	7 点	2015/10/13
公益財団法人瀬戸市文化振興財団	企画展『戦国時代の瀬戸窯- 古瀬戸から大窯へ-』に利用のため。	第109集　鷲窯跡 第164集　桑下東窯跡 第173集　上品野西金地遺跡 第181集　桑下城跡 第116集　凧山屋敷遺跡 第134集　凧山Ｃ窯跡・窯作・鐘場遺跡Ⅰ	鷲窯跡　遺構及び遺物写真 9 点 桑下東窯跡 遺構及び遺物写真 27 点 上品野西金地遺跡　遺構及び遺物写真 33 点 桑下城跡 遺構及び遺物写真 19 点 凧山屋敷遺跡 遺構及び遺物写真 23 点 窯作・鐘場遺跡 遺構及び遺物写真 3 点	114 点	2015/9/29
美浜町教育委員会	「櫂六遺跡発掘調査報告展」に利用のため。	櫂六遺跡	遺構・遺物写真	9 点	2015/11/13
高浜市やきものの里かわら美術館	特別展「安土・桃山の城郭革命ー信長・秀吉・家康と金箔瓦ー」に利用のため。	第53集　清洲城下町遺跡Ⅳ 第70集　清洲城下町遺跡Ⅶ 第99集　清洲城下町遺跡Ⅷ 第44集　名古屋城三の丸遺跡4 第60集　名古屋城三の丸遺跡5 第127集　名古屋城三の丸遺跡7 第161集　名古屋城三の丸遺跡8	清洲城下町遺跡　調査写真 4 点 清洲城下町遺跡　遺物写真 17 点 名古屋城三の丸遺跡　調査写真 4 点 名古屋城三の丸遺跡　遺物写真 2 点	27 点	2015/11/30
個人	論文に利用のため。	第48集　松河戸遺跡	P ５地層図および図版３「水田畦畔と調査区」	2 点	2015/12/4
岩崎城歴史記念館	企画展「にっしんの山茶碗」に利用のため。	第140集　三カ所遺跡・西田面遺跡	西田面遺跡　調査区写真	1 点	2015/12/4
岡崎市教育委員	西牧野公園（平成27 年度末完成予定）内に設置する西牧野遺跡の説明看板に利用のため	第174 集　西牧野遺跡	報告書掲載図1 点および写真8 点	9 点	2015/12/14
愛知芸術文化センター愛知県図書館	愛知県図書館報「あゆち」第16 号　ｐ５「愛知県図書館　歴史の今昔」に利用のため。	第15 集　名古屋城三の丸遺跡Ⅰ	出土　灰釉双耳瓶（18）	1 点	2015/12/14
都城市教育委員会	平成27 年度歴史シンポジウム「焼き物に見る武士の心」記録集に掲載のため。	第135 集　瓶子窯跡	出土文字陶片（135-398.jpg,135-399.jpg,135-414.jpg,134-400.jpg,135-401.jpg,135-415.jpg)	6 点	2016/1/12
有限会社リゲル社	山川出版社発行の「城を歩く」に掲載のため。	第99 集　清洲城下町遺跡Ⅷ	p290　石番12　墨書「雑賀」　写真（R2J.jpg)	1 点	2016/1/19
鈴鹿市長	特別展「鹿-『古代人と鹿』-」に利用のため。	第34 集　朝日遺跡Ⅴ	第150 図 絵画土器(双頭のシカ) 部分(034-008.jpg) 図版106 絵画土器(双頭のシカ) 全体(034-076.jpg)	2 点	2016/1/20

合計　36件　327点

<< 平成 27 年 4 月～平成 28 年 1 月末 >>

ホームページ

公開ファイル

報告書PDF	222件
説明会資料	60件
年報PDF	258件
研究紀要PDF	107件
その他チラシ類	25件
設楽通信などPDF	49件
遺跡位置登録	248件
遺跡アルバム	35,902点

今年度は、新規刊行報告書に加え、春日井市と名古屋市に所在した遺跡の発掘調査報告書10冊分を、OCR済みのPDFで公開した。全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトによって構築された「全国遺跡資料リポジトリ」は、平成27年度よりなら国立文化財研究所内のサイト「全国遺跡報告総覧」へ移行された。当センターの発掘調査報告書については、177件が登録済みである。

Web更新データ

2013年度よりFaceBookを、2014年度よりTwitterの利用を始めている。

FaceBookに掲載する記事は、ホームページに掲載された記事に関する事である。Twitterは、全職員による時事の話題を記事にした。またホームページの更新の際に、メールニュースを発行し、アクセスを促した。

●ブログ更新記事一覧　　**合計 25 件**

公　開　日	内　　容
2015 年 4 月 1 日（水曜日）	平成 27 年度の発掘調査予定遺跡
2015 年 4 月 14 日 (火曜日)	キジ山古墳群を歩く (6)
2015 年 4 月 20 日 (月曜日)	平成 26 年度刊行の報告書 PDF の公開
2015 年 4 月 23 日 (木曜日)	キジ山古墳群を歩く (7)
2015 年 6 月 18 日 (木曜日)	報告書の概要コンテンツが出来ました！
2015 年 6 月 22 日 (月曜日)	川向東貝津遺跡　地元説明会開催について
2015 年 7 月 6 日 (月曜日)	平成２７年度考古学セミナー「あいちの考古学 2015」のエントリー受付開始します！
2015 年 7 月 13 日 (月曜日)	報告書の概要コンテンツを追加しました。
2015 年 7 月 16 日 (木曜日)	北丹波・東流遺跡の調査速報
2015 年 7 月 23 日 (木曜日)	夏から秋のイベント案内
2015 年 7 月 27 日 (月曜日)	家族の絆作り事業『家族で歴史を体験発掘！』
2015 年 7 月 29 日 (水曜日)	「夏の重要文化財特別公開」&『バックヤードツアーと考古学体験
2015 年 7 月 31 日 (金曜日)	笹平遺跡地元説明会開催について
2015 年 8 月 10 日 (月曜日)	考古学セミナー「あいちの考古学 2015」エントリー受付中！
2015 年 8 月 17 日 (月曜日)	岡山南遺跡の地元説明会のおしらせ
2015 年 8 月 24 日 (月曜日)	平成 27 年度　歴史講「海部の考古学」のおしらせ
2015 年 10 月 2 日 (金曜日)	岡山南遺跡の発掘調査終了のおしらせ
2015 年 10 月 14 日 (水曜日)	歴史講座『海部の考古学』第 4 回のおしらせ
2015 年 10 月 20 日 (火曜日)	平成 27 年度　考古学セミナー「あいちの考古学 2015」の開催について
2015 年 10 月 27 日 (火曜日)	滝瀬遺跡地元説明会開催について
2015 年 11 月 13 日 (金曜日)	笹平遺跡地元説明会開催について
2015 年 12 月 18 日 (金曜日)	設楽発掘通信 No16 が追加されました！
2016 年　1 月 12 日 (火曜日)	第 194 集加原遺跡　の掲載写真を遺跡アルバムに掲載！
2016 年　1 月 18 日 (月曜日)	設楽発掘通信 No17 が追加されました！
2016 年　1 月 26 日 (火曜日)	遺跡アルバムに、写真データ 120 点を追加！

SNSの活用

● FaceBook 記事一覧　　**合計 36 件**

公　開　日	内　　容
2015 年 4 月 7 日	平成 27 年度の発掘調査予定遺跡
2015 年 4 月 7 日	入札情報　第 1 弾が公開されています。
2015 年 4 月 14 日	キジ山古墳群を歩く (6)
2015 年 4 月 20 日	平成 26 年度刊行の報告書 PDF の公開
2015 年 5 月 8 日	入札の結果が公示されました。
2015 年 6 月 18 日	報告書の概要コンテンツが出来ました！
2015 年 6 月 22 日	川向東貝津遺跡　地元説明会開催について

2015 年 7 月 6 日	平成２７年度考古学セミナー「あいちの考古学 2015」のエントリー受付開始します！
2015 年 7 月 8 日	川向東貝津遺跡の地元説明会の資料 PDF を追加しました。
2015 年 7 月 10 日	寄島遺跡出土遺物実測・デジタルトレース業務委託に関する入札情報を公示しました。
2015 年 7 月 13 日	第 201 集　大平本城の概要コンテンツを追加しました。
2015 年 7 月 27 日	家族の絆作り事業『家族で歴史を体験発掘！』
2015 年 8 月 3 日	笹平遺跡で地元説明会が開催されます。
2015 年 8 月 17 日	岡山南遺跡の地元説明会のおしらせ
2015 年 8 月 24 日	平成 27 年度　歴史講「海部の考古学」のおしらせ
2015 年 8 月 24 日	設楽町笹平遺跡地元説明会資料の PDF が、ダウンロードページに追加されました
2015 年 8 月 31 日	設楽発掘通信 No12 が、ダウンロードページに追加されました
2015 年 9 月 9 日	西尾市　岡山南遺跡　地元説明会資料の PDF　が公開されました。
2015 年 9 月 24 日	埋蔵文化財発掘調査事業委託に関する入札情報を公示しました。
2015 年 9 月 24 日	設楽発掘通信 No13 が、ダウンロードページに追加されました。
2015 年 9 月 30 日	旧刊行の PDF データ 10 冊分を追加しました。
2015 年 10 月 2 日	岡山南遺跡の発掘調査終了のおしらせ
2015 年 10 月 14 日	歴史講座『海部の考古学』第 4 回のおしらせ
2015 年 10 月 21 日	平成 27 年度　考古学セミナー「あいちの考古学 2015」の開催について
2015 年 10 月 27 日	▽▲▽▲滝瀬遺跡の地元説明会が開催されます！▽▲▽▲
2015 年 10 月 27 日	▽▲▽▲設楽発掘通信 No14 が公開されました▽▲▽▲
2015 年 11 月 9 日	発掘調査報告書の印刷・製本等の入札情報を公示しました。
2015 年 11 月 13 日	＊＊設楽町　笹平遺跡の地元説明会を開催＊＊
2015 年 11 月 24 日	▽▲▽▲設楽発掘通信 No15 が公開されました▽▲▽▲
2015 年 11 月 24 日	▽▲▽▲設楽町　笹平遺跡　地元説明会資料２の PDF ▽▲▽▲
2015 年 11 月 24 日	カバー写真を変更しました。
2015 年 11 月 25 日	▽▲▽▲設楽町　滝瀬遺跡　地元説明会資料の PDF ▽▲▽▲
2015 年 11 月 26 日	▽▲▽▲入札結果の公示▽▲▽▲
2016 年　1 月 21 日	カバー写真を変更しました。
2016 年　1 月 21 日	第 191 集　吉竹遺跡のガイダンス・スライドショー・ムービーです
2016 年　1 月 26 日	第 135 集　瓶子窯跡　未掲載写真資料　120 点を公開しました！

● Twitter 記事一覧　　合計　201 件

20150401	埋文センター前の桜は満開です。。。。
20150402	新年度の始まり。運良く雨の上。。。。
20150403	明日から開催、春の特別公開。。。。
20150406	土日に開催した考古楽市 2015。。。。
20150407	新年度も始まり、発掘調査の。。。。
20150408	センター前の桜並木。満開後の。。。。
20150409	今年度のトップを切って、豊橋。。。。
20150410	ただいま開催中の「やとみ新。。。。
20150413	今日も雨ですね。でも「やとみ。。。。
20150414	昨日は会議で設楽町へ行ってき。。。。
20150415	豊橋市東下地遺跡の整理作業。。。。。
20150416	センターで次に始まった整理。。。。
20150417	明日と明後日の 18 日（土）。。。。
20150420	弥富新発見展 2015 が終了しま。。。。
20150421	安城市寄島遺跡の木製品は。。。。。
20150422	稲沢市北丹波・東流遺跡の発掘。。。。
20150423	山歩きにはもってこいの季節。。。。
20150424	瀬戸市若宮 1 号墳の横穴式石。。。。
20150427	町では、鯉のぼり元気に泳。。。。
20150428	先週金曜日に（株）アコード。。。。
20150430	豊明市・薬師ヶ根遺跡。9 世。。。
20150501	明日の五月二日は、夏も近づ。。。。
20150507	そ、空が見えない！完成した高速。。
20150508	今年は戦後 70 周年の節目の年。愛。。。
20150511	５月です！愛知まいぶんのホー。。。
20150512	奥三河の新城市四谷には、鞍掛。。。
20150513	大型連休を利用して萩原宿。。。
20150514	４月からセンター長になり。。。
20150515	愛知県埋蔵文化財センター黎明。。。
20150518	姫下遺跡は安城市の矢作川沿い。。。
20150519	この赤い橋は設楽町のランドマ。。。
20150520	稲沢市にある尾張大国霊神社に。。。
20150521	この写真は、昨年発掘調査をし。。。
20150522	西尾市岡山南遺跡の発掘調査が。。。
20150525	設楽町の試掘調査です。木漏れ日。。。
20150526	5 月 23 日と 24 日に帝京大学での。。。
20150527	新城市北部の朝の風景です。普段。。。
20150528	今週の火曜日から表土はぎが始。。。
20150529	設楽ダム関連調査進行中。。。。。。
20150601	アウトドアの血が騒ぎ、奥飛騨に。。。
20150602	センターの建物をバックに咲きほ。。。
20150603	写真は 2010 年 6 月上旬調査中の。。。
20150604	設楽町には多くの近代化遺産。。。
20150605	2013 年度に調査した野添遺跡。。。
20150608	平成 24 年に国史跡となった稲沢。。。
20150609	奥三河の設楽町では、クマ除けの。。。
20150610	6 月 10 日は「時の記念日」。日本。。。
20150611	今年度の担当は設楽ダム関連遺跡。。。
20150612	「設楽大橋」の下を流れるのは「境。。。
20150616	年度当初より豊橋市多り畑（たり。。。
20150617	月一度の全体会議の日。。。
20150618	写場の蛍光灯が切れました。。。。
20150619	津島市の津島神社にいきました。。。。
20150622	設楽ダム関連調査もいよ。。。
20150623	稲沢市北丹波・東流遺跡もい。。。。
20150624	豊川最上流・大名倉川の脇で、遺跡。。。
20150625	出土した木製品を保存するために。。。
20150626	本格的な夏もいよいよです。。。。
20150629	来る 7 月 4 日（土）午前 11 時。。。
20150630	昨年度報告書作成に携わった八畝。。。
20150701	久しぶりに「広辞苑」を引いたら、。。。
20150702	安城市・寄島遺跡の土器実測図の。。。
20150703	明日、７月４日（土）の午前 11 時。。。
20150706	設楽町・川向東貝津遺跡の地元説。。
20150707	設楽ダム関連範囲確認調査で大名。。。
20150708	岡山南遺跡の北東には、忠臣蔵で。。。
20150709	先日、美浜町権六遺跡の木製品を。。。
20150710	西尾市岡山南遺跡の調査は遺跡西。。。

20150713　年一度の健康診断の日。。。
20150714　いつも、決まった所為を心がけるこ。。。
20150715　設楽町川向東貝津（かわむきひ。。。
20150716　稲沢市北丹波・東流遺跡の調査。。。
20150717　設楽町の方に向けて毎月１回、。。。
20150721　屋久島にある 縄文杉です。トロッ。。。
20150722　探査機がとらえた惑星表面の写真。。。
20150723　お昼休みにセンター近所を散歩し。。。
20150724　愛知県埋蔵文化財センターでは職員。。。
20150727　恒例となりました家族の絆作。。。
20150728　安城市・寄島遺跡の小さな小さな。。。
20150729　設楽町の笹平遺跡では岩版（がんば。。。
20150730　「梅干しを食べると難が去る」ので。。。
20150731　設楽ダム工事関係遺跡の範囲確認。。。
20150801　夏のおやつといえば、麦茶と「。。。
20150802　北丹波・東流遺跡の横には名古。。。
20150805　本日ただ今、愛知県設楽町あ。。。
20150806　西尾市岡山南遺跡の調査風景。。。
20150807　ＳＴＯＮＥ　ＷＯＲＬＤ。。。
20150810　８月８日の設楽町・笹平遺跡。。。
20150811　遺跡の発掘といえば、刷毛・。。。
20150812　８月 10 日から始まりました、。。。
20150813　設楽町の調査では、虫をよく。。。
20150814　愛西市の鷹場川（たかばがわ）。。。
20150817　センターでは、朝日遺跡の重文。。。
20150818　写真はある作業員さんの秘密。。。
20150819　私たちの仕事は、記録保存、が中心で。。。
20150820　旅先で川の名前が気になった。香。。。
20150821　名古屋市の、瑞穂公園にある陸。。。
20150824　炎天下での発掘調査はとても大変。。。
20150825　屋外で働く皆さん、特に発掘現。。。
20150826　設楽の大畑遺跡範囲確認調査です。。。。
20150827　９月５日（土）より６回シリーズ。。。
20150828　設楽町小松にある笹平遺跡で今か。。。
20150831　西尾市岡山南遺跡で今月 22 日（。。。
20150901　通勤途中に「カラムシ（苧）」を。。。
20150902　先日に紹介した笹平遺跡の弥生。。。
20150903　９月５日から、歴史講座が始まり。。。
20150904　本日９月４日は、1888 年に「K。。。
20150907　９月５日から歴史講座「海部の考。。。
20150908　設楽町小松地区の笹平遺跡出。。。
20150909　子どもの頃には見た事もなかっ。。。
20150910　整理室では、豊田市下山地区の。。。
20150911　９月になると、役所では次年度。。。
20150914　夏の野外作業では、暑さ対策。。。
20150915　【速報】今年度の考古学セミナ。。。
20150916　設楽町の発掘現場。スズメバチ。。。
20150917　本日は白玉の歯にしみとほる秋。。。
20150918　京都の八坂神社に参拝。本殿は。。。
20150924　設楽ダム工事関連の遺跡範囲確認。。。
20150925　９月 19 日土曜日に歴史講座『海。。。
20150928　９月１０日の木曜日、午後３時３５。。。
20150929　西尾市岡山南遺跡では現地の作。。。
20150930　明日は笹平遺跡の 15Bb 区・。。。
20151001　自宅近くの堤防の土手で、。。。
20151002　明日の講座の準備です。資料の。。。
20151005　春日井市民俗考古展示室では、セ。。。
20151006　青森であった研究会に参加。。。。
20151007　設楽町内には縄文時代の遺跡が。。。
20151008　津島市神守にある一里塚で目。。。
20151009　設楽町で調査中の笹平遺跡では、。。。
20151013　先月、現在調査している設楽町。。。
20151014　安城市の下懸遺跡では、11 月から。。。
20151015　まるで蚤の市のようですが違いま。。。
20151016　天高く…。先日完成した中山砦。。。
20151019　10 月 19 日は土井晩翠の忌日。「。。。
20151020　京都市の北東一乗寺駅で降りまし。。。。
20151021　設楽ダム工事関遺跡範囲確認。。。
20151022　10 月 17 日土曜日に設楽町で。。。
20151023　先日、笹平遺跡の 15Cb 区の表。。。
20151026　西尾市岡山南遺跡付近の農道に。。。
20151027　津島市米町にある市神社は弘。。。
20151028　朝日遺跡から出土した銅鐸。。。。
20151029　こちらは車塚遺跡（岡崎市）。。。
20151030　豊橋市東下地遺跡の整理続報です。。。
20151102　ドングリなどの堅果類は、縄。。。
20151104　設楽町、川向地区から名倉地。。。
20151105　設楽町の笹平遺跡で濃い青色が。。。
20151106　内側は素掘りのまま！。。。
20151109　先週の土曜日、設楽町の滝。。。
20151110　愛知県埋蔵文化財センターの発掘。。。
20151111　今月 28 日（土）・29 日（日）に。。。
20151112　秋の風物詩 !?、ドングリ食の仕。。。
20151112　歴史講座もいよいよ最終回。。。。
20151113　11 月 13 日は「うるしの日」で。。。
20151116　設楽ダム工事関連の遺跡範囲確。。。
20151117　設楽町田峯にある田峯城は、現在。。。
20151118　設楽町小松にある笹平遺跡の朝の。。。
20151119　現在、豊橋市多り畑遺跡の遺物。。。。
20151120　2012 年に復元工事が完了し。。。
20151124　６回目にしてようやく３桁に到。。。
20151125　11 月 28 日と 29 日の「考古学セ。。。
20151126　今週末の「考古学セミナー」。。。
20151127　いよいよ明日から２日間にわた。。。。
20151130　11 月 28・29 日の二日間、名古屋。。。
20151201　愛知県埋蔵文化財調査センター。。。
20151202　雨に洗われ泥の部分のみが削られ。。。
20151203　弥富市の輪中公園内にある、。。。
20151204　先週の土・日曜日は石川県。。。
20151207　愛知県埋蔵文化財センターの発。。。
20151208　安城市にある寄島遺跡の弥生時。。。
20151209　そろそろ新しい年を迎える準備。。。
20151210　今日、12 月 10 日はノーベル賞。。。。
20151211　設楽ダム建設事業に関連する遺。。。
20151214　写真は平成 15 年度に調査した安。。
20151215　先日、美浜町生涯学習センタ。。。
20151216　西尾市岡山南遺跡に近い綿祖神。。。
20151217　約 20 年前に調査された遺跡の。。。
20151218　今日の銅鐸は、べっこう飴です！。。。
20151221　久しぶり に馬見塚石器時代遺。。。。
20151222　発掘調査に必要な道具には、通。。。
20151224　本日、FM ななみに生出演してき。。。
20151225　発掘調査では出土遺物を持ち。。
20160104　謹賀新年。さて、正月とい。。。。
20160105　昨年 12 月９日に弥富市の。。。
20160106　石器や石製品の石材はさまざ。。。
20160107　昨年 12 月で設楽地区での発。。。
20160108　あけましておめでとうございま。。。
20160112　奈良県大和郡山市の額安寺。奈良。。。
20160113　弥生時代中期の朝日遺跡に特徴的。。。
20160114　1959 年の１月 14 日、南極・昭和。。。
20160115　設楽ダム関係遺跡範囲確認調査。。。
20160118　１月９日土曜日に愛知県体育館で（。。。
20160119　最近、弥生土器や縄文土器をみる。。。
20160120　名古屋駅東側にあるモニュメント。。。
20160121　豊橋市多り畑遺跡から出土した縄文。。。
20160121　第 191 集　吉竹遺跡
20160122　笹平遺跡の現地作業は昨年中。。。
20160123　愛知埋文の「遺跡アルバム」で。。。
20160126　いよいよ寒さも本番！となりまし。。。
20160127　現在報告書刊行に向けて準備中の。。。
20160128　設楽町笹平遺跡で見つかった、墓。。。
20160129　手前から海を隔てて遠く（北）に。。。

地元説明会・遺跡報告会

遺跡名	所在地	開催日	参加人数	
川向東貝津遺跡	設楽町川向	平成27年７月４日（土）	８０名	地元説明会
笹平遺跡	設楽町笹平	平成27年８月８日（土）	７９名	地元説明会
岡山南遺跡	西尾市吉良町岡山南	平成27年8月22日（土）	７０名	地元説明会
滝瀬遺跡	設楽町八橋字タキセ	平成27年11月7日（土）	４０名	地元説明会
笹平遺跡	設楽町笹平	平成27年11月21日（土）	110名	地元説明会
川向東貝津遺跡ほか	設楽町	平成28年3月5日（日）	（於 設楽町役場議場）成果報告会	

報告書作成のための指導

遺跡名	指導日	指導者	所　属
多り畑遺跡	平成27年12月1日（火）	村上　昇	豊橋市埋蔵文化財センター
	平成27年12月19日（土）	矢野健一	立命館大学教授
		村上　昇	豊橋市埋蔵文化財センター
	平成27年12月25日（金）	藤澤良祐	愛知学院大学教授
東下地遺跡	平成27年12月25日（金）	中野晴久	愛知学院大学講師
		青木　修	瀬戸市文化振興財団
野添遺跡	平成27年12月24日（木）	城ヶ谷和広	愛知県立知立東高校校長
権六遺跡	平成28年1月20日（水）	中野晴久	愛知学院大学講師

発掘調査現場における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導日	指導者	所　属
川向東貝津遺跡	平成27年8月27日（木）	白石浩之	愛知学院大学教授
笹平遺跡	平成27年9月25日（金）	綿田弘実	一般財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター主任調査研究員
大栗遺跡	平成27年9月29日（火）	白石浩之	愛知学院大学教授
笹平遺跡	平成27年10月20日（火）	大塚達朗	南山大学教授
笹平遺跡	平成27年11月20日（金）	渡辺　誠	本センター専門委員
		長田友也	中部大学非常勤講師
滝瀬遺跡	平成27年11月6日（金）	増子康眞	名古屋考古学会会員
寄島遺跡	平成28年3月13日（日）	川崎みどり	安城市教育委員会臨時職員

その他普及事業

家族の絆づくり事業『家族で歴史を体験発掘！』

日時：平成27年10月17日（土）午前9時～午後4時30分
対象：小中学生とその家族
参加者：５家族（14名）
内容：
◆午前：奥三河総合センターにて土器の文様作成体験
◆午後：滝瀬遺跡（設楽町）にて発掘体験

<<貸し切りバスで移動>>

9:00豊川駅集合→奥三河総合センター…（昼食）…12:45（バスにて移動）→13:00滝瀬遺跡（体験発掘等）→15:00（バス移動）　→16:30豊川駅到着・解散



平成27年度　愛知県埋蔵文化財センター　組織一覧

運営協議会委員

足立　守	名古屋大学 PhD 登龍門推進室特任教授
稲葉伸道	名古屋大学大学院文学研究科教授
加藤正俊	愛知県都市教育長協議会会長 豊橋市教育委員会教育長
加藤安信	学校法人大同学園顧問
後藤由紀夫	愛知県教育委員会生涯学習監
都築暢也	中京大学客員教授
難波洋三	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
藤澤良祐	愛知学院大学教授

専門委員

発掘調査	赤塚次郎	元愛知県埋蔵文化財センター職員
考古学	伊藤秋男	南山大学名誉教授
地理学	海津正倫	奈良大学教授
発掘調査	小澤一弘	元愛知県埋蔵文化財センター職員
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授
保存科学	高妻洋成	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所　埋蔵文化財研究所 保存修復学研究室長
考古学	柴垣勇夫	元愛知淑徳大学教授
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷　昭	長野県看護大学教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学名誉教授
建築史学	麓　和善	名古屋工業大学大学院教授
考古学 動物学 植物学	渡辺　誠	名古屋大学名誉教授

センター長

梅本博志

副センター長

石黒立人

管理課

管理課長	鈴木孝治
主　　査	森　　清
主　　事	榊原聡史
	藁科有紀子

調査課

調査課長	宮腰健司	
統括専門員	池本正明	
主任専門員	酒井俊彦	
調査研究専門員	松田　訓	鈴木正貴
	樋上　昇	堀木真美子
	永井宏幸	鬼頭　剛
	武部真木	蔭山誠一
調査研究主任	川添和暁	永井邦仁
	早野浩二	
調査研究主事	鈴木恵介	

年報　平成27年度

平成28年3月
編集・発行　(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
印　刷　新日本法規出版株式会社